

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
 編集事務局 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
 桑山ビル8階C号室
 電話番号 (583) 19000
 F A X (583) 1910番
 http://www.cn-sho.or.jp
 info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

名誉会長あいさつ — 総会祝賀懇談会祝辞より —



名誉会長 海部俊樹

会員のみなさん、本日は誠に
 もっておめでと
 うございます。
 記念すべき令和
 元年の展覧会
 のご入賞、ご入
 選心からお慶び申し上げます。これもひと
 えにみなさんご自身の日頃のご努力、ご研
 鑽の結果であると思います。また、本日こ
 こにご参列いただきましたご来賓の皆様方
 にも篤くお礼を申し上げます。有難うござ
 います。
 本日は役員の改選ということで、理事長
 も交代することになりました。二年間では
 ございましたが、関根玉振理事長、お役目
 ご苦労さまでした。会の運営には、常に新
 しい風が必要で、とはいっても、今後も、
 その高い見識をもって新しい理事長の
 腕を見守ってやってほしいと思います。
 さて、本会では、ご長寿出品者の顕彰を
 行っており、本年も、昭和・平成・令和と
 三代にわたって活躍の、ご長寿出品者の
 方々が元気にご出席と伺っています。まだ
 まだ私も負けてはいられない、政界をしっ
 かりと見続けていかなくては、と意を新た
 にしております。

ところで、今回の中日書道展では創立八
 十五周年記念事業として、漢字研究の
 第一人者であった、故白川静先生の偉業を
 紹介する特別展示や記念講演会がおこな
 われ、大盛況であったと聞き及んでおりま
 す。また、改元を記念して、大化から令和ま
 での全ての元号を網羅する元号展も同時に
 開催され、これまた好評を博したとも伺
 っております。いずれにせよ、書道、書道文
 化の啓蒙と普及に大いに役だったことと頼
 もしく思います。

最後に、書道文化を担う会員の皆様方
 は、書道を通じて、社会教育、学校教育の
 活動、作品制作、文字文化の振興に、さら
 にお力を注いでくださいますよう、頑張
 ってくださいますよう祈念いたします。



名誉会長あいさつ代読の
名誉副会長 安藤滴水先生

目次

- 1 名誉会長あいさつ
- 2 新理事長に就任して
- 3 令和元年度総会
- 4 第六十九回中日書道展入賞・入選者祝賀懇談会
- 5 祝賀懇談会へ来賓出席者名簿
- 6 令和元・二年度 新役員
- 7 令和元・二年度 新企画委員
- 8 長寿お祝い顕彰者
- 9 名誉顧問田宮文平先生を悼む
- 10 中部日本書道会創立八十五周年記念特別展示を終えて
- 11 第六十九回中日書道展審査総評
- 12 受賞者紹介 海部俊樹賞・大賞・準大賞
- 13 中日賞・桜花賞作品評
- 14 その他の入賞者
- 15 第六十九回中日書道展当番審査員
- 16 第六十九回中日書道展を終えて
- 17 令和元・二年度 新事務局
- 18 協賛会員一覧
- 19 令和元年度総会・理事会
- 20 令和元年度総会議案書(抜粋)
- 21 令和元年度公開講座のご案内

新理事長に就任して



新理事長
伊藤仙游

この度の改選により思いがけず、公益社
 団法人 中部日本書道会理事長の大役を仰せ
 つかりました。昭和九年創立以来八十五周
 年を迎える本会の、幾多の先達が残された
 輝かしい業績を思い、その責務の重大さに
 身の引き締る思いが致します。

私は本部事務局では事業部長を永く務め
 ましたが、その間榎本樹郎先生をはじめと
 する歴代の理事長の、多岐にわたるご見識
 と采配の見事さには、常に感服致してお
 りました。

浅学非才の私には皆様にあふくもあり
 ませんが、この経験を生かして自分なりに
 責務を全うしたいと存じます。

IT化、少子化など書を取り巻く環境は
 厳しいのですが、「書」という芸術が更に豊
 かに発展を遂げるために、私達書に携わる
 者達の努力が必要です。鑑賞者を増加させ
 するための展示方法や内容の工夫、参加型イ
 ベントにより書の楽しみ方を知らしめるな

ど、様々な方法が考えられます。

本年が創立八十五周年、来年は中日書道
 展が第七十回の記念展を迎えます。また来
 年度は東京オリンピックも開催されます。
 この得難い機会に書の裾野を拡げられるべ
 く、記念行事の開催を予定しております。会
 員の皆様には本部・支部の隔てなく積極的
 にご参加いただき、また、広く一般の方々
 も興味を持っていただける行事にしたいと
 存じます。皆様方の絶大なる御協力を心か
 らお願い致します。

公益社団法人 中部日本書道会 の更なる発
 展のため、副理事長、理事の先生方、企画
 委員の皆様御協力をいただき、歴代の理
 事長が提唱されております「和の精神」と
 「皆のため」を指針として懸命に努力してま
 いります。皆様方のご理解・ご支援・ご協
 力の程よろしくお願い申し上げます。

協力実施署名団体



つなごう日本の書道文化
 ユネスコの無形文化遺産に



日本書道 九九六部会連合会

令和元年度 総会

第69回中日書道展入賞・入選者祝賀懇談会

祝賀懇談会を開催して

厚生部長 古川昇史

令和元年六月十六日(日) ホテルナゴヤキャッスル天空の間に於いて令和元年度総会、第六十九回中日書道展祝賀懇談会が開催されました。

開会の前に津軽三味線の撥を叩き付けるように弾く力強く迫力ある演奏にみな聞き入った。その余韻の中で、理事会の座長を務めていただいた山内江鶴先生より、令和元年・二年度の理事長・伊藤仙游先生、副理事長・岡野楠亭先生、松下英風先生、加藤裕先生の発表がありました。長年この会を運営協力していただいた前理事長関根玉振先生に新役員より花束が贈られました。

岡野楠亭副理事長の閉会の言葉で盛大なる祝宴が始まりました。

最初にご都合で欠席されました海部俊樹名誉会長よりのお祝いのメッセージを、安藤滴水名誉副会長が代読されました。「書道を育み、発展させるため、世界遺産登録をめざし、みなさんのご理解とご協力をおねがいしたい。」とのお言葉を賜りました。

続いて、来賓の皆様を代表して、愛知芸術文化センター総長神田真秋様、中日新聞社取締役事業担当鷲見卓様、書道文化研究家西嶋慎一様より、創立八十五周年記念特別展示(白川静 文字研究のすがた)、講演会、元号の展覧などそれぞれ熱い

お言葉を戴きました。

続いて、来賓のご出席者十五名のご紹介後いよいよ東海テレビ放送取締役事業局長山口貢様の乾杯のご発声で祝宴が始まりました。

その後、米寿を迎えられました四名の皆さんに、樽本樹郎名誉会長代行より花束と記念品が贈られました。ご健康で益々のご活躍をお祈りいたします。

二時間余の宴も、松下英風副理事長の閉会の辞により、八六五名のご出席頂きました祝賀懇談会を盛大なうちに無事終えることが出来ましたこと、心より御礼申し上げます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



清興 津軽三味線

祝賀懇談会ご来賓出席者名簿

| | | |
|-----------------------------|-------------------|-------|
| 本会名誉顧問 | 愛知芸術文化センター総長 | 神田真秋様 |
| 本会名誉顧問 | 衆議院議員 (代理 栗本実樹男様) | 江崎鐵磨様 |
| 本会名誉顧問 | 書道文化研究家 | 西嶋慎一様 |
| 本会名誉顧問 | 中部電力株式会社 元代表取締役会長 | 太田宏次様 |
| 本会名誉顧問 | 中日新聞社 取締役事業担当 | 鷲見卓様 |
| 中日新聞社 事業局長 | | 澤田敬介様 |
| 中日新聞社 事業部長 | | 寺尾晶子様 |
| 中日新聞社 文化センター局長兼総務部長 | | 吉田哲夫様 |
| 中日新聞社 広告二部部長 | | 山田雄一様 |
| 東海テレビ放送 取締役事業局長 | | 山口貢様 |
| 東海テレビ放送 事業局ゼネラルプロデューサー | | 加藤昭宏様 |
| 立命館大学名誉教授 白川静記念東洋文字文化研究所 所長 | | 杉橋隆夫様 |
| 司法書士 | | 興水城治様 |
| 税理士 | | 谷田義弘様 |

(順不同)



愛知芸術文化センター総長 神田真秋様 ご祝辞



中日新聞社取締役事業担当 鷲見卓様 ご祝辞



書道文化研究家 西嶋慎一様 ご祝辞



東海テレビ放送取締役事業局長 山口貢様

新役員のご紹介

新常任顧問

関根 玉振

新顧問

伊藤 暁嶺
梶山 夏舟

木俣 紫香
平松 采桂

令和元年・二年度役員

※新は新役員

名誉会長代行

樽本 樹邨

理事

天野 白雲

馬場 紀行

名誉副会長

安藤 滴水
鬼頭 翔雲

新磯谷 湊流

古川 昇史

理事長

新伊藤 仙游

加藤 清州

山内 江鶴

副理事長

岡野 楠亭

後藤 啓太

山中 桂山

新加藤 裕
松下 英風

新佐野 翠峰

山際 雲峰

武内 峰敏

新廣澤 英峰

再任企画委員

総務部長

天野 白雲

第二事業部長

馬場 紀行

厚生部長

古川 昇史

庶務部長

村瀬 俊彦

研究部長

武内 峰敏

一宮支部長

第一企画部長兼工部部長

佐野 翠峰

教育部長

廣澤 凌舟

山内 江鶴

第二企画部長兼工部部長

上小倉 積山

渉外宣伝部長

川崎 尚麗

東三河支部長

第一事業部長

後藤 啓太

編集部長



新理事長・副理事長就任の先生方



伊藤仙游新理事長より関根玉振前理事長への花束贈呈



新理事長・副理事長を発表する理事会座長・山内江鶴理事

新役員の方々

※伊藤仙游新理事長挨拶は、P1に掲載



副理事長 加藤 裕

務めたいと存じます。
少子高齢化社会、未曾有の自然災害など、厳しい時代ではありますが、書道を通じて、豊かな日本文化を育み、理事長、事務局と共に会の更なる発展を目指して参りたいと思います。
明年は七十回記念展、東京オリンピックの年であり、記念展・オリンピックに関わる新たな企画を成功に導くよう、会員の皆様のご支援ご協力をお願い致します。よろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



理事 磯谷 凄聴

この度、理事という大役を拝命し、その責務の重さに身の引き締まる思いがいたしております。多くの諸先生、諸先輩が築き上げた伝統を守り、更に発展できるよう微力ではありますが全力で取り組む覚悟でございます。
さて本会は、展覧会を開催するとともに、書道教育研修会、小中学生を対象にした夏休み毛筆体験教室、公開講座、講演会等を通して、広く社会の方々の参加を呼び掛けております。公益性

を重視し、書道文化の普及を通し、文化の発展に貢献することが本会に求められています。



理事 岩田 潤流

この度は伝統と歴史ある公益社団法人中部日本書道会の理事にご推挙いただき、身に余る光栄と存じます。日を重ねる毎にその責務の重大さを益々深く痛感

会員の皆様よりご意見をいただき、書の発展に努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

し、緊張感で身が引き締まる思いです。

何分にも浅学非才ではありますが、地元でお支えいただく一宮支部の先生方との連携も大切にしながら、限りなく未来に続く斯道の発展に少しでも寄与できるように、誠心誠意努めて参りたいと存じます。

諸先生、会員の皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い、心よりお願い申し上げます。

事、経験させて頂いた事を糧として、微力ながら理事の責務を全うして参りたい



理事 山中 桂山

この度は、公益社団法人中部日本書道会の理事にご推挙いただき、身に余る光栄と同時にその重責に心引

と思えます。何卒よろしくお願い致します。

き締まる思いを痛感いたしております。

平成二十九年度より企画委員を務めさせていただいております。この経験を生かし微力ではありますが、歴史と伝統のあるこの会の名に恥じぬよう諸先生方のご指導の下、精一杯努力いたします所存でございます。どうか宜しくお願い致します。



監事 廣澤 凌舟

この度の役員改選により計らずも監事を拝命し、その責務の重大さを痛感しております。

東海三県下の多数の会派から成り立ち、この地方最



監事 水野 峯翠

この度は、公益社団法人「中部日本書道会」の監事を拝命することとなり、身に余る光栄と感謝申し上げます。八十年余りの輝かし

い歴史があり、恩師坪井正庵先生が理事長を務められた、同会の役員として関わらせて頂くこととなり感無量で身の引き締まる思いであります。

拓英峰先生、広澤凌舟両先生方にご指導、ご支援頂きながら監事の責務を果たして参りたいと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

新企画委員の方々



事務局長 横井 宏軒

ていただきました。支部におきましても四支部長が新たに就任しました。

本部事務局、八支部が連携し、多くの先賢の努力により発展してきました本会の書道の振興、地域貢献事業等を継続的に展開し、また発展していくために、事務局長として微力ではありますが、尽力してまいります。是非、皆さま各位の御理解と、御支援を賜ります様に、宜しくお願い申し上げます。

今回の人事におきまして、本部事務局は新部長二名を迎え、また各部署にも新たな次長・委員も加わっ



理事 佐野 翠峰

平成十一年四月編集部長として企画委員会の一員となり、加えて一昨年七月からは監事として本会の事業運営に関わらせて頂きました

た。この間、多くの先生方にご指導賜りました。平成十七年九月に開催された愛知万博では、本場に多くの経験を見せて頂く事が出来ました。当時、企画委員として参加された先生方も今年度は本年、理事長に就任された伊藤仙游先生、大池青岑先生他数名の先生方のみとなり、月日の早さを痛感しております。

これまでにご指導賜った

この度の役員改選により計らずも監事を拝命し、その責務の重大さを痛感しております。

東海三県下の多数の会派から成り立ち、この地方最



企画委員長

大池 青岑

この度、企画委員長を再度拝命致しました。

本会は、毎月一回の割合で企画委員会を開催しています。メンバーは理事長はじめ副理事長、事務局長、本部部长、支部長の総勢三十名で構成し、事務的な業務にかかわる重要な審議を

行っています。

中日書道展につきましては、数年後の会期会場や祝賀会の日程などの中長期の展望や、前回展の反省事項をふまえた改善と短期的な計画を、毎月のように話し合っています。その他、本部における各種事業や管理業務、支部からの要望や活動報告を受け、各部の連携を図りながら運営を進めています。



第二経理部長

磯谷 凄聴

この度、第二経理部長の任務を受けることとなりました。会員四千名を有する本会の基幹となる経理を担当するという責任の重さを痛感し、改めて緊張感に身の引き締まる思いです。

本会には中日書道展、書

きぞめ展、寿展という展覧

会活動、また広く書道文化の普及を図る書道教育研修会、夏休み毛筆体験教室、公開講座、講演会等を企画し、開催しています。それらの行事が円滑に運営され、成功させることができよう、力を注いでまいります。



褒賞部長 水野 峯翠

この度、褒賞部長を仰せつかりました。思いもよらないことに戸惑いと共に身の引き締まる思いであります。

武内峰敏先生、工藤俊朴先生の下、褒賞部の仕事に携わらせて頂いて参りました。書初め展、中日書道展の授賞式を円滑に無事終えることの大切さ大変さを身をもって感じてきました。輝かしい受賞の方々のお慶びを卒なくお手伝いできるよう、次長、委員と共に、微力ながら精一杯努めさせていただきます。何卒ご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



第一経理部長

田中 修文

このたび第一経理部長を拝命し、その責任の重大さを痛感しております。公益社団法人中部日本書道会の経理担当として安定的かつ継続的な公益目的事業の実施、事業費・管理費の適切な確な管理運営に努めたいと存じます。

会計は法人活動に関する

情報をまとめ伝える手段であり、活動の成果を測り、意思決定に有用な情報となります。中部日本書道会諸規定、会計の処理基準および区分処理会計の徹底などの公益法人会計基準を遵守していく所存です。

第一経理部の次長・委員の方々および第二経理部長磯谷先生をはじめ次長・委員の方々と連携を図り、微力ながら精一杯力を尽くしてまいります。何卒、ご支援、ご協力の程よろしくお願いたします。



会員部長 内田 翠径

令和元年という新年号の記念すべき年に、会員部長を拝命いたしました事、大変光栄に存じます。

会員部では、会費徴収管理と二年に一度の会員名簿の作成が主な仕事となります。会員名簿に関する情報は、会員皆様の個人情報

こととなる為、個人情報の保護には留意していかなければと思っております。

私どもに課せられました会員部長としての新任務に誠心誠意最善を尽くし、微力非才な自分が早く大先輩方のような立派に仕事のできる存在になるよう努力していく所存です。

会員部員一同が一丸となつて確実に職務を遂行していけたらと思っております。皆様の御支援や御厚情を賜われれば、心強いばかりです。



記録統計部長

山中 桂山

この度、記録統計部長を拝命し身の引き締まる思いでございます。伝統ある公益社団法人中部日本書道会

の展覧会事業や教育事業および重要な会議の議事録などを、将来のため正確に記録していくつもりです。

新体制のもと企画委員の方々のご指導を仰ぎ、また次長、委員の皆様にご協力をいただきながら責務を担たして行く所存でございます。何卒宜しくお願申し上げます。



西三河支部長
加藤 松雲

本年二月に開催された西三河支部会員集会において、支部長の指名を受けました。もとより歴代支部長の功績には遠く及びませんが各先生方のご指導を仰ぎながら支部の運営に努めたいと思っております。支部

会員数も約三百五十名と減少傾向にありますので、今後の会員の増加が大きな課題となっております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。支部の事務局員は優秀なメンバーに恵まれ、役員数の減少にも関わらず、明るくたくましく運営ができることを願っております。本部との連携を大切に、支部運営にも絶大なご協力をいただきながら事業の遂行に努めたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



濃飛支部長
三野島凌雲

この度は、濃飛支部長を仰せつかりました高山市の三野島凌雲でございます。前任者の石原馨風先生が三期六年間、支部の効率的な運営と、会員相互の親睦と書道の高揚に努めてくれました。その後任として微力ではありますが、精神的に活動を

進めて参りたいと存じます。濃飛横断自動車道やりニア新幹線中津川駅の整備完了までは、移動時間の短縮は先の話ですが、会員間の親睦と書道の高揚に向け、効率的な運営と会員増に向けた取り組みを行います。この地域には、能書家の山岡鉄舟・丹羽海鶴など文人等の書が多く残っている他、史跡・名勝が多く残る伝統文化地域でもあります。濃飛支部長として、地域書道文化の向上など中身の濃い活動に努める所存でございますので、諸先輩方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



北勢支部長
伊藤 艸亭

昭和六十二年に北勢支部が発足して以来、歴代七名の先生方が支部長としてご尽力下さいましたことに敬意を表し感謝申し上げます。その支部長の重任をこの度拝することとなりました。誠に浅学非才の身ですが、

諸先輩方のご支援を頂きながら精一杯努めてまいり所存です。現在、中日書道会には八つの支部があり、それぞれ独自に活動されています。その中でも北勢支部の会員数は少ない方で、各行事をするにあたり、参加人数の増加が課題です。その為、会員の方がお一人でも多く参加して頂けるようお願いいたします。そして今後本部のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



中南勢支部長
谷 鴻風

この度、高根桂祥先生の後任としまして、中南勢支部長に就任することとなりました。伝統ある中南勢の支部長の重任に身の引き締まる思いであります。先の支部長のようにきめ細かな運営に果して私が務まるか

不安はありますが、活気のある支部になるよう努めてまいりたいと思っております。今まで支部におきましては主に支部作品展を担当させて頂きました。そして色々経験させて頂きたく機会を得ることができました。浅学非才の身に重く感じられる大任ではございますが、本部の先生方のご指導を仰ぎ、支部役員、委員、会員の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご長寿お祝い顕彰者（出席者のみ）

- 平成三十年度中に八十八歳になられた方々
- 顧問 三神 榮軒氏
- 参与 杉江 秀城氏
- 正会員 加藤 清苑氏
- 準会員 太田 荀媪氏



ご長寿お祝 顕彰者の皆様

改組新第六回日展 審査員

- 新理事長 伊藤 仙游 先生（新審査員）
- 評議員 吉澤 劉石 先生（新審査員）

「名誉顧問 田宮文平先生を悼む」

名誉顧問 西嶋 慎一



田宮文平先生が亡くなった。六月十四日、急性骨髄性白血病のためであった。

この病を発病されたのは一昨年春であったかと思う。その後治療を重ね回復され、お元気になられたかに拝したが病魔は手放さなかった。残念である。

公益社団法人中日書道会は、平成十二年九月より田宮先生に名誉顧問をお願いし、中日展の講評をいただくなどご指導を得て来た。ここに会を代表し哀悼の意を表したい。

ちかごろ「書壇」がさしんでいる。壊れ行く気配すら見える。かつて書家とは古典に通じ、古典に則る技法の練磨を積んだ人達のことであった。その条件を満たす人が書家として社会から認められて来た。

しかし、この基準がゆるんではいまいか。田宮先生はこの兆しを心配しておられた。

ご自身、ご尊父が書の専門家中墓青陵先生であった環境に育ち、小さい頃から書壇の事情に精通される立場におられた。その後、美術雑誌の編集に長く従事され、

広く美術、特に現代美術の推移に通曉され、その背景の上に現代書道のあるべき姿を模索され発言を続けておられた。

この様な環境と資質から発する田宮先生の評論は説得力に富み、書壇の人々に広く受け入れられていた。それだけに書壇の権威がゆらぎ、崩壊の兆しを示す現状に危惧を持たれたのは当然のことと思う。

田宮先生の数ある評論やかかわった事業の総てを紹介することは、限られた紙幅では不可能である。代表的なお仕事の一つを採り上げ、私は田宮先生を顕彰したいと思う。

一九九八年七月、毎日書道展はその第五十回展を記念して特別展を企画した。「墨魂の巨匠——現代の書五十年」展がそれである。東京は上野の森美術館で、京都は京都市美術館での開催であった。この展覧の構成は田宮先生をはじめ七名の顧問団による。いずれも公私の美術館長を務められ、美術評論家としても斯界の権威な錚々たる顔ぶれが並ぶ。

しかし、展覧の構想、作家と作品の選定に当っては、田宮先生が主導したと察するに難くない。ここに田宮先生の書道、特に現代書道を見通す総てがこめられていると思う。

新古典派の系譜(漢字)、現代の雅(かな)、現代文の書の系譜(近代詩)、現代空間への問い(少字数、前衛書)、書の立体表現(篆刻、刻字)、文人・画人の書、この六つの章建ては、すなわち近五十年の書道を見通す評論であった。

新古典派の視点によって、戦後書道における漢字書を蘇生させた発想は美事である。詩文書や少字数、前衛書を現代における書表現の一体系として提案した論断には敬服する。

作品の選択も、夫々の作家の代表作として提案され貴重である。

村上三島・陸放翁暁曉詩の選択に、若書きに過ぎると村上先生が難色を示すと、いや!!先生の代表作の一つはあれです、と強く主張して決定する。この逸事に田宮先生の見識の高さが表われている。

最後に私の個人的な感懐を許されたい。昨年五月十一日であった。ある地方書道展選考の場に、田宮文平、麻生泰久両氏に私も同席した。麻生氏の酒が進む姿を田宮先生は楽しんで眺めていた。その丁度一週間後、麻生

氏は心筋梗塞を発し急逝された。

田宮、麻生両氏は歳が近く、兄弟の友誼を思わせる親友であった。田宮先生が白血病を発病された節、麻生氏は自分の骨髄を治療に利用してくれと主治医に申し出たと聞く。麻生氏の急逝は田宮先生にこたえたらう。

いま彼岸で両名が親しく語り合っていると思えば、私の悲しみも軟らく。謹しんでご冥福を祈りたい。



昨年、第68回中日書道展をご観覧の田宮文平先生

公益社団法人 中部日本書道会 創立八十五周年記念特別展示を終えて

第二企画部長兼IT部長 上小倉 積山

中部日本書道会は本年度で創立八十五周年を迎えることとなりました。その節目の年を記念し、第六十九回中日書道展において、「どうして漢字はその形?」白川静文字研究のすがた」と題して特別展示が開催されました。

白川先生は、わが国における漢字研究の第一人者であり、六十余年およぶその研究成果を大冊三部(『字統』・『字訓』・『字通』)に編纂し、漢字研究というものを広く世の中に理解せしめた人物であります。白川先生は、数万片の甲骨資料を全てトレースして書き写すといった大変に困難な作業の末に、後漢の許慎『説文解字』の誤りを正すなどの多大な研究成果を残されています。その白川先生のご研究の一端ではありますが、立命館大学のご協力を得て甲骨のトレースや肉筆原稿等、数多くの貴重な資料を展示することが出来ました。いずれの展示品からも白川先生の苦難の研究足跡を伺うことができ、改めてその偉業の大きさを感ずることが出来ました。また白川文字学関連の展示として、漢字の成り立ちを画工の金子都美絵先生が、誰にでもわかりやすい形で解説をしたパネルもならべられ、漢字にあまり関心の無かった人々にも興味深く鑑賞していただく



特別展示風景

ことが出来ました。また、白川先生が実際に揮毫された書や数々の表彰状なども展示されました。中でも小学校一年生の時に揮毫された「チユウギナ人」からは先生の何事にも真正面から取り組まれたお姿を見ることが出来ました。さらに文化勲章や文化功労者表彰などの展示品や先生が日常的に使用されていた愛用品なども、ご家族からお借りすることが出来、先生のお人柄を僅かではありますが知ることが出来たのではないのでしょうか。

中部日本書道会は、文字を書いて表現することを主たる目的としています。しかし、今回の白川先生の展示を機に、何故文字はそのような形をしているのか、どのような変遷の過程があったのかを考えながら、作品制作をしてみる事も新たな試みではないでしょうか。書写教育においても、漢字の成り立ちを知ることにより、どの点画が文字のどの部分を構成しているのかを意識して書くようになり、やがては一点一画をとっても大切に書くことに繋がっていくのではないのでしょうか。今回の展示は、そのような年齢層の子供達にも関心を持って観ていただけるように、漢字の成り立ちをクイズ形式でパネル展示としたコーナーもつくりました。日常何気なく使っている漢字を少し興味深く観ていただけたようでした。また、漢字の起源に関する資料として甲骨や青銅器も展示され、日頃みる事のない文字のすがたを多くの来場者に見ていただく事が出来ました。

今回の特別展示を記念し、六月十五日



高島敏夫先生



講演会風景

(土)に「師という文字の成り立ちとその変遷」と題し、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所客員研究員の高島敏夫先生にご講演をいただきました。会場満席の約二百人の参加者で開催することが出来ました。白川文字学の継承者である高島先生のご講演は、我々がその学問の奥行きの高さや難解さを知る上で十分すぎる内容であり、改めて白川先生の偉大さを感じる事となりました。皆様方のご協力のお蔭を持ちまして実現しました新たな試みとしての今回の特別展示が今後の中部日本書道会の発展に少しでもお役に立てたらと思っております。有難うございました。



高島先生 特別展示ご高覧

中部日本書道会創立85周年記念

第69回 中日書道展

漢字、かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字



〈特別展示〉 「どうして漢字はその形？」 — 白川 静 文字研究のすがた —

愛知芸術文化センター8階

協力 立命館大学図書館、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所

愛知県美術館 ギャラリー

愛知芸術文化センター 8階
6月12日(水)~6月16日(日)

審査顧問、特別出品、一科審査会員、
二科審査会員、依頼作品
海部俊樹賞、大賞、準大賞
〈特別展示〉 創立85周年記念特別展示

午前10時から午後6時
14日(金)は午後8時まで
最終日の16日(日)は午後4時まで

名古屋市栄 ギャラリー

6月11日(火)~6月16日(日)

無鑑査作品
(かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字)
(中日賞、桜花賞を含む)
〈特別展示〉 第69回中日書きぞめ展
優秀作品(上位83作品の展示)

午前9時30分から午後6時
最終日の16日(日)は午後4時30分
まで

電気文化会館 東・西ギャラリー

6月11日(火)~6月16日(日)

無鑑査作品
(漢字)
(中日賞、桜花賞を含む)

午前10時から午後6時
最終日の16日(日)は午後3時まで

名古屋市 博物館

6月18日(火)~6月23日(日)

一科作品
午前9時30分から午後5時

6月26日(水)~6月30日(日)

二科作品
午前9時30分から午後5時
最終日の30日(日)は午後3時まで

主催/公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社 後援/愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市、各教育委員会

第六十九回中日書道展
(中部日本書道会、中日新聞社主催)が十二日、名古屋・栄の県美術館ギャラリーで始まった。会の創立八十五周年を記念して、漢字の成り立ちを分かりやすく説く特別展示も設けている。十六日まで。

同会は、約四千人の会員がいる中部地区随一の書道団体。メイン会場の県美術館をはじめ、市民ギャラリー栄(十一、十六日)、電気文化会館(同)、市博物館(十八、二十三、二十六、三十日)の四会場で、東海三県の会員を中心に高校生から九十代の漢字、仮名、篆刻作品など四千点を展示する。

このうち県美術館では、名譽会長代行の樽本樹恵さんの作品をはじめ六百十二点が並ぶ。最高賞の海部俊樹賞に選ばれた田代青穂さん(阿久比町)は行草体の漢詩を、二字以上続け書きする連綿の技法を用い、

伸びやかに表現している。特別展示は、漢字研究の第一人者、故白川静さんの研究業績を基に、漢字の歴史や成り立ちを紹介する資料やパネルを置いた。

の線一本一本に命を込めた書道家の思いを感じ取ってもらえればうれし」と会場を呼び掛けた。入場料は各会場共通で三百円。高校生以下は無料。(小島哲男)

命込めた書思い感じて

中日書道展「漢字テーマ展示も



第69回中日書道展開幕 (愛知県美術館)



元号展 大化から令和まで (市民ギャラリー)



一科風景 (名古屋市博物館)



入賞作などが壁一面に展示された会場—いずれも名古屋・栄の県美術館ギャラリーで



漢字の成り立ちを紹介する特別コーナー

出品数一覧表

| | 一部 (漢字) | 二部 (かな) | 三部 (近代詩文) | 四部 (少字数) | 五部 (篆刻・刻字) | 出品点数 |
|-------------|----------------------|--------------------|--------------------|-------------------|------------------|----------------------|
| 審査顧問 | 8 ⁰ | 0 ⁰ | 2 ⁰ | 0 ⁰ | 0 ⁰ | 10 ⁰ |
| 特別出品 | 0 ⁻¹ | 0 ⁰ | 0 ⁰ | 0 ⁰ | 0 ⁰ | 0 ⁻¹ |
| 一科審 | 297 ¹¹ | 68 ⁻² | 57 ⁻² | 36 ⁰ | 21 ¹ | 479 ⁸ |
| 二科審 | 397 ⁻¹⁴ | 84 ⁷ | 110 ⁻³ | 35 ⁻² | 25 ⁻³ | 651 ⁻¹⁵ |
| 依頼 | 301 ¹ | 57 ⁻³ | 71 ⁻⁹ | 20 ¹ | 24 ⁻¹ | 473 ⁻¹¹ |
| 無鑑査 | 303 ⁻³⁰ | 62 ⁵ | 82 ⁻⁷ | 24 ² | 24 ⁻⁴ | 495 ⁻³⁴ |
| 無鑑査 ~21歳 | 3 ² | 0 ⁰ | 1 ¹ | 0 ⁰ | 0 ⁰ | 4 ³ |
| 一科 | 420 ⁻⁴² | 74 ⁻⁸ | 134 ⁻⁴ | 38 ⁴ | 53 ⁻⁶ | 719 ⁻⁵⁶ |
| (18~21歳) | 49 ¹ | 0 ⁰ | 17 ⁻⁵ | 2 ² | 0 ⁰ | 68 ⁻² |
| (15~17歳) | 4 ¹ | 0 ⁰ | 0 ⁻² | 0 ⁰ | 0 ⁰ | 4 ⁻¹ |
| 二科 | 337 ⁻¹⁴ | 73 ⁻¹⁰ | 97 ⁻⁸ | 32 ⁻⁶ | 49 ¹⁴ | 588 ⁻²⁴ |
| (15~21歳) | 319 ³⁶ | 5 ⁰ | 132 ⁸ | 7 ⁻⁹ | 4 ⁻¹ | 467 ³⁴ |
| 出品合計 | 2,438 ⁻⁴⁹ | 423 ⁻¹¹ | 703 ⁻³¹ | 194 ⁻⁸ | 200 ⁰ | 3,958 ⁻⁹⁹ |

鍛練主義の徹底を

第六十九回中日書道展を観て



名誉顧問 西嶋慎一

例年になく盛り上がりの多い中日書道展であった。

白川静先生の文字学を説き明かす「どうして漢字はその形」の特別展示が、良き刺激となりはしなかったか。

市民ギャラリーの「大化」に始まり「令和」に至る全元号を、役員が分担して書いた試みも面白かった。令和が整った楷書で公表されて以来、とみに筆文字に注目が集まる。筆文字の効用に社会が突然気付いたのかしらと思う程、各地で令和墨書が発表された。

平松紫雲は「初春令月 氣淑風和」と出典となった万葉集巻五を充実した筆で書く。篆刻の岡野楠亭は「令和」朱文二字を、しかも大和古印に做って刻す徹底振りで脱帽であった。

今回展では題材にこだわりを見せた作が目についた。土屋陽山はいつもの如く菜根

譚で、読むことを期待して丹念に書き上げていた。配下の川崎尚麗も菜根譚で、若いだけに筆が華やぐ。

中林露風の五言句末の二字「故林」のたずまいは出色だ。黒田玄夏「田宮明子のうた」は、筆が明るく、最後の一字「か」は存在感がある。

安藤滴水は「北原白秋詩」で詩文書を制作する哲学を語る。加藤裕「長谷川権句」は、安藤の哲学と正反対の表現法だ。体言止めの句を好む資質にこの作者の理想をうかがうことが出来よう。後藤啓太「山口誓子句」は真正直な詩文書を目指している。ひたむきさが好ましい。大島緑水と佐野翠峰も同列。原田凍谷と武内峰敏は言葉に振りまわされてはいないか。

樽本樹郎は重厚にして自由。相い反する世界が同居する。関根玉振は珍らしく東坡調で樽本を追う。鬼頭翔雲は例の如く性霊集の一節。何か意図があるのだろう。横井宏軒の隸書はまとまりを見せて来た。新事務局長の役職が、この作家をいっそう磨き上げるだろう。

新理事長の伊藤仙遊の作には風格があり、押し出しが良くなった。筆を鎮めて密度を出したい。松下英風は骨格に秀れたものを見せる。大池青岑は王鐸に做ったと思いが、もつと書きこみたい。

後藤汀鶯は才筆、梶山夏舟も同断、グッと迫るものが欲しい。伊藤昌石は筆を鎮めたい。

山本雅月「金槐和歌集」は筆の運びに牙えを見せる。馬場紀行「万葉集・令和」は肩の力が抜けた好ましい世界。才筆が生きて来た。加藤矢舟「万葉集」は自由な世界。

海部俊樹賞の田代青穂は鍊度が高い。章法に秀れている。篆刻の吉原愛璃は刀が良く切れている。構成もそつが無い。

準大賞では、伊藤谿石、畑裕子、前野樹風の作に牙えがあった。詩文書の達美峰、土川青翠、大沢真弓の仕事も評価できる。弼舟紅のネットリした筆の味わいも楽しめる。少字数は分野として少し低調ではないのか。思いつきでは作品にならない。運筆の練度を上げて欲しいと願うのは、私

一人ではないだろう。

かなでは前田奈津子が出色、大嶋由美子の闊達な連綿も楽しめた。

中日賞では、長谷部翠峰、大矢大月、谷本藤男、柴田真由美の作が好ましい。

鍛練主義の成果を問う。公募展の審査基準はこのことにつける。筆を持つ生業として、鍛練の結果としてもたらされる運筆の確かさ、深さによって世間にアピールして行く。この原点を忘れることなく精進したものだ。



作品ご観覧の西嶋慎一先生

第六十九回中日書道展 審査総評

審査部長 松下英風

第六十九回中日書道展に入賞・入選されました皆様、この度は誠にありがとうございます。令和元年初の審査部長の大役を仰せつかり、大変光栄と共に責任の重大さから緊張の連続でありました。本年度より審査会場がウインクあいちから電気文化会館に変わり、審査日程の曜日も変更となりました。新たな事で不安はありましたが、幸い副部長をはじめ主任や委員のご協力を頂き、無事終了する事が出来ました。深く感謝申し上げます。

総出品点数は昨年より若干の減でしたが、ご指導されております先生方の深いご理解により、三九五八点でありました。審査は五月十日(金)～十二日(日)の三日間実施されました。第一日目は二科



公募作品一〇五五点より、二日目は一科作品七九一点より、それぞれ定められた入賞比率に従い選考して頂きました。最終日の特別選考は、無鑑査作品四九九点より桜花賞七十七点、その中から中日賞五点を選考。また委嘱作品四七三点より準大賞四十三点を選考。その中から、最高賞の海部俊樹賞を一部の田代青穂さんが、大賞を五部の吉原愛璃さんが、それぞれ受賞の榮譽に輝きました。審査は、全体を通して終始一貫した流れの中で進行し、各部共に公明正大にして、慎重なる選考が行われたものと思っております。作品は古典を基にし、個性的また斬新な作品が多くあり、そのレベルの高さゆえに甲乙付け難く、厳しい審査となりました。見事入賞された皆様が、誠にありがとうございます。惜しくもあと一步で目標とするところに届かなかった方にも、怯む事無く今後一層のご精進をご期待申し上げます。そして、若年層の活躍が年々増えてきており、頼もしく思っております。来年は、第七十回記念展であり、出品者の皆様方の更なるご精進とご活躍を期待しております。最後になりましたが、審査にあたりまして、ご指導ご協力頂きました全ての皆様に、心より感謝とお礼を申し上げます。



特別賞選考委員

海部俊樹賞・大賞・準大賞 受賞者紹介

〔作品評〕 片山 清州 (一部)・山本 雅月 (二部)・武内 峰敏 (三部)
水谷 海越 (四部)・鈴木 立齋 (五部)

海部俊樹賞

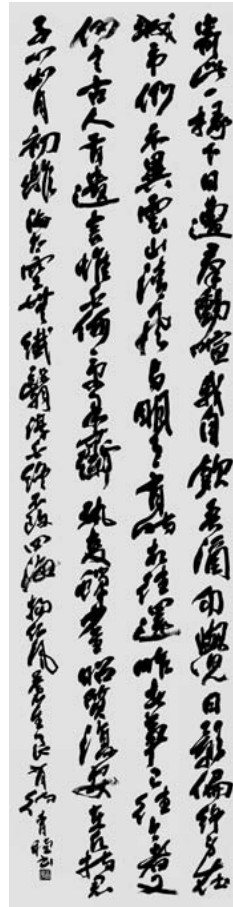
第一部 田代 青穂



この度は栄えある海部俊樹賞を賜り、誠にありがとうございます。一報を頂き喜びと驚きで胸が一杯でしたが、賞の重みがわかり、身の引き締る思いです。これも偏えに、これまでご指導下さいました諸先生方、先輩方、書友の皆様方、いつも応援してくる家族のお蔭と思います。心より御礼申し上げます。

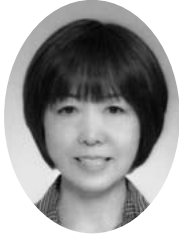
上げます。
作品制作におきまして、字の大きさと余白のバランスを心掛けました。思う様には書けず、自分の未熟さを実感しております。
今回の受賞をゴールとはせず、今後も精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕
重厚感のある文字群が行間に呼应して躍動横溢の充実作。



大賞

第五部 吉原 愛璃



この度は、栄誉ある大賞を賜り、身に余る光栄と深く感謝し又、賞の重みに身の引き締まる思いです。これも偏に、厳しくも温かく熱心にご指導くださいました師匠をはじめ、社中の皆様と家族の支えがあったお陰と、心より御礼申し上げます。
今回の作品は、金文の字形の面白さを、力強く白文印で表現しました。師匠より、篆刻の基礎は書

〔評〕
金文を用いて、力強い刀法で刻された、抜群の作品。



書線から発する強さや冴え、味わいを出すよう指導されていますが、奥深い篆刻芸術、日頃の勉強不足を痛感するばかりです。今後ともご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和元年度総会 第69回中日書道展授賞式 公益社団法人 中部日本書道会



海部俊樹賞・準大賞 (1部) 受賞者

準大賞

第一部 阿部 牧香



この度の思いがけない準大賞のお知らせには、驚きと喜びが入り混じっております。

五十代半ばで自

営を廃業し、ボケ防止のために始めた書道、教室に入つては、諸先輩の立派に書かれてい

作品制作をと思い、中日書道展に出品するようになりまし

決して達筆とは言えない私に、先生は「書

は個性と心」と励まし、こと細かに指導して

くださいました。そのおかげだと思っております。ありがとうございます。今後ともご

指導、よろしく願います。

〈評〉

洗練された筆法に加え散見する渴筆が明度と爽快さを創出している。



準大賞

第一部 伊藤 谿石



令和元年の記念すべき年に、第六十九回中日書道展において、準大賞という荣誉ある賞を賜り大変恐縮に

存じます。

これもひとえに師匠諸先輩ならびに、会の皆様方のご厚情と心より感謝申し上げます。

十年前に書道を再開し、楽しく継続して参

りましたが、この度の思いがけない受賞は夢を見ていたような感じ

新たな年号のはじまりと同時に、新たな気持ちで初心にもどり、古典臨書で改めて書き込み、頂いた賞に恥じない作品が出来るように励んで行く所存

です。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

墨量豊かにして重厚で明るさを兼ね備えた安定感溢れる作。



準大賞

第一部 大場 敏 充



第六十九回中日書道展におきまして準大賞という栄えある賞をいただき、ありがとうございます。

先生が亡くなられましたので、先生がご覧になられたらこんな風に仰られるんだろうなあと想像して作品制作をしております。

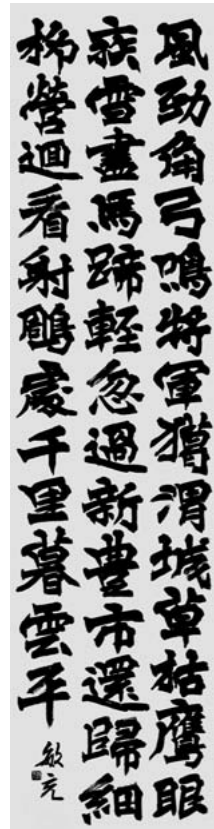
今回の受賞は、ここまで導いていただいた先生と社中の諸先輩のご指導の賜と深く感謝申し上げます。またいつも私を応援してくれ

る、書壇の先輩である母にも感謝致しております。今回の受賞を励みに、一層精進して参りますので、今後ともご指導の程よろしくお願

い申し上げます。

〈評〉

線の切れ味と闊達で巧みな筆運びが見事な清々しい作。



準大賞

第一部 河村 喜 汀



この度は、思いもよらぬ準大賞を頂き誠にありがとうございました。日常の文字をうまく書けたらと習い

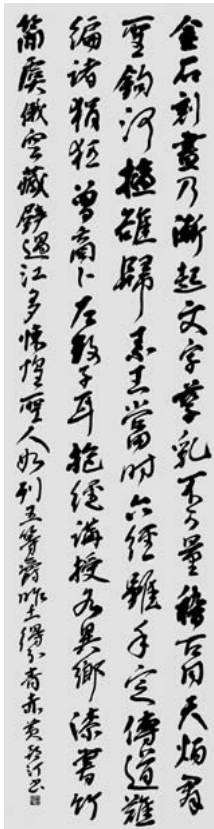
始めて十数年今日まで師匠に導かれ、諸先輩書友に励まされ続けられたことに心より感謝致します。

ここ二十年、何紹基の書風に魅せられ学んでいます。軽妙逆筆で重厚な線質は思うように書けず、まだまだ自分の未熟さを痛感しています。作品は墨量の自然の流れを意識しながら仕上げました。

この受賞を機に一層精進して参りますので、今後とも変らぬご指導のほどよろしくお願

〈評〉

字間の等しい配置構成により明度と爽やかさが表出された作。



準大賞

第一部 木澤麗川

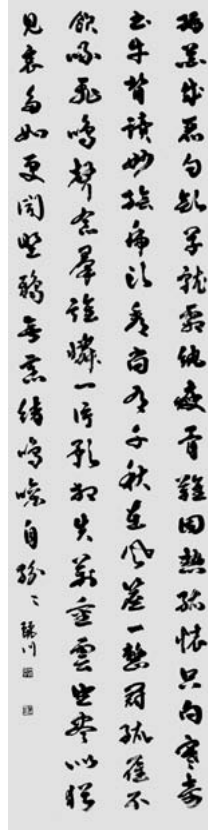


この度は榮譽ある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。これも偏に師匠はじめ、諸先生方、社中の

皆様のご指導、ご支援の賜と心より感謝申し上げます。今回の作品は、劉墉を基本に置き、限られ

〔評〕

淡々と配置され渴筆と余白が効果的で春風の如く心地よい。



準大賞

第一部 鬼頭豊寧



此の度は第六十九回中日書道展に於きまして榮譽ある準大賞を戴き誠にありがとうございます。

に師匠はじめ諸先生、諸先輩、書友の皆様のお蔭と心より御礼申し上げます。会社を定年退職後、書道会の諸先輩の進め

〔評〕

凛とした雰囲気のある作品で強い筆力と伸びやかな線質が見事。



準大賞

第一部 工藤玉州

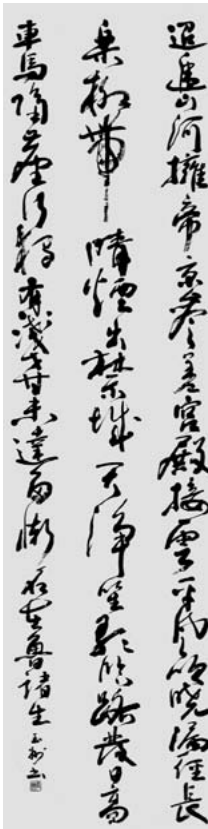


五十半ばではじめた中日書道展。この度は身に余る準大賞を賜わり誠に有難うございました。

に師をはじめ、諸先生方のご指導の賜と感謝申し上げます。師からは「気楽に楽しく書くように、そして素直な筆使いで」と何度もお

〔評〕

字間・字中の余白・空間が良く思考され巧みな筆致と構成が見事。



準大賞

第一部 熊谷石華



このたびは身に余る賞を頂き誠にありがとうございます。これも偏に諸先生方のご指導の賜物と深く感謝

申し上げます。日頃共に学ぶ諸先輩の方々にいつも励まされ助けて頂いております。師

〔評〕

墨量豊かで気負いのない自然な流れの作風で爽快な作。



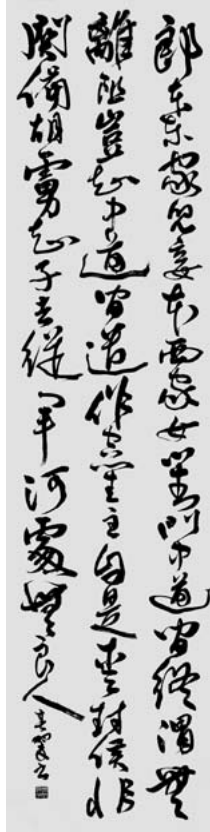
準大賞

第一部 博林春翠



この度は、準大賞受賞の思いがけない吉報を頂き、喜びと驚きで胸がいつばいになりました。永年ご指導

頂きました今は亡き師匠、直接きめ細かくご指導下さいました先生に心より感謝申し上げます。今回の作品は、墨量文字の大小、筆圧



〈評〉

文字の大小の変化が巧みに思考された重厚感のある充実作。

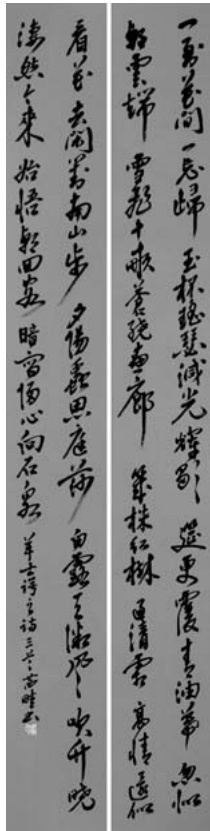
準大賞

第一部 近藤茜畦



この度は、栄誉ある準大賞をいただき誠に有難うございました。

これも偏に熱心に、そして温かく御指導して下さいました師はじめ諸先生方の御支援のお陰と、心より感謝申し上げます。遅々とした歩みの中の受賞であり、墨量、



〈評〉

筆力に富み、文字間隔を効果的に開けることにより明度を創出している。

準大賞

第一部 古塚璃幸



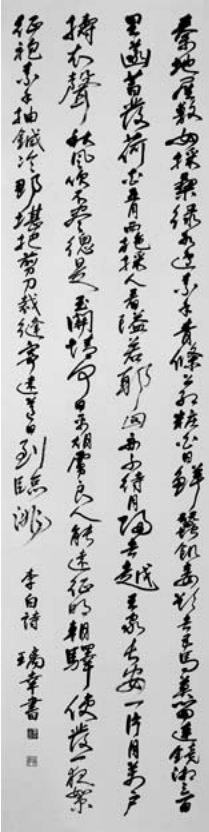
この度は栄誉ある賞を賜りありがとうございます。思いがけぬ受賞の知らせに驚きと喜びの気持ちで一杯

です。幼少時代から書く事が好きで、いつか師匠のような字が書けるようになりたいと思う一心で書道が続けて参りました。今まで続

けてこれたのも、幼少から書道教室に通わせてくれた両親と、協力してくれた家族、そして誰より永年に亘り温かくご指導くださった、ここまで導いてくださった師匠のお陰だと、心より深く感謝しております。まだまだ未熟でありますが、支えてくださる皆様にご感謝し、これからも精進を重ねて参りたいと思います。

〈評〉

水色の紙面を軽妙かつ自然な筆致で書かれた竹が風にそよぐ音の如し作。



準大賞

第一部 酒井青桐



この度は準大賞という栄えある賞を頂き誠に有難うございます。思ってもみなかった嬉しい知らせに本当

にびっくりいたしました。未熟である私がいままでやってこられたのは師匠をはじめ諸先輩の皆様そしてまわりの方々に暖かい心

で導いていただいたおかげと心より感謝申し上げます。この賞に恥ない様、また次世代に少しでも何か伝えることができます様、より一層の精進をしてみたいと思っております。

〈評〉

墨量豊かにして潤濁の変化に富んでいる格調の高い作。



準大賞

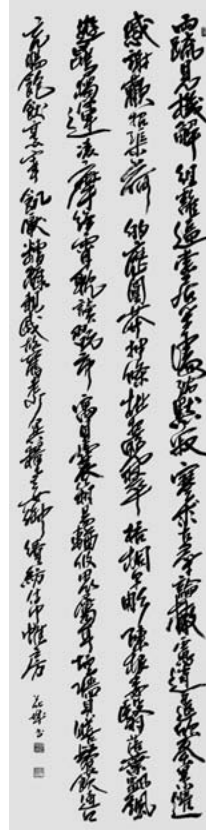
第一部 杉江花城



この度は栄えある賞を賜り、誠に有り難うございます。これも偏に指導を頂いた諸先生、諸先輩、書友の皆様のお陰であり、感謝申し上げます。物心ついた頃から筆を持たされたような環境で育つてはいるものの、書道との縁が長い

だけで実力に乏しく、今日に至っております。この度の受賞を機に、少しでも皆様のご厚情に応えることが出来るように精進したいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

統一された一貫性のある構成で爽快な線質が見事な作。



準大賞

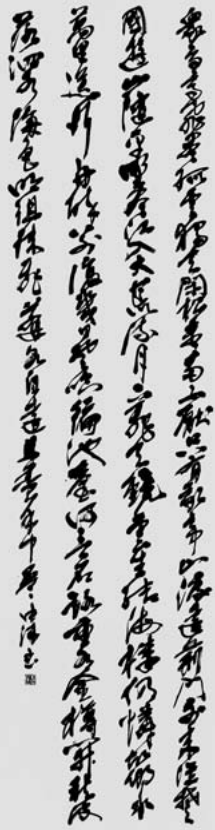
第一部 館 由津



この度は、思いもかけず栄えある準大賞をいただき、誠に有難うございます。これも偏に「継続は力」と熱心にご指導いただきました師匠はじめ、諸先生方、周りの方々の温かいご指導ご高配の賜物と厚く御礼申し上げます。

まだまだ未熟な私にとりましては、身に余る光栄と、只々身の引き締まる思いでございます。作品は、墨量や余白のバランスが思うように表現できず、力量の無さを痛感いたしました。この受賞を励みにこれまで以上に精進してまいりたいと思います。今後とも一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

所々に配置された強く鋭い線が凛々しさを醸し出している。



準大賞

第一部 鶴見翠川



中日書道展準大賞、受賞の知らせに大変驚き、ここまで指導して下さった師や、先輩方の顔が、すぐ浮かび感無量となりました。今回の作品を書くにあたり、新しい書体の勉強は、大変難しく、辞書にある様々な文字

が私に問いかけるまで、少し時間がかかりました。そして、文字を再認識する発見が、書きたい気持ちに繋がりました。しかし、縦横の線が思う様にひけない自分との葛藤でした。まだまだ努力不足ですが、今後日々精進を重ねていきたいと思っております。何卒ご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

墨量豊かで安定感溢れる雄大かつ鋭い筆捌きが見事な作。



準大賞

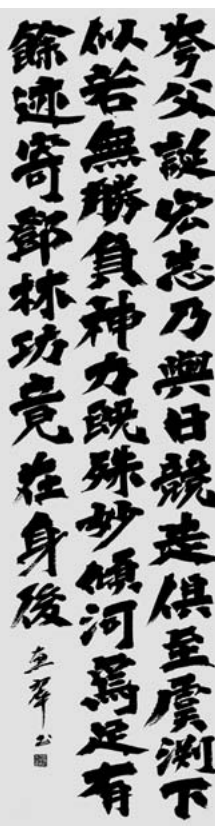
第一部 勅使河原 恵翠



受賞の祝電を手にして、心躍ると同時に、師匠や、書を通して繋がりのあつた皆さんに對して感謝の気持ち

なにも大きな賞へ辿り着くとは、本当に幸いです。作品づくりは、毎回詩の選択から始まり、文字を書き並べ指導をいただく段階になっても全て書き直しという事もあり、表現をする楽しみ苦しみ等とても奥が深いです。今後とも書の世界にかかわっていききたいと思えます。ご指導よろしくお願い致します。

重厚で安定感に富む筆力抜群の作。



準大賞

第一部 内藤 春翠

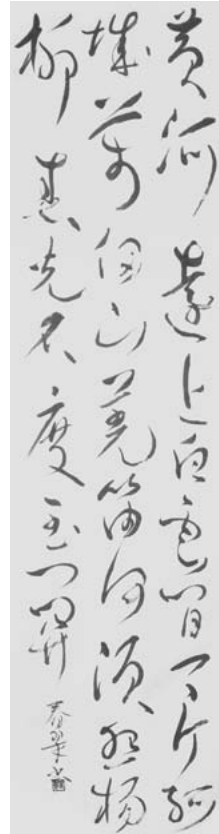


この度は伝統ある中日書道展に於きまして、準大賞という輝かしい賞を賜り感激と謝意の気持ちで胸が

識のある私に手法のみならず、根強く練習する事を一貫してご指導頂きました。また諸先生、諸先輩方の御指導や励ましのお言葉に支えられての受賞と心から感謝いたしております。「書を学ぶ」という私にとつて幸せなひとときに喜びを感じ、今後より一層努力し、この名譽ある賞に恥じぬよう書き続けていく所存です。

〈評〉

優美な線がゆつたりと空間を漂う巧みさを兼ね備えた作。



準大賞

第一部 西垣 梨雪



電報を受け取った時、驚きと戸惑いで夫と配達員さんに「ありがとう、ありがとう。」上達の早道は無し、練習あるのみ。古典を学ぶことは尊い。臨書が基本。小さく書いて大きく見せる。力強い筆線。余白の美。

今は亡き師が常々、御指導の時に口にされた言葉を胸に刻み込んで、徐渭の前赤壁賦に挑戦しました。文字の大小、墨量、筆勢に気を配ったつもりですが、納得のいく作品にはならず、未熟さを痛感しています。師や先輩方、家族に支えられ感謝。今回の受賞を励みに一層精進して参ります。有難うございました。

〈評〉

豊かな墨量と軽妙な筆致が醸し出す見事な作。



準大賞

第一部 野々村 宜子

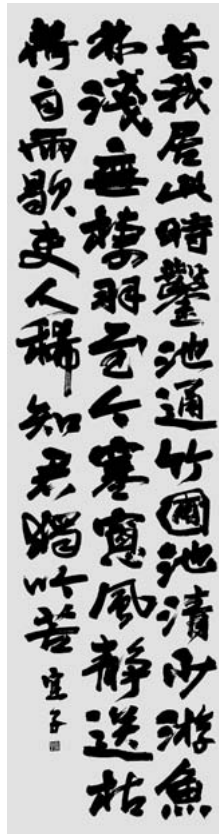


この度は榮譽ある準大賞を賜り、ありがとうございます。これも今は亡き師匠をはじめ、諸先生方や先輩方の温かいご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。この作品は梅堯臣の五言律詩で、蘇軾の疎

密を大切に、力強い線で書くことを心掛けました。そしていつでも古典に立脚し、あきのこない書を目指していきたいと思っています。これからは、この受賞を励みに更なる研鑽を積んでいき、書の深遠を感じていきたいと思えます。今後とも何卒ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

時間をかけて丁寧に書かれており、独自の書風趣きのある作。



準大賞

第一部 畑 裕子

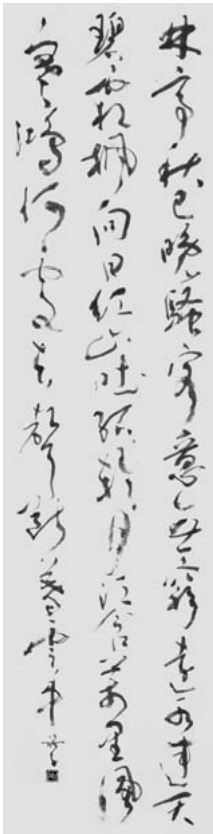


この度は、栄えある賞を頂きまして、大変嬉しく、選考頂きました諸先生方には、心より感謝申し上げます。子どもの頃に習う機会に恵まれ、続けてまいりましたが、今や書の道が、私の人生に欠

かせないものになっておりますのも、温かく導いて下さる先生方のおかげでございます。書の奥深さは、精神力を高めるものと確信し、さらに研鑽を積んでいかなければと身の引き締まる思いしております。今後とも何とぞ宜しくご指導、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。

〈評〉

気品漂う美麗でおおらかな線が優雅な雰囲気を出している。



準大賞

第一部 日比京馨



準大賞の朗報をいただき、心よりお礼申し上げます。師の門を叩いた日、中日書道展に向けて作品づくりに励んでみえる光景がとても眩しく、私もその輪の中の一員になりたいと思ったのが、昨日のことのようです。

この日を迎えられましたのも、熱心にご指導賜りました師をはじめ、温かく励ましてくださった社中のお仲間、審査にあたられた先生方、そして家族の支えがあったからこそ、感謝の気持ちでいっぱいです。広く、奥深い書の世界。これからも楽しみながら研鑽に努めて参りたいと思います。ありがとうございます。

文字が整然と配置され気脈を一貫させた気品のある作。



準大賞

第一部 深川碧水



令和元年の輝しい年に準大賞を頂き、喜びで一杯でございます。今回の作品は、多字数を筆脈が続くよう、字形を引締め書きました。書という芸術に魅せられ、無心に筆を持つ時間が至福の時であり、出品までのプロセス

が大好きです。毎年、皆さんの作品を拝見するの最大のお楽しみでしたが、受賞を新たな一歩として、古典の勉強に励みたいと思います。今後共、よろしくご指導お願い申し上げます。

確かな筆法が安定感を生み、深みの中に爽やかさを表現している。



準大賞

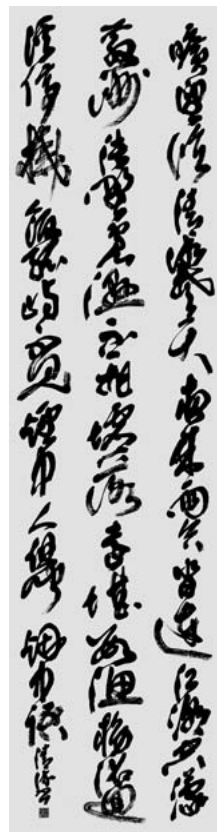
第一部 古田清流



この度は栄えある準大賞を賜り誠にありがとうございます。審査員の諸先生方に心からお礼を申し上げます。

驚きと喜びの気持ちでいっぱいです。余る光栄です。これも偏にご指導下さいました師匠のお陰と感謝しております。また、「継続は力なり」の思いで書を習い続けることができたことに対し、家族に感謝したいと思います。

作品制作にあたって文字の大小、潤渴を織り交ぜ、行間の流れと余白の美に留意しました。今後も、この賞を励みに精進してまいりたいと思います。ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。



準大賞

第一部 前野樹風



この度は、栄えある準大賞を頂き誠に有難うございました。これも偏に、幼少の頃から温かくご指導下さいました師匠をはじめ、多くの皆様方のお力添えのおかげと厚くお礼申し上げます。また応援してくれている家族の支えにも感謝して

今回は、漢詩の意味を深く考え、その詩情に少しでも近づける作品になるよう心がけました。また、何度も書き込むことで見えてくる世界を大切にしました。この賞を励みとして頂いた賞に恥じぬよう努力を重ねて参りたいと思います。これからもご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

宇宙を包含するが如くスケール大の華麗作。



準大賞

第一部 松田 穂 輝



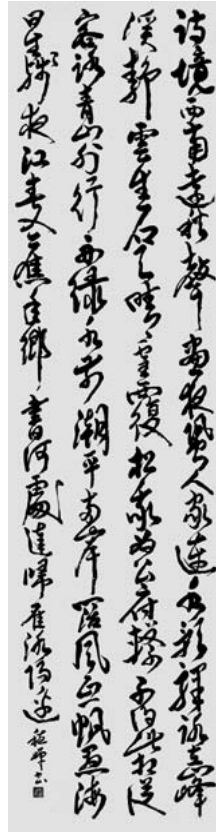
この度、中日書道展に於いて「準大賞」をいただける事となり大変感激し胸一杯です。これも偏に師匠や

諸先輩の方のご指導があったからと感謝すると共に、長く続けて来て良かったと思っております。この頃は足腰の痛みで長いこと集中

出来なかつたり、つい姿勢が悪かつたりで大きな作品には苦闘しております。これからも「おこらず」楽しみながら、そして家族や友人に支えられている事に感謝し、更に精進して行きたいと思っております。

〔評〕

等速、等圧で時間をかけてじっくり書き上げた安定感溢れる作。



準大賞

第一部 松野下 華 清



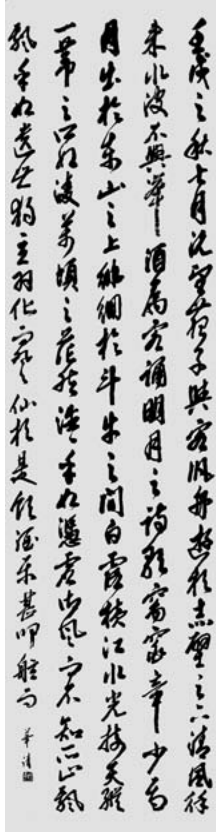
この度は第六十九回中日書道展におきまして、榮譽ある準大賞を頂き誠に有難うございました。朗報をう

け驚きと喜びで一杯でございます。これも偏に諸先生方のご厚情の賜と深く感謝しております。

まだまだ未熟で「書」の奥深さを痛感する日々でございますが、この受賞を励みに決意をあらたに一所懸命精進してまいります。今後共、御指導の程よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

〔評〕

字幅の大小を抑え直線の凛々しさと美しさを生かした明るい作。



準大賞

第一部 水田 美 泉



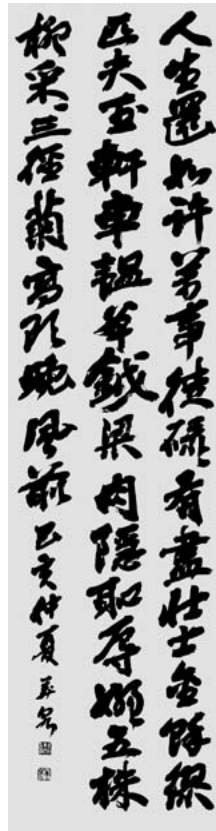
この度は、榮譽ある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。これも偏えに師匠はじめ諸先生方のご支援、そして家族のお陰と深く感謝し、心

よりお礼申しあげます。今回、趙子謙の運筆のねばり、墨量を多く

を心がけての作品でしたが、まだまだ未熟で課題が残るばかりです。この受賞を励みにして、書道が続けていける幸せに感謝をもって古典を基礎とした生きた線が出せるよう一層の精進をして参りたいと存じます。どうぞ今後共ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

墨量が豊かで重量感、安定感、立体感のある堂々とした作。



準大賞

第一部 水野 名 旺 子



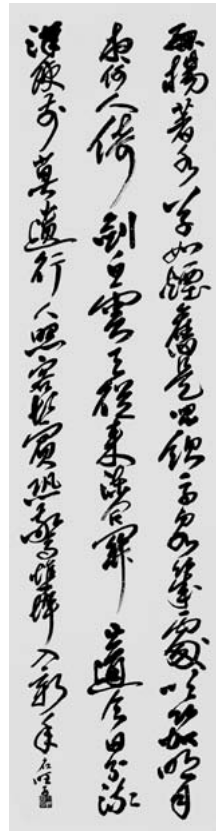
この度は、榮譽ある準大賞を頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。審査にあたられました諸先生方、こ

れまで温かく熱心にご指導くださいました先生、そして支えてくださったという教室の皆様

作品展の締め切りが近づくにつれ、焦りから、なかなか思うように筆が動きません。「字はゆっくり丁寧」に心を込めて書きなさい」と言われていますが、いつもながら未熟な作品になってしまいました。今後とも、今回の受賞を励みにし、一層精進して参りたいと思っておりますので、何卒宜しくご指導の程お願い申し上げます。

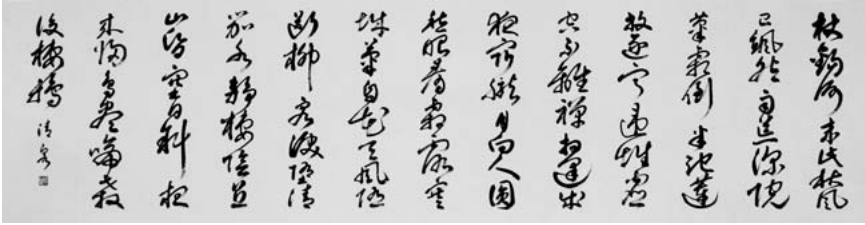
〔評〕

効果的な渴筆、墨つぎの変化に富み文字の大小と配置構成が見事。



準大賞

第一部 藤原清泉



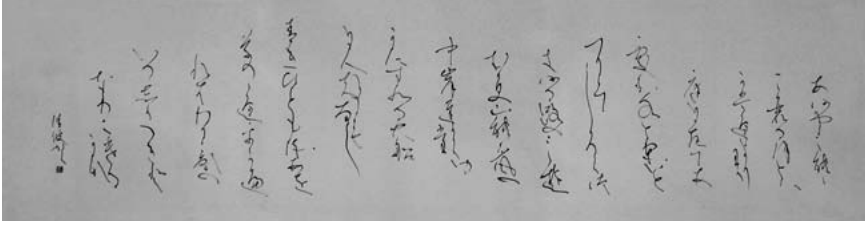
この度は、栄えある準大賞を賜り、ありがとうございます。諸先生方の温かいご指導のお陰と深く感謝しております。そして、良き先輩方に恵まれ、家族の協力も得、ここまで続ける事が出来ました。今回は、題材選びから悩み、最初は縦三行に書いていましたが、師の助言を頂き、横書きへと変え、行間のバランス、文字の大小、墨量などに気を配りながら作品を仕上げました。

この賞を励みに一層研鑽を積み、魅力的な線が表現できるような精進してまいります。後ともご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕
気負いのない素直な線質で気脈を一貫させた美しい行間作。

準大賞

第二部 鵜飼清波



この度は、思いがけなく準大賞を賜り、誠にありがとうございます。審査の先生方はじめ、亡き師匠、今ご指導を頂きます師匠、そして支えて下さいます多くの方々から御礼申し上げます。

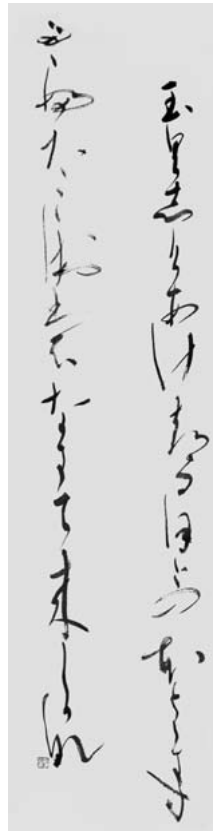
今回は、牧水の歌に合わせ、淡いブルーの料紙を選びました。そして、ゆつくり心を込めて筆を運ぶことを心がけました。力不足の作品ですが、光を当てて下さり、これからの私に活力を与えて下さいました。

初心を忘れることなく精進して参ります。ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕
洗練された筆法で横へのリズムカルな展開が美しく上品です。

準大賞

第二部 浅野多鶴



この度は第六十九回中日書道展におきまして、準大賞という大きな賞を頂くこととなり、大変恐縮しております。本当に有難うございました。

師が亡くなったからは、社中の先輩方にアドバイスや助言を受けたりしながら、書作に

向き合って参りました。そのお陰の受賞であると本当に感謝の念に堪えません。そのような先輩方について行くので精一杯ですが、先輩方を通して師の教えを学ぶことが出来ることはありがたい限りです。これからも更に精進してまいりたいと存じます。ありがとうございます。

〔評〕
流麗で二行の響き合いもよく落ち着いた風格を感じる作。

準大賞

第二部 前田奈津子



令和元年に、思いもかけない準大賞を賜りありがとうございます。自分の文字に自信がなく、きれいな文字を書きたいと云う思いから始めました。いつの間にか美しいかなに魅せられ、毎日書くことを数年にわたり頑張つてまいりました。

今回は西行の歌を題材に流れに留意して書き上げました。まだまだ未熟な私ですが毎作品事に悩みます。これを機に一層の努力を積み重ねてまいりたいと思っております。

〔評〕
行の響き合いが絶妙で余白の美しさも際立ち清々しい作品。

準大賞

第二部 大嶋 由美子

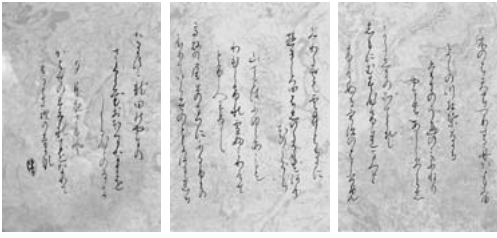
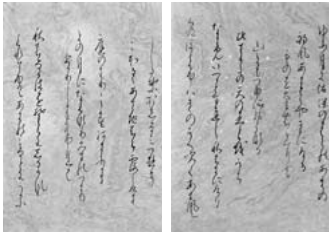


この度は、準大賞という栄えある賞を戴きまして、誠にありがとうございます。これも偏に、御指導頂きました師匠

のおかげだと深く感謝致しております。又審査にあられました先生方には、厚く御礼申し上げます。

今回は、金槐和歌集の歌を、帖十二枚に散らした作品ですが、なかなか思う様に筆が動かず、自分の未熟さを痛感するばかりでした。この様な作品に、大変栄誉ある賞を賜り、身に余る光栄に恐縮致しております。今後は、尚一層精進して参る所存ですので、どうぞ、宜しく御指導、御鞭撻の程お願い申し上げます。

〔評〕 雅な料紙に墨の濃淡を上手く布置し流麗で気品のある作品。



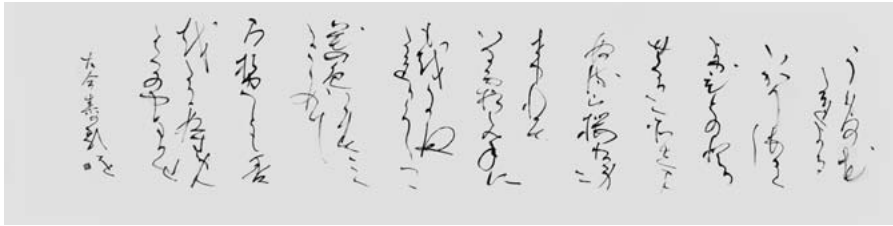
準大賞

第二部 榎原 春子



いくつになっても「ご褒美」はうれしいものです。教室で先輩や、お仲間の作品に師匠が、コメントされるのを拝見するのが私にとって一番の勉強です。「こんな線が出せたらいいな」「こんな風に散らしてみたいな」とあこがれます。さて自分で書いてみると、あこがれとはほど遠く、満足できるものではありません。師匠にアドバイスをいただいたき、線の方向ひとつで作品の表情が変わることなどを学びます。こんなことの繰り返しがこの度の賞につながったと思うと、喜びもひとしおです。

〔評〕 横への流動感と行立ての美を備え線条清らかな優美な作。



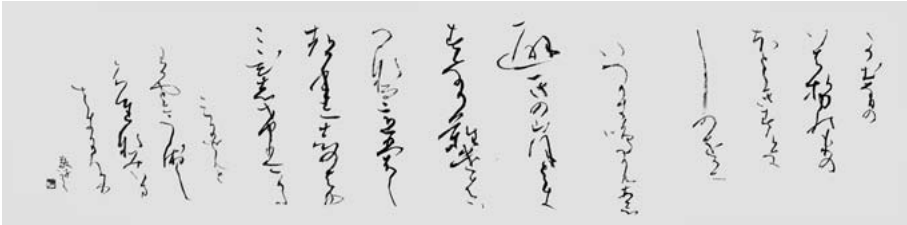
準大賞

第二部 八木 敬子



この度は、思いがけなく準大賞を賜り誠にありがとうございます。いつも熱心にご指導下さる先生に心からお礼申し上げます。

昨年秋、右肩骨折で書くことが困難になり気持ちがならず焦りと不安で悩みました。先生の「書く気になつたら頑張ればいい」という励ましの中で何とか書く事ができました。私にとってこの賞は、令和と共に新しい一歩を踏み出させてくれた重みのある意味深いものになりました。これから一層の努力を重ねて参ります。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。



〔評〕 文字の大小疎密の連綿を上手く表現し山場作りも素晴らしい作。

準大賞

第三部 今井 恭子



この度、準大賞受賞のお知らせをいただき嬉しく思うと同時に大変身の引き締まる思いです。いくつか好きな詩や歌を自分で作品にできるようになれたら素敵だな、という思いだけで長く続けてきましたが、長く続けられ続けるほど書の難しさ、奥深さを感じて自分の実力のなさを痛感しております。この度の思いがけない受賞は、諸先生方のご指導のお陰と心より感謝しております。これからも理想の書に少しでも近づけるよう、自分なりの表現で楽しみながら書き続けていきたいと思ひます。今後ともご指導よろしくお願ひ致します。

〔評〕 緩やかな連筆と工夫された構成、詩情豊かな素晴らしい作。



準大賞

第三部 大沢真弓



この度は、準大賞を頂き、ありがとうございます。師匠、書友に御礼申し上げます。

この作品には、大好きな文字、「黒」と「雪」が入っています。横書きなので、横の流れが美しく出るように工夫しました。

一本一本の線に変化をつけたかったのですが、なかなか納得のいく線が書けず、日頃の古典の勉強不足を実感しました。

これからは一層、古典の勉強をしていきたいと思えます。今後ともご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉 思い切りの良い筆致が雄大な自然のながめを生み出した。



準大賞

第三部 平松圭鳳

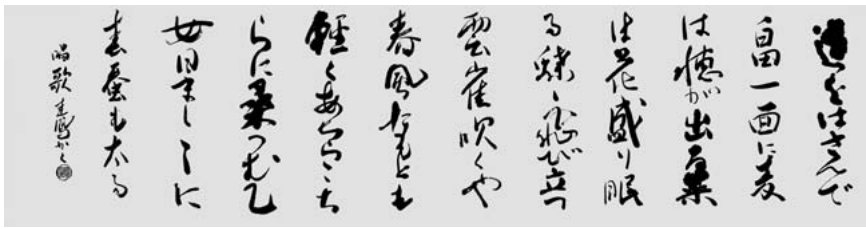


この度は、栄えある準大賞を賜わり誠にありがとうございます。熱心にご指導下さいました師匠、諸先生方、社中の皆様と家族の支えがあったお陰と感謝しております。

作品は初めて横書きに挑戦しましたが縦書きとは一味違う余白の処理に苦心しました。題材に選んだ文部省唱歌「いなかの四季」は野原を駆け廻っていた幼い頃を思い起させる様な内容で楽しく書き進む事が出来ました。

これからは古典の臨書を基本とし沢山の書物に触れ作品制作に励んで参る所存です。今後とも御指導よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉 練達した運筆がゆつたりとした素敵な行間を生み出した。



準大賞

第三部 志村峯遠

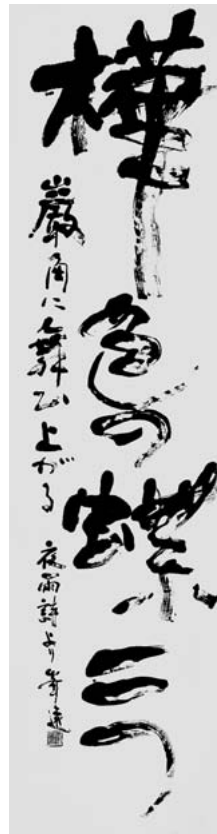


この度は思いもかけず、準大賞という身に余る賞を戴き誠にありがとうございます。

受賞の知らせを受けた時、唯々驚き戸惑い、今でも信じられない気持ちです。これも偏にいつも熱心に丁寧なご指導くださる師匠、諸先輩と心温かい書

友に囲まれ、支えていただいているお陰と感謝致しております。いけ花一筋で歩んできた私が近代詩文書に初めて出合った時、花の美しさのような魅力を感じ、現在も、書といけ花の美々を織り成しながら学んでいます。勉強不足の日々を反省し、一步一歩前進し稽古して参りたいと思います。

〈評〉 明るく暢びやかな作品。小書きも調和がとれて美しい。



準大賞

第三部 達美峰



この度は準大賞という栄誉ある賞をいただきましてありがとうございます。喜びの気持ちでいっぱいです。

ございます。これもひとえに長年にわたり温かく御指導くださいました師匠をはじめ、諸先生方、諸先輩方の励ましのお言葉のお陰です。

心より感謝申し上げます。先生方、先輩方の作品を拝見する度に、自らの勉強不足を痛感しておりますが、これからも挑戦して参ります。今後ともご指導のほど宜しくお願ひ申し上げます。

〈評〉 熟練した運筆で疎密のバランスが素敵で、見応えある作。



準大賞

第三部 土川 青翠



この度は第六十
九回中日書道展に
おきまして、栄え
ある準大賞を賜り
誠にありがとうございました。

も偏に御指導くださった師匠をはじめ、諸先生、諸先輩方のお蔭と心より厚く御礼申し上げます。

〔評〕

リズムに乗った筆致で強弱も融合して、余白の美しい作。



露風の詩

青翠

準大賞

第三部 馬場 青邨



この度準大賞を
受賞致しました、
馬場青邨でございます。
ます。師匠並びに
諸先生方、誠にあ
りがとうございま

した。私は小一より書道教室へ通い、結婚後一旦書から離れましたが、五十才の頃、再び書が書きたくなり、師匠に御指導賜わりまし

〔評〕

線の起伏と文字の大小が素晴らしく、美しい流れを表現。



達治の詩 青邨

準大賞

第三部 増田 紅葩



この度は、準大
賞を賜り、誠にあ
りがとうございま
す。電報を手にし、
真つ先に亡き父母
に報告いたしましたし

た。長年に亘りご指導下さいました師匠や仲間、そして家族の理解と支えのお蔭と心より感謝申し上げます。

小学入学時に始めた書道。「何かひとつ身につけなさい」という母からの言葉。今向き合っている自分の姿を思うと母の導きに感謝の念で一杯です。古典や先人作品を学ぶにつけ、作品制作での未熟さや、書の奥深さを痛感いたしました。今後とも生活の傍らに書を置いて、この受賞を日々の励みとして精進してまいりますので、更なるご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

長々鋒を駆使した振幅が魅力的なりズムとなっている。



準大賞

第四部 石川 敬子



この度は準大賞
という大きな賞を
いただき、誠にあ
りがとうございま
した。これもひと
えに師匠をはじ

め、諸先生方の御指導の賜と深く感謝申し上げます。湛の意は、水が満ちているさま、やすらか、真心のあるさま等々とあります。湛の意に少しでも近づきたいという強い思いで取り組みましたが、日頃の勉強不足を痛感いたしました。この度の受賞を励みに今後も書道が続けられる喜びと感謝を忘れず精進してまいりたいと思います。
ご指導よろしく申し上げます。

〔評〕

心のゆとりか穏和な書。潤濁の変化が大きく明るい作。



準大賞

第四部

舟

紅



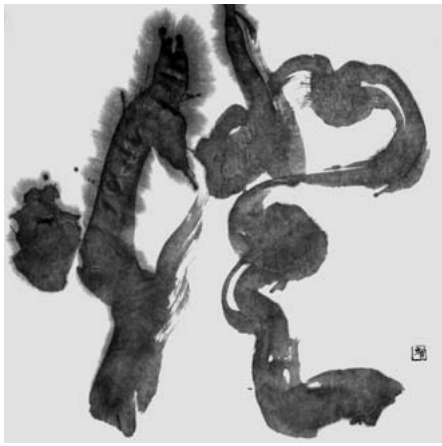
この度は準大賞という過分なまでの賞をいただき、喜びと共に戸惑いの気持ちでいっぱいです。これも師匠をはじめ、諸先輩方のご指導のお蔭と感謝しています。

日々の忙しさに追われる中、書と向き合う時間は私にとって心静かになれるひと時です。

これからも書を通じて自身を高めていける様に、初心と感謝の気持ちを忘れず、いつか納得できる素敵な作品が書けるよう精進してまいりますので、ご指導の程、何卒よろしくお願い致します。本当にありがとうございます。

〈評〉

力みなく精悍で自然な運筆が魅力的。不断の努力の賜。



準大賞

第五部

稲垣

泗郷



この度、第六十九回中日書道展に於いて「準大賞」受賞のレタックスを受け、大変光栄な事と感激しております。方寸の世界に朱・白で表現する篆刻の妙味に魅せられ始めてから丁度十年、これも偏に熱誠をもって指導していただく先生はじめ、諸先輩のおかげと感謝しております。今後この奥深く幅広い知識が必要な篆刻芸術の世界を楽しみながら一層精進してまいり所存であります。

〈評〉

朱・白ともに楚簡帛文字を用い、躍動感のある作品。

準大賞

第五部

倉内

翠羽



この度は、栄えある準大賞をいただきまして、誠にありがとうございます。これも偏に師匠を始め諸先生方のお蔭と、心より厚くお礼申し上げます。上海博物館の印章館でみた世界が転機となり、少しずつ歩を進めて参りました。これを機に一層の精進を重ねる所存でございます。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

館の印章館
上海博物館

この度は、栄えある準大賞をいただきまして、誠にありがとうございます。これも偏に師匠を始め諸先生方のお蔭と、心より厚くお礼申し上げます。

この度は、栄えある準大賞をいただきまして、誠にありがとうございます。これも偏に師匠を始め諸先生方のお蔭と、心より厚くお礼申し上げます。

〈評〉

南北朝時代の鑿印法を用い、線の動き、古色が絶妙。



この度は、第六十九回中日書道展に於いて「準大賞」受賞のレタックスを受け、大変光栄な事と感激しております。方寸の世界に朱・白で表現する篆刻の妙味に魅せられ始めてから丁度十年、これも偏に熱誠をもって指導していただく先生はじめ、諸先輩のおかげと感謝しております。今後この奥深く幅広い知識が必要な篆刻芸術の世界を楽しみながら一層精進してまいり所存であります。

令和元年度総会
第69回中日書道展授賞式
公益社団法人 中部日本書道会



大賞・準大賞（2部～5部）受賞者



中日賞・桜花賞（1部）受賞者



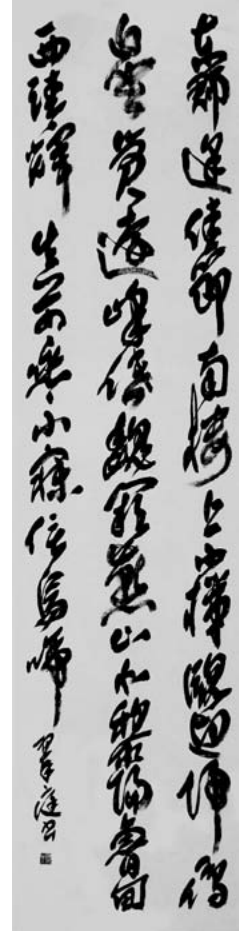
中日賞・桜花賞（2部～5部）受賞者



若年（15歳～21歳）受賞者

中 日 賞

第一部 中日賞 熊田翠庭



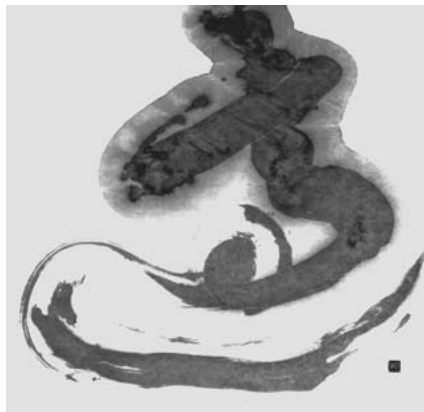
第二部 中日賞 大矢大月



第三部 中日賞 長谷部翠峰



第四部 中日賞 柴田真由美

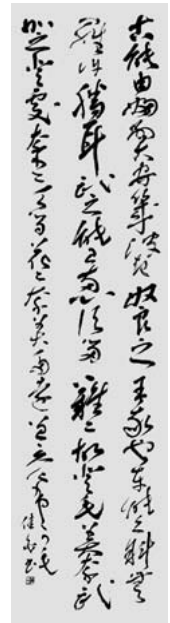


第五部 中日賞 谷本藤男



桜 花 賞

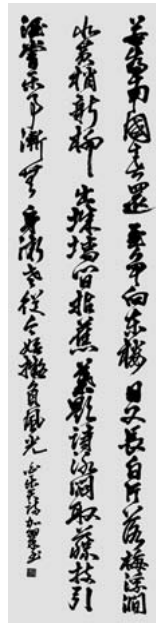
第一部 桜花賞 青山佳白



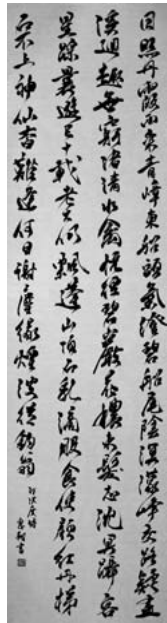
第一部 桜花賞 井桁翠咲



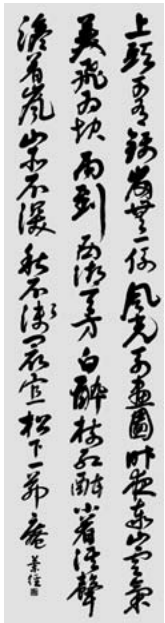
第一部 桜花賞 石川加翠



第一部 桜花賞 石川惠翔



第一部 桜花賞 伊藤蘭徑



第一部 桜花賞 大野 彩

乞食到寺即欲多不識為師的
為住僧自心修多不識為師的
中教者多不識為師的

第一部 桜花賞 柿本 享風

襟微時帶思光繞袂隨鷓鴣
寧不遊覽宜春花滿不飛香獨看
覺輕容讓太陽題杜盤君惠經唱
江波從漢田茂

第一部 桜花賞 熊谷 青翠

三流之林道中
紅衣自取以春
鳴心之乃力

第一部 桜花賞 黒岩 翠華

為秋用遺傳下
然亦更期此
終卷中其
不為難樂

第一部 桜花賞 小島 瑞香

知不可乎
若往也
一自自不
各有是為
為月日過

第一部 桜花賞 小平 光彩

從上妙
也

第一部 桜花賞 小林 洋子

江波東道
源水沙
道遠難

第一部 桜花賞 小松 翠篁

憐憐
白送鐘
有真形
居源正
既波行

第一部 桜花賞 近藤 広彩

於枕
白似
一在
一在

第一部 桜花賞 佐藤 恵園

今亦不
軒輝
博約

第一部 桜花賞 佐藤 白山風露

不楊
切早
孤搖

第一部 桜花賞 佐野 香

此女
知今
加力
在為
在為

第一部 桜花賞 志村 玲香

塞秀
戰亡
花玉

第一部 桜花賞 杉本 扇鈴

此為
別敵
結始

第一部 桜花賞 杉山 里英

南殿
蘇沈
將以
上為

第一部 桜花賞 田澤 扇華

受高
化被
女華
皆使

第一部 桜花賞 遠山 柳恵

萬公
秀階
踏庭

第一部 桜花賞 長尾 秀麗

南水
色得
隨日

第一部 櫻花賞 西川 樹顛
 喜因陸陸地月當下人夢有生清影系幽
 琴上弦音刺鶴庭起龍吟聲好地佳指中
 音不端操優苦松山感入海陸果元始樹顛出

第一部 櫻花賞 野田 江泉
 延北三祖如未遊子及海邊地如自初夢
 此人座公座家透名在法多運日種種及地
 或向向更便之於皇在在公休於多夜中
 時令散處于中及有山日友四用坐遊生和

第一部 櫻花賞 野田 靜月
 夢覺之時 既成美夢
 夢中夢外 夢外夢內
 夢中夢外 夢外夢內

第一部 櫻花賞 服部 芝華
 山只一人情及度

第一部 櫻花賞 藤井 秀堂
 風帆沙際度 岸有翠葉一江江於
 真四山中中中中中 迫人遙多語起之那
 七紅回之鄉 心少遠流海自向東

第一部 櫻花賞 古橋 恵子
 寒有鶴上飛 凌水清揚言碧雲裏自道
 安期名兩白玉壺雙吹禁鴛聲去影忽不
 見回風送天聲舉首遠望之飄然若若望
 頭澹金光草壽与天齋頌

第一部 櫻花賞 堀 秀鍊
 君三挺逸越明拂臨崇基白雲隨玉起
 青霞雜桂旌掩台訪五絲願步佇三
 芝於為仰鍊如驚歲暮以為期

第一部 櫻花賞 前野 以苑
 墨墨言花林來 兼白柳枝弱而
 東人之金象寶類為獨 善為象法
 世滿盈歸 清唯利無戰心懷半生及
 有在少 至生考固飛陽少年美可

第一部 櫻花賞 松枝 翠苑
 多短暇改胡衣談笑三軍却交遊七
 仍留一笛箭

第一部 櫻花賞 松岡 蘭毫
 廣陸堤上音鐘居帆轉滿遊童任在浮
 病時中鵬鳥越鄉 啣去有鯨魚

第一部 櫻花賞 松村 亮
 未嘗見物 或百廿九年
 未嘗見物 或百廿九年

第一部 櫻花賞 松本 靜鳳
 獨聞無邪 只後青芳夢
 月燈雲角斷急霜飛行人水
 塘晚寒稀 愧有暮春念化相

第一部 櫻花賞 水野 瑛華
 浪長於春回部一費瓊瑤有踏公幼時
 之戲多 湘水唯琴與別 不被學
 陳置文松露 手製語夢情
 雨來 亦有情碧屋山紅松露

第一部 櫻花賞 宮尾 清峰
 我自是地 不為歷年時性為
 立時 拂松風 予武為去

第一部 櫻花賞 村上 影月
 我行日夜 江海移 兼畫
 迷近青 與 似曾而 少州見

第一部 櫻花賞 安井 翠谷
 靜波偶士 脫林靜 由女
 丁女士博覽 出與通經文
 此在經中 重原校

第一部 櫻花賞 安井 滄秀
 君不見河 天為上果若河
 白髮如 青 青 青 青
 雲彩有 田金 金 金 金

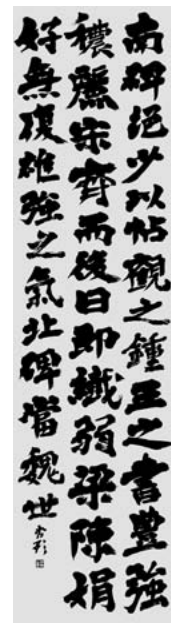
第一部 櫻花賞 山口 梅花
 春輝臨 瑞斗 子玉 擊珠
 金枝刺 四 願 妙 妙 妙
 未至 鈞 梨 漆 公 息 藤 柔 永 芳 口 邊 行



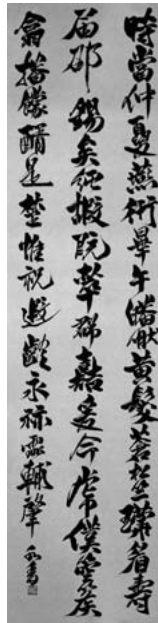
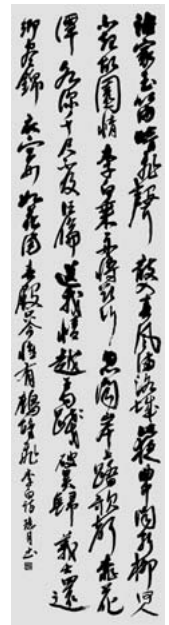
第一部 桜花賞 山本 瑤華



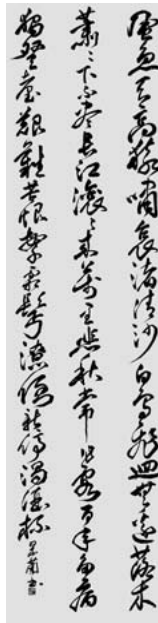
第一部 桜花賞 山田 瑤月



第一部 桜花賞 横田 杏歌



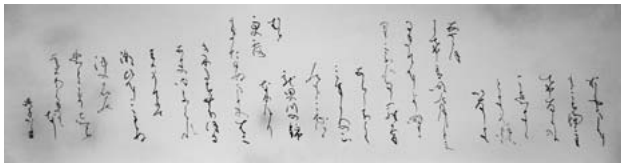
第一部 桜花賞 渡邊 水香



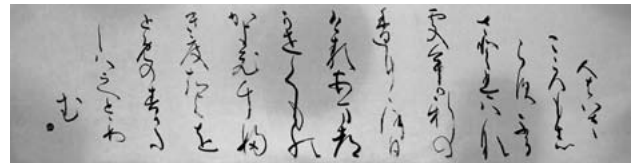
第一部 桜花賞 横山 翠蘭



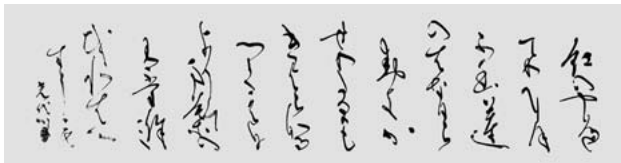
第二部 桜花賞 石川 恵美



第二部 桜花賞 佐藤 典子



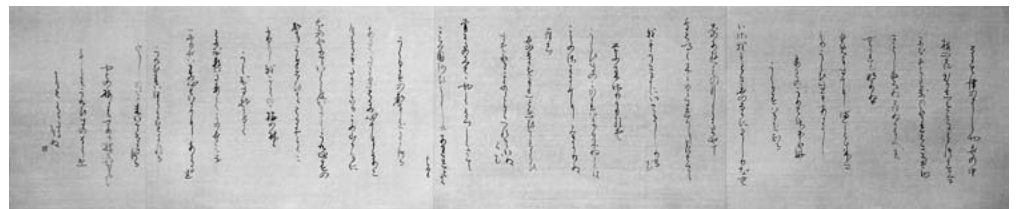
第二部 桜花賞 神谷 幸穂



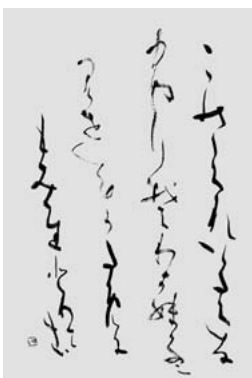
第二部 桜花賞 瀬古 光代



第二部 桜花賞 川本 泉



第二部 桜花賞 水谷 玉汀

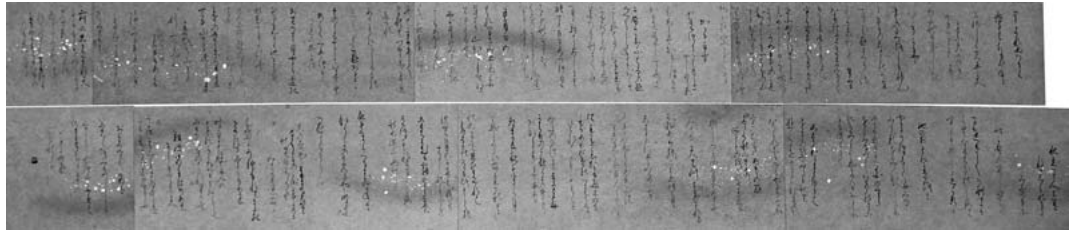


第二部 桜花賞 井上 ゆい

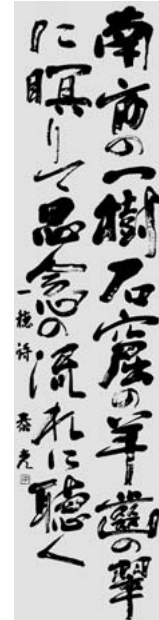


第二部 桜花賞 山口 鈴代

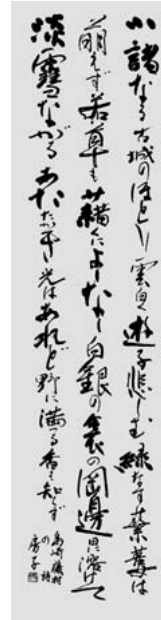
第二部
尾 関 明 美
桜花賞



第三部 桜花賞 池上 創



第三部 桜花賞 伊野 泰光



第三部 桜花賞 岩瀬 房子



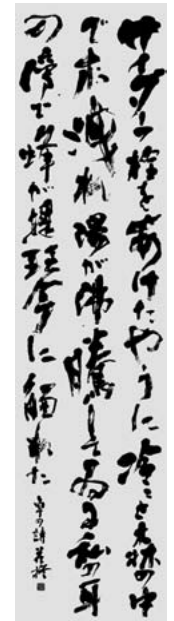
第三部 桜花賞 小島 湖山



第三部 桜花賞 藤井 紅夢



第三部 桜花賞 二村 くまゑ



第三部 桜花賞 高橋 花終



第三部 桜花賞 長瀬 竜清



第三部 桜花賞 原 彩霞



第三部 桜花賞 田中 美香



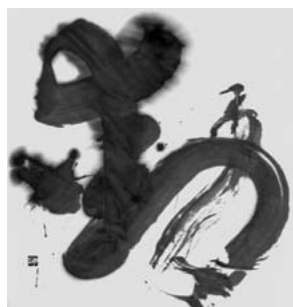
第三部 桜花賞 横井 吟虹



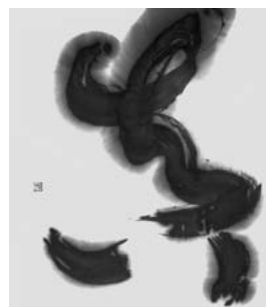
第五部 桜花賞 中野 秋石



第五部 桜花賞 堀 梅 肇



第四部 桜花賞 深谷 朝美



第四部 桜花賞 中野 照子



第四部 桜花賞 井野 華水

中日賞・桜花賞作品評

第一部(漢字)

山際 雲峰
山内 江鶴 評

〈中日賞〉

○熊田 翠庭

連綿体を力強く表現し、二行目の動きある所が良い。

〈桜花賞〉

○青山 佳白

一字一字の草書が躍動して墨量の潤渇の表現が上手。

○井桁 翠咲

単体の行草を実にうまく水が流れる如きに仕上げた作。

○石川 加翠

古典の味わいがよく表現されている。重厚感が良い。

○石川 惠翔

色紙と文字がマッチし、行間の生かし方が良い。

○伊藤 蘭徑

力強い筆致で墨量も豊かで、のびのある重厚な作。

○大野 彩

淡墨を使い文字一字一字を躍動させ、まとまりある作。

○柿本 享風

古典をよく習得した作である。文字の大小が有効的。

○熊谷 青翠

無駄な動きを避け行間の美しさを行草で表現している。

○黒岩 翠華

重厚で伸びのある連綿の線が実に素晴らしい作。

○小島 瑞香

古典の臨書を五行の作品とし、よく書き込んだ作。

○小平 光彩

一字一字の動きのある単体の文字をよくまとめている。

○小林 洋子

行間をすっきりとあけて連綿の美しさを表現できた作。

○小松 翠篁

多字数を迷うことなく流れを絶やさずに完成された作。

○近藤 広彩

墨の潤渇をうまく生かし淡墨の味わいのある作。

○佐藤 恵園

重厚な筆力を表現し、単体の文字を流麗にまとめている。

○佐藤白山風露

単体の行草を流動的にかつ力強く表現された作。

○佐野 香

真っ赤な色紙に整然と写経が表現され、行間字間が見事。

○志村 玲香

六朝楷書の特徴をよく習得

した作。墨量の充実が良い。

○杉本 扇鈴

一字一字が力強く、筆の特性が生かされた秀作。

○杉山 里英

多字数を行間をすっきりさせて流動感を良く表現している。

○田澤 扇華

さわやかな隷書で字間、行間のとり方がうまい。

○遠山 柳恵

北魏の力強い楷書で重厚かつ、文字の結体も良い。

○長尾 秀麗

連綿の流麗な作である。迷いもなくよく書き込まれた作。

○西川 樹顯

おおらかな温か味ある線条が心地よく流れる落着いた作。

○野田 江泉

王鐸の筆意、気負いのない運筆で自然な流れを主張している作。

○野田 静月

鋭い筆線を独自のリズムに巧みに取り入れた見事な作。

○服部 芝華

運筆・形態に無理がなく自然で穏やかにして心地よい作。

○藤井 秀堂

淡墨、軽快なタッチで文字の構成にも無理がない爽快な作。

○古橋 恵子

北魏の楷書を基調に力強く良くまとめあげた作。

○堀 秀鏗

豊かな墨量と骨力ある線質。気力充実した北魏楷書。

○前野 以苑

豊かな線条がリズムに乗って心地よく流れる瑞々しい作。

○松枝 翠苑

穏やかにして重厚な線質、文字の大小の配置、見事なり。

○松岡 蘭毫

豊かな墨量で穏やかな線条が一貫。心地よい作。

○松村 亮

縦の動き歯切れよく流れ、多字数なれど行間の余白鮮やか。

○松本 静鳳

豊潤な線条が緩急大小自在にして躍動する、情感豊かな作。

○水野 瑛華

豊かな墨量で歯切れある線



審査風景

糸が行間に響き快い作。

○宮尾 清峰

縦に流れる脈筆、凛とした線質と淡墨の調和爽やか。

○村上 影月

穏やかで終始筆脈一貫し、行間明るく、品位ある作。

○安井 翠谷

文字・小粒なれど重厚さあり、字間・行間が美しい品位ある作。

○安井 清秀

気負のない運筆でゆったり自然の流れを主張、品位の高い作。

○山口 梅花

終始一貫した、ねばり強い線質で最後まで書ききった力作。

○山田 瑤月

自由奔放な筆捌き、文字の大小と潤濁を効果的に表現した快作。

○山本 瑤華

練熟した用筆で大小疎密多彩にして行間も美しい秀作。

○横田 杏歌

重厚で深みのある豊潤な筆線が紙面を圧している。

○横山 翠慧

墨色を活かし力強い線条で紙面を圧している。見事な手腕。

○横山 翠蘭

気負いなく、文字の構成にも無理なく心落ち着く作品。

○渡邊 水香

力強い線条の中に細太の變化妙。色紙と豊墨とが融合した重厚な作。

第二部(かな) 山本 雅月 評

〈中日賞〉

○大矢 大月

爽やかな線条で横へおおらかに躍動し格調高い作品です。

〈桜花賞〉

○石川 恵美

連綿の美とリズムミカルな横への展開が上品で素晴らしいです。

○井上 ゆい

墨の潤濁を上手に配し温かみのある線条で格調高い作品です。

○尾関 明美

上下二段の調和が美しく古筆の薫りのする練度高い上品な作です。

○神谷 幸穂

温かみのある味わい深い線条でゆったりと美しい作品です。

○川本 泉

洗練された筆線で凛とした佇まいと品格を感じる作品です。

○佐藤 典子

清澄な線で散らしに工夫が

なされた気品漂う作品です。

○瀬古 光代

練度の高い筆致で行間美と流動感を備えた格調高い作品です。

○水谷 玉汀

行立ての美しさが際立ち凛とした雅趣を備え上品な作品です。

○山口 鈴代

雅な料紙に散らしが上手く調和して優美な景色を醸し出しています。

第三部 近代詩文 武内 峰敏 評

〈中日賞〉

○長谷部翠峰

表情豊かな線質と絶妙な構成でスケールの大きな作品。

○池上 創

鋒先が紙面をとらえ、ぐいぐいと律動感溢れる作品。

○伊野 泰光

あたたか味ある線質で墨量豊か。潤いのある風景が良い。

○岩瀬 房子

筆先で詩を朗読している様。行の流れも良く壮快な作品。

○小島 湖山

筆運びが大きく、中央の盛上がりが素晴らしい作品。厚味ある線で漢字と平仮名

を統一したリズムで纏めた作。

○田中 美香

潤いのある線と大胆なデフォルメで余白の美しい作品。

○長瀬 竜清

紙面を大きく高く舞う筆を連想させる。気持ちが良い。

○原 彩霞

心の盛り上がり文字の均衡となつて、雄大な作となる。

○藤井 紅萼

活気に満ちた、勢いある大字と調和した小書き見事。

○二村くまゑ

長鋒を自在に操り、文字の大小でリズムを奏でた作品。

○横井 吟虹

弾力のある線と懐の広い造形が広々とした景色を創造。

第四部(少字数) 水谷 海越 評

〈中日賞〉

○柴田真由美

運筆伸びやかにして迷いなし。中央の回転が殊に妙味。

○井野 華水

筆の開閉・転折が見事で精神性の高い書。只終画は…。

○中野 照子

実を主にしたリズムミカルな運筆が快い。生命力も豊か。

○深谷 朝美

重厚から軽妙への変化で作品感を表現。更に伸びが…。

第五部 篆刻 鈴木 立齋 評

〈中日賞〉

○谷本 藤男

甲骨文字を用いて刻し、側款の拓影も効果的な作品。

○中野 秋石

ゆったりとそして厳しく、金文を熟知した絶品作品。

○堀 梅肇

古代文字の面白さを自在な運刀で表現した優秀作品。



関根玉振委員長挨拶

その他の入賞者

一科

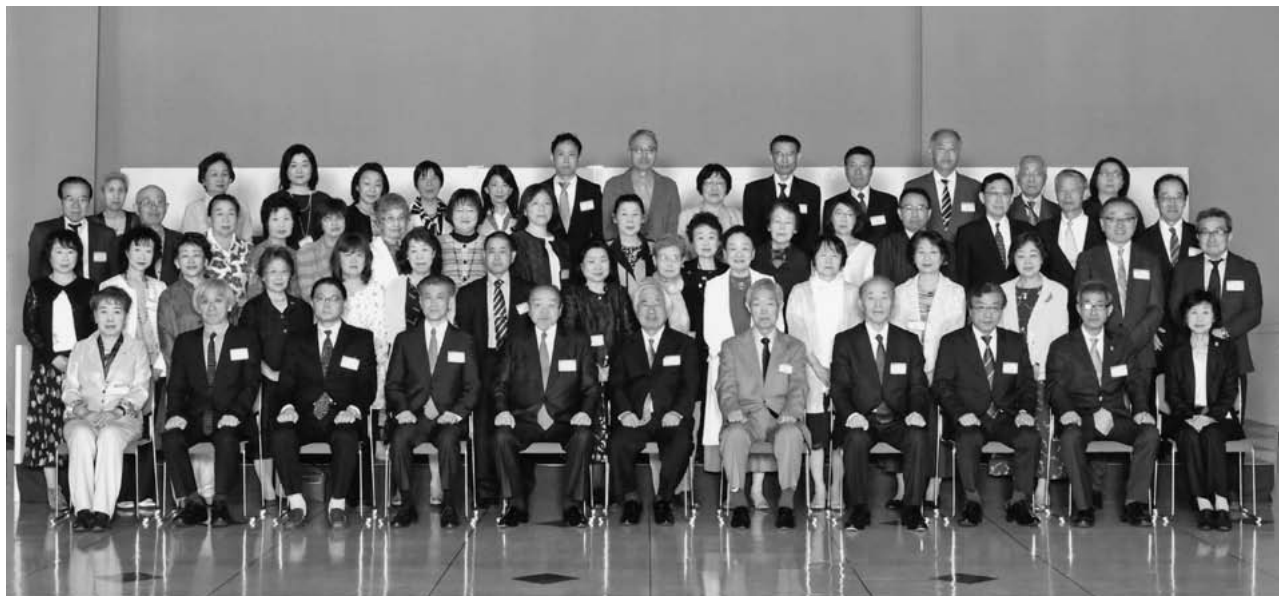
第一部(漢字)

推薦
 石黒 佳洲 伊藤 舒榮
 大石 窓雪 笠井 蘭仙
 管 鐵硯 倉橋 澄雨
 小酒井彩花 佐藤 彩柳
 中野 海堂 濱田 幽翠
 東山 栄華 三沢 桃紅
 森 菜々子 山田 美咲

特選
 安達 寿扇 阿部 陽香
 井口 七海 磯村 小園
 伊藤 紅葉 大倉 萌香
 大河内秋蘭 太田 美楓
 大津 翠影 大西 和枝
 大村 瑞苑 粕谷 芳翠
 片岡 祥泉 片山 二菜
 加藤 里菜 川出 暁香
 榊田 恵翠 栗本 清芳
 小林 圭翠 笹本 菜月
 佐藤 恵順 佐橋 爽翠
 塩澤 怜華 澁谷 峻山
 菅野 茜 杉山千鶴子
 鈴木 愛果 鈴木 影花
 鈴木 葵峰 鈴木 祥翠
 祖父江虹燕 高木 美杏
 高島 仲晃 田崎 大秀
 谷川 青蘭 鳥井 薫
 内藤 蒼月 永井 江堂
 永井 城圭 長坂 麻衣

準特選
 吉川 珠翠 山崎 一慶 矢島 汐風 横山 香雨
 青山 和生 新井 翠眉 池田 翠恵 荒川 昌龍
 秋田由希恵 石川 玲香 石田 珠山 居初 江陵
 伊藤 映舟 伊藤 文野 伊藤 翠美 稲田 清婉
 井本 紅彩 岩本 麗泉 岩本 玲舟 鶴飼 雅舟
 内山 雅舟 大岡 祥園 大嶽 旭華 大野 艶友
 岡本 覃溪 小笠原澄遠 大谷 蕙苑 梅村 香苑
 宇佐美吉恵 上田 清楓 岩田 純子 今井 大地
 伊藤 桃苑 伊藤 鶴雲 市川 映舟 石田 李舟
 石木 里奈 伊佐治星月 池田 翠恵 新井 翠眉
 青山 和生 吉川 珠翠 山崎 一慶 矢島 汐風
 横山 香雨 渡辺あさき 渡辺あさき 横山 香雨
 安田 由琳 森島 麗石 村瀬 貴水 水野 百花
 松尾 心巖 松田 真奈美 本田 柳舫 細川 芳龍
 藤原 芳龍 平野 焯藍 日栄 白蓮 林 恭子
 野田 花翠 速水 香余 野田 花翠 野田 花翠
 遠座 白果 奥谷 美楓 遠座 白果 奥谷 美楓
 加藤 清苑 加藤 眉翠 加藤 北辰 加藤 由美
 壁谷 佑紀 川添 陽泉 川添 陽泉 川添 陽泉
 木村 有里 木村 和象 木村 和象 木村 和象
 工藤 雅翠 熊崎 千佳 熊崎 千佳 熊崎 千佳
 小崎 陽香 小崎 陽香 小崎 陽香 小崎 陽香
 越山 和子 後藤 蘭徑 後藤 蘭徑 後藤 蘭徑
 小林 鶴嬰 近藤 明彦 近藤 明彦 近藤 明彦
 澤田 玲苑 篠田 佳峰 篠田 佳峰 篠田 佳峰
 清水 美子 白井 美翠 白井 美翠 白井 美翠
 住山 彩蝶 住山 彩蝶 住山 彩蝶 住山 彩蝶
 高田 春景 竹内 重則 竹内 重則 竹内 重則
 竹内 翠芳 竹浦 榮翠 竹浦 榮翠 竹浦 榮翠
 田中くるみ 坪井万里子 坪井万里子 坪井万里子
 中垣 裕華 中垣 裕華 中垣 裕華 中垣 裕華
 長畑 清楓 長畑 清楓 長畑 清楓 長畑 清楓
 成田 朋真 成田 朋真 成田 朋真 成田 朋真
 成瀬 芳清 成瀬 芳清 成瀬 芳清 成瀬 芳清
 西尾 翠清 西尾 翠清 西尾 翠清 西尾 翠清
 野々川翠扇 野々川翠扇 野々川翠扇 野々川翠扇
 萩野 道世 萩野 道世 萩野 道世 萩野 道世
 尾崎 涼舟 尾崎 涼舟 尾崎 涼舟 尾崎 涼舟
 垣本 松風 垣本 松風 垣本 松風 垣本 松風
 加藤 亜実 加藤 亜実 加藤 亜実 加藤 亜実
 神谷 芳枝 神谷 芳枝 神谷 芳枝 神谷 芳枝
 荻谷 有美 荻谷 有美 荻谷 有美 荻谷 有美

秀逸
 東 瑤琴 荒井 游舟 荒井 游舟 荒井 游舟 荒井 游舟
 荒木 花蓮 飯塚 珠穂 飯塚 珠穂 飯塚 珠穂
 伊神 薪水 池田 夏爛 池田 夏爛 池田 夏爛
 石川 彩香 石崎 恵秋 石崎 恵秋 石崎 恵秋
 伊藤 歌那 伊藤 鴻仁 伊藤 鴻仁 伊藤 鴻仁
 伊藤 春翠 伊藤 稚子 伊藤 稚子 伊藤 稚子
 伊藤 舞夏 居波 優泉 居波 優泉 居波 優泉
 稲垣 秀嶺 稲吉 邦子 稲吉 邦子 稲吉 邦子
 岩崎 翠風 岩田 永慎 岩田 永慎 岩田 永慎
 岩田 月扇 岩田 清曉 岩田 清曉 岩田 清曉
 岩場 恵子 岩田 澄景 岩田 澄景 岩田 澄景
 白井 静泉 太田 素月 太田 素月 太田 素月
 萩野 道世 奥村 翠峽 奥村 翠峽 奥村 翠峽
 奥村 翠想 奥村 陽鶴 奥村 陽鶴 奥村 陽鶴
 尾崎 涼舟 各務 香扇 各務 香扇 各務 香扇
 片桐 清風 片桐 清風 片桐 清風 片桐 清風
 加藤 佳華 加藤 佳華 加藤 佳華 加藤 佳華
 神谷 芳枝 神谷 芳枝 神谷 芳枝 神谷 芳枝
 荻谷 有美 荻谷 有美 荻谷 有美 荻谷 有美



一科 (1部) 当番審査員

| | | |
|---|---|---|
| 柴田 佐分 佐藤 佐久間 榊原 小林 小嶋 河野 栗山 國島 木下 岸本 川本 川瀬 川合 | 嶺山 英泉 柚香 紫翠 惠香 泛翠 博美 公美 玉寶 修堂 春蘭 汀翠 紫栄 暢光 怜玉 | 川口 蘭舟 川村有紀奈 神藤 華舟 北村 翠蓉 工藤 尚篁 栗田 萌翠 畔柳 知子 河和 節子 小嶋 美秀 佐伯 青翠 榊原 美峰 櫻木 愛弓 佐藤 青耀 六戸 春月 白井 孝心 |
| 杉浦 秀水 杉村 翠華 鈴木 藍光 大門 雅泉 滝川 祥苑 谷川 花影 鶴見 常風 寺島 明子 遠山 正幸 永井 玲苑 長坂 結衣 中島 昭川 中島 彩空 中村 翠山 中村 霞汀 野村 祥泉 野口 麗湖 小鏡 秋映 高木 紅絲 関戸 華月 杉本 錦楊 杉田 恵情 | 野田 流水 成田 惠翠 中西 晶聲 中島 昭川 長坂 結衣 永井 玲苑 遠山 正幸 寺島 明子 鶴見 常風 谷川 花影 栗田 萌翠 畔柳 知子 河和 節子 小嶋 美秀 佐伯 青翠 榊原 美峰 櫻木 愛弓 佐藤 青耀 六戸 春月 白井 孝心 | 野田 流水 成田 惠翠 中西 晶聲 中島 昭川 長坂 結衣 永井 玲苑 遠山 正幸 寺島 明子 鶴見 常風 谷川 花影 栗田 萌翠 畔柳 知子 河和 節子 小嶋 美秀 佐伯 青翠 榊原 美峰 櫻木 愛弓 佐藤 青耀 六戸 春月 白井 孝心 |



松下英風審査部長挨拶

| | | |
|---|---|---|
| 野呂 竹泰 袴田 泉穂 長谷川 積翠 長谷川 澗光 秦 青楓 畑中 皐山 羽多野 劉壚 服部 緑珠 花木 寛城 馬場 桜華 濱屋 大樹 林 佳穂 林 尚志 林 里奈 原 みさと 坂野 みゆき 樋口 白扇 平野 敦子 廣間 紫泉 福島 真弓 藤木 由美子 船橋 幽泉 舟橋 隆峰 堀 美芳 古田 翠楊 堀 美芳 前川 紗於里 前野 秋豊 松浦 早苗 松元 樹香 右高 三郎 水越 鈴雪 水谷 君代 水野 琴秀 溝口 葉華 三宅 敬子 村上 紫江 村上 澄暎 森川 峻翠 森田 春泉 八木 恵染 柳澤 孝子 山岡 沙月 山田 清翠 山田 信子 山田 由香 山中 信子 横地 秀峯 吉永 明美 渡邊 綾花 渡辺 敬月 渡辺 妃翠 | 野呂 竹泰 袴田 泉穂 長谷川 積翠 長谷川 澗光 秦 青楓 畑中 皐山 羽多野 劉壚 服部 緑珠 花木 寛城 馬場 桜華 濱屋 大樹 林 佳穂 林 尚志 林 里奈 原 みさと 坂野 みゆき 樋口 白扇 平野 敦子 廣間 紫泉 福島 真弓 藤木 由美子 船橋 幽泉 舟橋 隆峰 堀 美芳 古田 翠楊 堀 美芳 前川 紗於里 前野 秋豊 松浦 早苗 松元 樹香 右高 三郎 水越 鈴雪 水谷 君代 水野 琴秀 溝口 葉華 三宅 敬子 村上 紫江 村上 澄暎 森川 峻翠 森田 春泉 八木 恵染 柳澤 孝子 山岡 沙月 山田 清翠 山田 信子 山田 由香 山中 信子 横地 秀峯 吉永 明美 渡邊 綾花 渡辺 敬月 渡辺 妃翠 | 野呂 竹泰 袴田 泉穂 長谷川 積翠 長谷川 澗光 秦 青楓 畑中 皐山 羽多野 劉壚 服部 緑珠 花木 寛城 馬場 桜華 濱屋 大樹 林 佳穂 林 尚志 林 里奈 原 みさと 坂野 みゆき 樋口 白扇 平野 敦子 廣間 紫泉 福島 真弓 藤木 由美子 船橋 幽泉 舟橋 隆峰 堀 美芳 古田 翠楊 堀 美芳 前川 紗於里 前野 秋豊 松浦 早苗 松元 樹香 右高 三郎 水越 鈴雪 水谷 君代 水野 琴秀 溝口 葉華 三宅 敬子 村上 紫江 村上 澄暎 森川 峻翠 森田 春泉 八木 恵染 柳澤 孝子 山岡 沙月 山田 清翠 山田 信子 山田 由香 山中 信子 横地 秀峯 吉永 明美 渡邊 綾花 渡辺 敬月 渡辺 妃翠 |
| 野呂 竹泰 袴田 泉穂 長谷川 積翠 長谷川 澗光 秦 青楓 畑中 皐山 羽多野 劉壚 服部 緑珠 花木 寛城 馬場 桜華 濱屋 大樹 林 佳穂 林 尚志 林 里奈 原 みさと 坂野 みゆき 樋口 白扇 平野 敦子 廣間 紫泉 福島 真弓 藤木 由美子 船橋 幽泉 舟橋 隆峰 堀 美芳 古田 翠楊 堀 美芳 前川 紗於里 前野 秋豊 松浦 早苗 松元 樹香 右高 三郎 水越 鈴雪 水谷 君代 水野 琴秀 溝口 葉華 三宅 敬子 村上 紫江 村上 澄暎 森川 峻翠 森田 春泉 八木 恵染 柳澤 孝子 山岡 沙月 山田 清翠 山田 信子 山田 由香 山中 信子 横地 秀峯 吉永 明美 渡邊 綾花 渡辺 敬月 渡辺 妃翠 | 野呂 竹泰 袴田 泉穂 長谷川 積翠 長谷川 澗光 秦 青楓 畑中 皐山 羽多野 劉壚 服部 緑珠 花木 寛城 馬場 桜華 濱屋 大樹 林 佳穂 林 尚志 林 里奈 原 みさと 坂野 みゆき 樋口 白扇 平野 敦子 廣間 紫泉 福島 真弓 藤木 由美子 船橋 幽泉 舟橋 隆峰 堀 美芳 古田 翠楊 堀 美芳 前川 紗於里 前野 秋豊 松浦 早苗 松元 樹香 右高 三郎 水越 鈴雪 水谷 君代 水野 琴秀 溝口 葉華 三宅 敬子 村上 紫江 村上 澄暎 森川 峻翠 森田 春泉 八木 恵染 柳澤 孝子 山岡 沙月 山田 清翠 山田 信子 山田 由香 山中 信子 横地 秀峯 吉永 明美 渡邊 綾花 渡辺 敬月 渡辺 妃翠 | 野呂 竹泰 袴田 泉穂 長谷川 積翠 長谷川 澗光 秦 青楓 畑中 皐山 羽多野 劉壚 服部 緑珠 花木 寛城 馬場 桜華 濱屋 大樹 林 佳穂 林 尚志 林 里奈 原 みさと 坂野 みゆき 樋口 白扇 平野 敦子 廣間 紫泉 福島 真弓 藤木 由美子 船橋 幽泉 舟橋 隆峰 堀 美芳 古田 翠楊 堀 美芳 前川 紗於里 前野 秋豊 松浦 早苗 松元 樹香 右高 三郎 水越 鈴雪 水谷 君代 水野 琴秀 溝口 葉華 三宅 敬子 村上 紫江 村上 澄暎 森川 峻翠 森田 春泉 八木 恵染 柳澤 孝子 山岡 沙月 山田 清翠 山田 信子 山田 由香 山中 信子 横地 秀峯 吉永 明美 渡邊 綾花 渡辺 敬月 渡辺 妃翠 |



一科 (2部~5部) 当番審査員



1部審査風景

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 糟谷 小野 大重 岩土 井出 石田 石川 安保 浅井 準特選 若菜 美馬 寺澤 田中 鈴木 下村 | 友香 ころ 彩花 翠風 恵巳 桃露 尚風 翠月 裕美 茂子 夕穗 和代 佳風 | 加藤 梶田 奥村 大倉 伊藤 市川 石川 池田 浅井 山田 松原 坪山 高橋 杉村 | 敦美 夕貴 双珠 啓風 雛子 兼正 裕里加 朔月 優琳 玉蓉 樂朋 香泉 麗水 友香 |
| 秀逸 | | | |
| 浅本 瞳 | 藁科 星舟 | 横江 星花 | 山崎 白雲 |
| | | 御崎 勲 | 前田 裕子 |
| | | 林 紅甫 | 西口 裕泉 |
| | | 梅野 春美 | 武市 佳峰 |
| | | 高井 舞衣 | 柴田 瑞香 |
| | | 鶴口 夏菜 | 高橋 遥菜 |
| | | 永井 睡蓮 | 鈴木 桃玲 |
| | | 野瀬 裕翠 | 酒井 彩加 |
| | | 古田 輝美 | 小島 徹 |
| | | 松井 雲海 | 久世たか子 |
| | | 守山 螢舟 | |
| | | 山路 白耀 | |
| | | 渡辺 千紘 | |
| 安藤早百合 | | | |

- | | | | | | | |
|---|---|--------------------------------------|-------|-----------|---|--|
| 花井 鈴木 菰田 池野 浅井 準特選 矢藤 北村 新井ひろ子 | 紅霞 幸枝 真由 登世 静子 千尋 義弘 小泉 磯貝みえ子 | 林 中橋美恵子 佐野 叶子 石原千砂子 安達 鷹 山本 種子 小泉 路子 | 竹本 景鳳 | 第四部 (少字数) | 若杉 山中 森下 宮本 松浦 古田 深見 原田 林 西川 中野ひかる 富田 寺尾 谷川 田口ゆかり 高木 智子 瀨邊 風馬 澤木 雅人 佐藤 玉華 近藤 秀光 小藤 芳園 神戸 香穂 加藤 由記 稲垣 喜由 | 横井 琴泉 森下 燎月 村松 泰然 水谷 静香 星 智子 福川 翠 彦坂 房代 原田 沙季 服部 麗泉 長野 史織 鳥居 壮瑠 寺西 恒流 辻 由起 武川 桃徑 滝川 帆南 高木 夏楠 柴田 祥仙 佐藤 健斗 近藤 芳玉 古家野弥生 木野瀬陽光 川口 芳雲 小川 恵秀 |
| 山田 柳原 牧野 羽柴 中野 高井 鈴木 子安 青木 秀逸 增井 永田 小松 小林 貴島 加藤 岡本多加江 今井 徳弥 山村 鈴木 小池 伊藤 内田 推 第五部 (篆刻・刻字) 米田 等 永江 柘植 川本美由紀 奥田 光子 板倉 虹華 平井 祐里 | 貴子 雅龍 常典 裕子 麦愛 玉扇 眞壽 一徳 和馨 篠田 仰信 今村 禎邨 山内 昂波 森本 隆司 古田富美子 西岡貴美子 永田 乾石 鈴木 悠里 篠田 仰信 今村 禎邨 宮部政代美 前田 龍泉 富永 晴美 小林 彩華 神山 忠之 加藤 正嗣 長田 勝彦 榎並 勝彦 室 悠園 静代 工藤 芳悦 菱川 武 寶満 祥子 日高 橘扇 中内 美紀 鈴木 裕子 蟹江 紅水 板倉 里美 安江栄美子 | | | | | |



二科 (1部) 当番審査員

二科

第一部 (漢字)

二科賞

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| 石川 優奈 | 池阪 圭月 | 飯田 紫泉 | 安福 陽翠 | 安福 展翠 | 阿島 春雪 | 秋元 花雲 | 相崎 実桜 | 奨励賞 | 吉田 多映 | 山田 蕉葉 | 満仲 晶子 | 松本 航佑 | 廣野 陽風 | 浜島 悠舟 | 丹羽 碧洋 | 富田 穂月 | 寺田 雅彦 | 田中 彩花 | 田口 昂麗 | 鈴木 一恵 | 島田 春海 | 阪田 華香 | 木島 美翔 | 金杉 響 | 加古 寅起 | 岡本 清風 | 大久保千夏 | 梅溪 紅苑 | 岩田 桃雨 | 井本 千游 | 今井 理加 | 井上 淑麗 | 池邊 美杜 | | | | | | |
| 石川 涼雨 | 石川 楓 | 生田 大雅 | 飯田 華翠 | 安福 文香 | 荒井 秋芳 | 浅野 映華 | 青野 郁実 | | 渡瀬 大麦 | 山本 康貴 | 村瀬 碧陽 | 松本 萌伶 | 藤戸 祐成 | 日置 康苑 | 土師 歌恋 | 永田 彩乃 | 樋田 美翠 | 谷口 衿香 | 武田 芳雨 | 鈴木 慶吾 | 杉山 清香 | 志岐 拓海 | 黄 容琇 | 金子 瞳 | 笠松 紫芳 | 小原 春玲 | 大野さなえ | 江端 穂香 | 内海 秀香 | 岩田 彩七 | 今川 勝喜 | 井上 恒雄 | 板垣 海吾 | | | | | | |
| 石黒 真泉 | 石原美佐江 | 市野 春翠 | 伊藤 松園 | 伊藤 祥葉 | 稲垣 入葉 | 犬飼 紫華 | 岩瀬ひかり | 岩田 星彩 | 植村 静露 | 白杵 浩秀 | 馬場 春蘭 | 江口 太郎 | 榎本 真己 | 大草 有優 | 大澤 浩子 | 大島 慶玊 | 大羽 千晶 | 大林 霞風 | 大村 友貴 | 岡部 佳風 | 小川 敦子 | 小笠原夢歩 | 小川 香風 | 奥田 葵 | 奥山八重子 | 尾之内華然 | 加治屋有紀 | 加藤 華容 | 加藤 清峰 | 門松 静紗 | 金屋 香穂 | 神谷 恵舟 | 神屋敷邦子 | 河合 恵萌 | 川辺 花游 | 上林 祥雲 | 木下 絵里加 | 木全 春乃 | 木本 有理 |
| 石寄 博美 | 市川 翠華 | 伊藤 杏樹 | 伊藤 祥子 | 伊藤 広樹 | 稲山 沙耶 | 今井 彩寧 | 岩田 祥風 | 上田 陵花 | 牛田 光星 | 内田 良子 | 梅田 青庵 | 江崎 美樹 | 大池 那由 | 大迫 寿星 | 大島 海舟 | 太田 朱音 | 大橋 栖空 | 大村 知郁 | 岡部 友貴 | 小河 佳風 | 小川 佳風 | 小木曾実香 | 奥野 葉月 | 小田 哲廣 | 籠谷 咲美 | 梶原 彩瑤 | 加藤 暁山 | 加藤 夢捺 | 金森 紫水 | 上ヶ平香川 | 神谷 祥子 | 柄澤 信一 | 川上 宥汰 | 神崎 紫陽 | 絹川 恵子 | 木下 知美 | 木村 香葉 | 楠森 玄峰 | |
| 杳名 博子 | 黒澤百合加 | 幸村 玉霽 | 後藤 翠萌 | 小林 羅文 | 近藤 香月 | 近藤 柚菜 | 榊原 俊碩 | 佐久間日月 | 佐藤 茜雲 | 佐藤美由紀 | 佐野 陽華 | 篠田 めい | 柴田 茂雄 | 清水 紀早 | 清水 雅子 | 芝田 芳茜 | 芝 優杏 | 佐橋 南美 | 里中 紅華 | 櫻井 慧泉 | 坂口 丹華 | 境 世志枝 | 近藤 爽月 | 近藤 鶯雅 | 小林 由依 | 小塚 麻菜 | 河野 稻与 | 栗山 万嬉 | 栗山 万嬉 | 河野 稻与 | 小塚 麻菜 | 小林 由依 | 近藤 爽月 | 近藤 鶯雅 | 小林 由依 | 小塚 麻菜 | 河野 稻与 | 栗山 万嬉 | |
| 長瀬 輝雪 | 長野 綾音 | 中村智恵子 | 鍋田 萌子 | 西川 愛美 | 丹羽 紅翠 | 則竹 美憂 | 花井 光葉 | 浜島 明翠 | 早川 怜志 | 林 花恋 | 林 律翠 | 日高 綺音 | 平岩美南百 | 深尾美千代 | 藤田 愛乃 | 藤田 孝雲 | 藤田 美翠 | 藤橋 里彩 | 古脇 已愛 | 細川 智絵 | 堀 智華 | 堀内 杏樹 | 本田 恭子 | 牧野 友紀 | 松下 東郎 | 松原 信子 | 水越陽菜子 | 水谷 文江 | 水野 真宏 | 溝口 桜月 | 緑川 香玉 | 村瀬 徑秀 | 村橋 佳奈 | 森 唯七 | 安井美沙子 | 山内 彩寧 | 山田 和子 | | |
| 中西五十鈴 | 中村 彩花 | 名倉 芳美 | 西浦 雪花 | 西川 美翠 | 野田 霞月 | 長谷川凜乃 | 花澤 織歩 | 浜島 佑真 | 早崎 唯 | 林 久代 | 伴野 仁紀 | 比良 遥菜 | 平子 綾音 | 深谷祐加里 | 藤田 玖巳 | 藤田 琴乃 | 藤戸 恒成 | 藤原 明子 | 細井真悠子 | 堀田 真由 | 堀 清順 | 本庄 聡子 | 前田 峻登 | 松井 如粹 | 松永 翠岳 | 参川 憲昭 | 水谷香乃里 | 水谷 祐子 | 溝上 絃子 | 溝口 千柊 | 宮地八千代 | 村田 安菜 | 室賀 芳艶 | 森下 珠香 | 柳田あさみ | 山内 萌歌 | 山田 彩和 | | |



二科 (2部~5部) 当番審査員



2部審査風景



3部審査風景

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 井出陽子 | 五十川朱翠 | 石田ひまり | 石川 畠山 | 飯野 惠美 | 天野 清月 | 浅野 飛沖 | 秋山千鶴子 | 青井 虹泉 | 佳作 | 渡會 惠一 | 渡辺 静扇 | 依田 夏実 | 吉田 透吾 | 吉尾 綾華 | 余語 春美 | 山田 幽寂 | 山田 隆久 |
| 伊藤紫眺 | 一ノ瀬花奈 | 石原 秀華 | 石川莉紗子 | 石川 朱里 | 荒川 暢秀 | 安部なる実 | 浅田 結菜 | 青井 愛佳 | | 渡辺 菜月 | 若林 碧雲 | 吉原みず穂 | 吉田 暲彩 | 横井 千佳 | 横井 千佳 | 山本 悠菜 | 山田 美穂 |
| 加藤 優帆 | 加藤 純 | 加藤 開 | 片野 真里 | 加賀 文野 | 奥山 新奇 | 小笠原寧秀 | 大山 華穂 | 大西 舞 | | 大谷はるか | 太田 祥玉 | 卯之原龍嗣 | 鶴飼 水影 | 岩田 玲水 | 今井 美妃 | 伊原 妃夏 | 伊東帆奈美 |
| 加藤 祐月 | 加藤 栖崖 | 加藤 蔵土 | 勝羽 栄月 | 柏原 洋飛 | 小野田知美 | 沖野 希美 | 小笠原温孝 | 大橋田巳生 | | 大谷祐喜子 | 大谷明日香 | 梅村 香園 | 宇野 誠心 | 上野 子遊 | 今村 美咲 | 今井 千寿 | 稲垣 耀秀 |
| 重野 高棲 | 佐野 麻衣 | 佐々木映雪 | 櫻井 翠陽 | 阪上 珠基 | 酒井 光輝 | 近藤 和子 | 小林 伶奈 | 後藤 慈恵 | | 越賀 正典 | 栗井 遥菜 | 木村 秋波 | 喜多村秋香 | 神田 真珠 | 河尻 亜美 | 川崎 麗華 | 壁谷 清蘭 |
| 柴田 智美 | 澤里さよ子 | 佐治 星恵 | 酒向 恵 | 坂元 直輝 | 酒井 壯史 | 近藤 亜衣子 | 後藤 千秋 | 後藤 一葉 | | 黒見 日向 | 窪田 有桜 | 木下 歩美 | 儀賀 栄華 | 河出 長女 | 川島 愛菜 | 川内 景雲 | 蒲野 綾扇 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 早川 螢雪 | 馬場 桃連 | 服部 紫翠 | 萩原 綺奏 | 野田真梨華 | 野口 重匡 | 蛭川あずさ | 新野 聖奈 | 中出 和子 | 中島 悠稀 | 中島 直苑 | 中川 薫 | 鳥居 朝煙 | 富田 美咲 | 寺澤 美咲 | 都竹三八子 | 玉置奈緒子 | 種子島瑞季 | 谷岡 千信 | 田中 光華 | 田代ひとみ | 竹村 英恵 | 瀧波 照白 | 瀧 光瑩 | 高松 風花 | 高須 紅竹 | 千田 悠夏 | 瀬古 成美 | 須田 美翠 | 鈴木 芳華 | 鈴木 朱音 | 杉山 瑞映 | 杉浦 貴俊 | 杉浦 克哉 | 新保 柳穂 | 白坂 桃子 | 島崎 梨沙 | 柴田 理沙 |
| 林 三知代 | 濱野 和江 | 服部 泰斗 | 畑佐 順子 | 野々垣 悠 | 野田 澄香 | 丹羽 白桜 | 西尾 松子 | 夏目 春園 | 永田 彩華 | 中島 汀葉 | 中川 太智 | 鳥井 愛美 | 豊留 美咲 | 富田 光風 | 坪井 奏逸 | 土森真寿美 | 田原 清明 | 谷口 夏鈴 | 田中 清蘭 | 多田 汀優 | 田代 千尋 | 竹市すい果 | 滝井淳之甫 | 高森 良鶯 | 高橋 暁湖 | 高木 琴巴 | 世古麻伊亜 | 諏訪部菜華 | 鈴木 美莉 | 鈴木 佐和子 | 杉山 瑤華 | 杉浦 利奈 | 杉浦 直照 | 菅 楊 | 神通 光子 | 白坂日菜子 | 柴田 律子 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 延東 千恵 | 乾 乃武子 | 池田 宮子 | 吉田 裕子 | 中島 安奈 | 江川 節子 | 二科賞 | 若山 芝春 | 吉田 等 | 横山佳菜里 | 山室由美子 | 山田 睦己 | 山田 一華 | 山岡 桂汰 | 築瀬 幸子 | 安田 真夕 | 安井 柏陽 | 安井 典孝 | 村山 典孝 | 村瀬 静岑 | 村上 庸子 | 武藤 雅利 | 溝口 紗世 | 水谷 麗月 | 松岡 大貴 | 松尾 碧堂 | 松井 真代 | 松浦 紀花 | 増田 恵翠 | 前田 恵翠 | 舟橋 優典 | 藤原 常夫 | 廣川 瑞樹 | 平野 夏舟 | 半澤亜耶奈 | 原 渚紗 |
| 大山 直美 | 打田るり子 | 稲垣流美子 | 長谷川智美 | 大河内千晴 | 二科賞 | 渡辺 康子 | 若松 安寧 | 吉田 譽子 | 横地真以子 | 山之内春洋 | 山田 祥子 | 山口 典子 | 山口 翠巒 | 保田悠紀音 | 安江 稲華 | 森川 美佐 | 森川 紅音 | 村松 勇介 | 村上 舟影 | 宮崎 礼堂 | 水野 智喜 | 松岡 宏昌 | 松浦さおり | 松浦 沙季 | 松岡 沙季 | 間瀬 桂峰 | 増田 千咲 | 古澤美夢羽 | 舟橋亜梨沙 | 福田 将大 | 平松 日和 | 日置 瑠花 | 坂 夏希 | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 山田 里美 | 古川 智貴 | 橋本 華水 | 中島 優 | 島戸 香蘭 | 久保田香穂 | 神谷 步夢 | 石井 麗 | 山田 弘子 | 山口 和子 | 水元 康誠 | 水谷 桃萌 | 中村 妙子 | 杉浦 純子 | 坂井田幸枝 | 小牟禮優美英 | 加藤シズエ | 大平 貴子 | 石塚 淳子 | 阿部真由子 | 浅井喜代子 | 森島 典子 | 丸山 仁美 | 細野真由莉 | 島山美智子 | 西山 孝子 | 中嶋紀久代 | 角田登美子 | 下野 宏江 | 坂崎 裕子 | 加藤 孝子 | 加藤 敬子 | 岡部 明子 |
| 山中 峰代 | 古崎 碧泉 | 林 成清 | 難波 希静 | 清水 雪華 | 小山 結莉 | 國武 寶珠 | 今橋 久子 | 山田 文女 | 山下 晴美 | 宮田 昭子 | 水野 孝映 | 萬代 京 | 谷 優来 | 下里 園子 | 是枝 信也 | 金沢 節子 | 岡田てつみ | 上村 寿子 | 安藤 潤子 | 浅井 雅子 | 村上 史子 | 松田眞理子 | 藤原さと子 | 野澤恵美子 | 中村 恭子 | 豊田 恵子 | 杉浦 雅子 | 佐藤 美泉 | 子安 孝子 | 加藤 淳子 | 鏡味 洋子 | |

奨励賞

- 青木 美和
- 石川 結葉
- 伊藤 愛純
- 伊藤 鈴佳
- 伊藤 美紅
- 今枝 里帆
- 上田 馨星
- 梅原 慎人
- 大久 瑞生
- 小川 彩音
- 尾関 あずさ
- 尾関 麗風
- 柿田 理恵
- 片山 沙弥
- 加藤 美香
- 明壁 直暉
- 磯貝美智子
- 伊藤 歌秀
- 伊藤 寿美乃
- 猪野 三枝子
- 今橋 由利
- 上田 怜奈
- 大島 万葉
- 岡田 真奈
- 小鹿 怜菜
- 尾関 賀妙
- 小田 美祥
- 梶 里沙子
- 加藤 蒼琅
- 蟹江 和江
- 川部 梨乃
- 木藤 綾音
- 切畠 星海
- 後藤 三奈
- 小西 香織
- 近藤 結菜
- 齊藤 大貴
- 酒井 菜月
- 佐藤 ひな
- 隅田 玉枝
- 高田 有紗
- 但馬 菜子
- 筒井 あゆみ
- 寺尾 あかね
- 永井 文椛
- 中川 楓美恵
- 北野 愛恵
- 木全 雪華
- 倉田 紗奈
- 後藤 夢芽
- 小林 晴子
- 齊藤 孝貴
- 齊藤 春果
- 佐々木 陽道
- 白崎 力
- 曾我 紗綾佳
- 武田 麻里子
- 土屋 貞峰
- 寺井 嘉有
- 寺嶋 美江
- 長尾 有紗
- 長坂 光舟



4部審査風景

- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 中野 神泉 | 中野 彩奈 | 西田比呂弥 | 糠谷 美季 |
| 中濱 壮大 | 成瀬 美景 | 野村 貞美 | 橋本 莉乃 |
| 西坂 保嶺 | 西村 文里 | 長谷川素雪 | 早川 瑠奈 |
| 西村 克美 | 野田 芳樹 | 林 祐衣 | 平田 有沙 |
| 波多野礼香 | 羽根田由紀江 | 福田 咲美 | 藤井 彩雨 |
| 坂 翠風 | 平澤 雲香 | 藤岡 佑奈 | 細川 厚子 |
| 平野裕美子 | 古市 柊磨 | 松井 彩華 | 松井 渚 |
| 堀部よしこ | 三枝 愛実 | 松島 一子 | 松田三重子 |
| 水野 眞花 | 宮島 琴音 | 水野 玉照 | 宮川 悠利 |
| 宮地 理聖 | 宮林 由依 | 宮島 愛佳 | 宮田 雅子 |
| 宮原 昂大 | 三輪 天音 | 明珍 有翠 | 村瀬 紫華 |
| 森 曉雲 | 山下 琴巴 | 山田 彩光 | 山田 千乃 |
| 柳瀬 葵姫 | 山北 京 | 山田 優 | 山村 薫 |
| 山田 圭泉 | 弓 春菜 | 山本 恭嘉 | 湯之上桃琶 |
| 吉川 抱雲 | 和田ひまわり | 横田 果紀 | 吉原ゆう子 |
| 明壁 瑞季 | 荒木 麻佑 | 若杉 尚哉 | 渡辺 良枝 |
| 安藤 秀苑 | 安藤 舞柚 | 橋倉 詠雪 | 中島 玲子 |
| 石黒 麗月 | 磯野 玲泉 | 大竹 園美 | |
| 稲垣 嘉紀 | 磯垣 綾 | 天野 博子 | 井尻 有子 |
| 井浪 茉奈 | 今枝 順子 | 小倉 聖代 | 垣内 紀子 |
| 今橋 迪子 | 今橋 璃子 | 沓名のり子 | 小坂 仁子 |
| 井本 千陽 | 岩瀬 朋郎 | 榊原 節子 | 鈴木 夏代 |
| 太田 遥 | 大谷 蘭榮 | 内藤由美子 | 中根 久美 |
| 小川 千尋 | 貝谷 溪仙 | 日比野弘心 | 藤垣 広子 |
| 加藤 恵里 | 加藤 巧也 | 松崎理恵子 | 三浦 蘭夢 |
| 河内ひなた | 川原 梨沙 | 皆川 光 | 山盛 湖子 |
| 北川 祥子 | 鬼頭 桃弦 | 石川 聖也 | 大澤佐知子 |
| 小櫻 秀朋 | 後藤 涼音 | 加古 京子 | 加藤 侑愛 |
| 作田 菜月 | 菅原 佳月 | 加藤 友子 | 加藤由美子 |
| 杉山みち子 | 鈴木 環翠 | 川部 啓子 | 高和 朋美 |
| 鈴木 空龍 | 鈴木ひとみ | 鈴木 香妃 | 鈴木 博子 |
| 相馬まつり | 妙中 美月 | 高村 笑代 | 福富 万裕 |
| 高橋 宏毅 | 立松 玲奈 | 水谷 有志 | |
| 田村 華英 | 永野 桃子 | | |
| 中村仁衣菜 | 中村 帆海 | | |
| 成瀬 礼菜 | 新國 美菜 | | |

佳作

佳作

奨励賞

二科賞

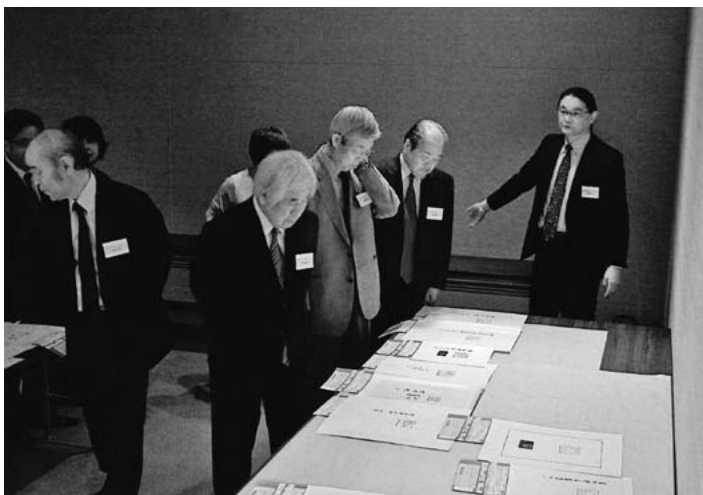
第四部(少字数)

第五部(篆刻・刻字)

二科賞

奨励賞

- 伊藤 迅亮
- 金澤 星奈
- 井口 洋子
- 井上 弥紀
- 大内 信義
- 加藤 成生
- 鈴木 万緒
- 寺本 九齋
- 成瀬 広美
- 廣瀬千代子
- 加藤 悦子
- 佐藤 敬介
- 伊藤 爲廣
- 鶴飼 要
- 大塚 緑雲
- 小林 小龍
- 高槻 和子
- 内藤 記良
- 長谷川里美
- 廣田 正美
- 松野 悦子
- 水野 夏夜
- 本村 葦雀
- 井田 英克
- 加藤日出男
- 河村 一雄
- 小島 智明
- 白川 眞弓
- 筒井 英造
- 野村 享未
- 平田 憲生
- 三輪セーザル光
- 奥田 霞峰
- 河合 莊次
- 桐山 竹翠
- 白井 ゆか
- 高橋 敬司
- 野口 勇夫
- 東新家英二
- 溝口 泰司
- 宮田 基次
- 水谷 一斗



5部審査風景

第六十九回 中日書道展を終えて

第一事業部長 後藤 啓 太

第六十九回中日書道展は、愛知県芸術文化センター・県美術館ギャラリーと、名古屋市民ギャラリー栄、電気文化会館東・西ギャラリー、名古屋博物館の四会場、五会期で開催しました。

今回は創立八十五周年記念として、立命館大学のご協力をいただき特別展示「どうして漢字はその形（白川静文字研究のすがた）」を開催、記念講演会は立命館大学客員研究員の高島敏夫先生による「師という文字の成りたちとその変遷」と題して講演をしていただきました。また、鬼頭翔雲名誉副会長の発案による「大化から令和までの元号総覧（二四八元号）」の特別展示をしました。どちらの展示も大変好評で、新たなお客様にご覧いただき、観客動員数の増加につながりました。

《二科審査・一科審査・特別賞選考》

今回は伏見の電気文化会館五階イベントホール、東・西ギャラリーに審査会場を移し開催しました。はじめて使う会場であり、以前と違う点が多々ありましたが、スムーズに厳正かつ公正な審査が行われましたことをご報告申し上げます。

《展示会場・特別展示》

展示会は四会場ごとに様々な展示を用いました。担当部長の先生の確かな指示のもと、協賛会員、係の先生方のご協力により整然と美しい展示ができました。特別展示「どうして漢字はその形」は、

文化勲章受章者の白川静先生の功績を紹介すると共に、漢字の成り立ちや意味を伝える展示をしました。本企画部長を中心とした立命館大学の関係の方のご協力を得て、子どもから大人までが楽しめる興味深い展示は大成功でありました。

また、「大化（令和まで年号総覧）」は、二四八元号の色紙を一堂に展示。書体や墨色も様々に本会ならではの多彩な作品群が圧巻で見応えのあるものでした。名古屋市民ギャラリー栄、博物館のそれぞれの会場にて、令和元年を寿ぐ華のある展示となりました。「大化（令和まで年号総覧）」は、今後、支部での展示等いろいろな会場に於いて再度展示が予定されています。

《第六十九回中日書道展 反省会》

七月十四日（日）名鉄ニユーグランドホテルに於いて午後五時より、第六十九回中日書道展、反省会を開催しました。この会は毎年展覧会終了後、各展示会場の部長・事務局の部長の先生方に、次回に向けての反省点やご意見をお伺いする会です。

本年は、樽本樹邨名誉会長代行、安藤滴水・鬼頭翔雲名誉副会長、常任顧問の先生方、新理事の先生方のご臨席を賜り、七名のご参加をいただきました。

反省会は横井宏軒事務局長の司会で進められました。伊藤仙游新理事長より今回の中日書道展に対し、協賛会員の皆様と各展示会場の部長の先生方の多大なるご尽力への御礼と、無事に会期を終了できたことに

感謝の言葉がありました。その後、後藤啓太第一事業部長より、反省事項の説明と、どの会場も担当の先生方の御蔭で迅速かつスムーズに陳列・撤去ができましたことをご報告申し上げます。

安藤滴水名誉副会長より、今回の中日書道展の成功と今後の発展を祈念し、力強い乾杯のご発声をいただきました懇談会となりました。

和やかな雰囲気懇談会は進み、最後に鬼頭翔雲名誉副会長より、将来の本会の展望と多くの書の愛好家の中日書道展への出品について、役員会員の協力と責任についてのお言葉をいただき反省会は終了。次回につながる良い会となりました。

最後になりましたが、今回の第六十九回中日書道展では、新しい主任の先生方に多数ご協力いただきました。加えて、四会場五会期の展示でしたが、準備から本展覧会の会期終了まで、混乱もなく円滑に進みまされたことは、協賛会員の皆様、本会の先生方の多大なるお力添えの御蔭と、深く感謝申し上げます。



伊藤仙游新理事長挨拶



第一事業部長による反省事項説明

来年の中日書道展は第七十回展を迎えます。記念の年にふさわしい展覧会となりますよう、一層努力して参ります。今後ともご支援、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。



特別展示「大化から令和までの元号総覧（248元号）」（会場 名古屋博物館）

令和元・2年度 公益社団法人 中部日本書道会

新 事 務 局

事務局長 横井 宏 軒

企画委員長 大池 青 岑

| 部 | 部 長 | 次 長 |
|--------------|-------|---|
| 1. 総務部 | 天野 白雲 | 浅井明奈・原 霞扇 |
| 2. 庶務部 | 村瀬 俊彦 | 天野梢華・神谷緑泉・村瀬季舟 |
| 3. 第一企画部兼IT部 | 佐野 翠峰 | 伊藤昌園・高桑巖風・鳥居柳城 |
| 4. 第二企画部兼IT部 | 上小倉積山 | 庄田華鳳・新美秋鳳 |
| 5. 第一経理部 | 田中 修文 | 岩田緑汀・原賀瑞芳・吉原愛璃 |
| 6. 第二経理部 | 磯谷 凄聴 | 田口勢望・武田晶庭 |
| 7. 会員部 | 内田 翠径 | 伊藤紅樹・五井花径・広井秀琳 |
| 8. 第一事業部 | 後藤 啓太 | 伊高美秀・伊藤昌郷・伊藤小游・伊藤龍仙・川本大幽・高木玄齊・丸山聖峰・溝口子静 |
| 9. 第二事業部 | 馬場 紀行 | 石黒直子・岡田麗峰・加藤秀慧・川合玄鳳・鈴木松厓 |
| 10. 研究部 | 武内 峰敏 | 浅井禎香・亀井小琴・清水春蘭・下村汀柳 |
| 11. 教育部 | 廣澤 凌舟 | 内山蘭月・國島英華・小坂克子・式守白萩・中川星光・長谷川幽岱・松下聖心・三代雄峰・村上史麗 |
| 12. 褒賞部 | 水野 峯翠 | 相川千涯・関根玉翠・竹内清泉・塚田俊可・藤堂弘風・原田圭竹・堀部保子 |
| 13. 渉外宣伝部 | 川崎 尚麗 | 土屋春聲・林 紫香・松崎青漣・鷺野紫篁 |
| 14. 記録統計部 | 山中 桂山 | 梶山盛涛・衣川彰人・高橋栖雲・松佐古溪水 |
| 15. 編集部 | 林 柏堂 | 浅井紅鶴・江川翠苑・築山みなみ・中井港星 |
| 16. 厚生部 | 古川 昇史 | 伊藤静雅・落合玉泉・永谷恵子・長屋天虹 |

| 支 部 | 支部長 | 支部次長 |
|--------|-------|----------------------|
| 1. 一 宮 | 川浦 碧濤 | 橋本成良・村田光柙・吉田桃花 |
| 2. 半 田 | 山内 江鶴 | 林 柏堂・平松采桂 |
| 3. 西三河 | 加藤 松雲 | 磯谷凄聴・加藤矢舟・山岸邦山 |
| 4. 東三河 | 林田 虎峰 | 大河戸柳光・古川侃司・皆川嗣恵・村井康山 |
| 5. 濃 飛 | 三野島凌雲 | 中垣幸聲・成瀬伸芳・増田春暉 |
| 6. 北 勢 | 伊藤 艸亭 | 荒木友梅・高橋華堂・中条彰山 |
| 7. 中南勢 | 谷 鴻風 | 寺田祐峰・中村翠雲・村林龍鳳 |
| 8. 岐 阜 | 坪井 景照 | 伊藤小游・後藤文明・早川 修 |

※紙面の都合で委員の方については掲載出来ませんでしたので、10月発送の会員名簿をご覧ください。

事務局事務分掌

| 部 | 分 掌 事 務 |
|-----------|---|
| 総 務 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 各部の総括に関する事。 2 事務局の人事（事務局職員）に関する事。 3 定款及び諸規程の作成に関する事。 4 国際交流に関する事。 5 書道会館の建設に関する事。 |
| 庶 務 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 総会、理事会及び評議員会の開催に関する事。 2 展覧会人事資料に関する事。 3 物故者の追悼会及び遺墨展に関する事。 4 その他、他部に属さない業務に関する事。 |
| 企 画 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 各種事業の企画に関する事。 2 企画委員会の開催に関する事。 |
| 経 理 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 予算及び決算に関する事。（本部、支部共） 2 経理及び物品の出納に関する事。 3 職員の給与等手当に関する事。 |
| 会 員 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 会員対策及び会費の徴収に関する事。 2 会員名簿の作成に関する事。 3 会員への資料の配付等連絡事項に関する事。 |
| 事 業 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 展覧会に関する事。 2 収益事業に関する事。 |
| 研 究 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 書道に関する調査研究に関する事。 2 講演会、講習会、研究会に関する事。 3 資料及び文献の収集と保存に関する事。 |
| 教 育 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 書きぞめ展、及び揮毫会に関する事。 2 書道教育者の養成に関する事。 3 書道教育の普及に関する事。 |
| 褒 賞 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 各種展覧会表彰及び表彰式に関する事。 2 書道功労者等の顕彰に関する事。 |
| 渉 外 宣 伝 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 各種事業にかかわる公報に関する事。 2 出版物等登載広告に関する事。 3 書道における他団体への協力に関する事。 4 文化事業における協力奉仕に関する事。 |
| 記 録 統 計 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 各種事業の記録の収集、整理及び保存に関する事。 2 各種記録写真に関する事。 |
| 編 集 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 機関誌の発行に関する事。 2 書道教育関係出版物の発行に関する事。 3 その他の出版物に関する事。 |
| 厚 生 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 会員の福利厚生に関する事。 2 各種集会、懇談会等の開催に関する事。 |
| I T 部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 情報の公開に関する事。 2 情報資料の収集に関する事。 3 情報技術に関する事。 |

協賛会員一覧

| | | | | | |
|---------------|--|--------------|-----------------|-----------------------------------|--------------|
| 浅井梧竹堂 | 452-0823 名古屋市西区あし原町68-1 | 052-504-2703 | (有) 高誠堂 | 440-0804 豊橋市呉服町44 | 0532-52-5514 |
| (株) 荒川印刷 | 460-0012 名古屋市中区千代田2-16-38 | 052-262-1006 | 光文堂(株) | 461-0005 名古屋市東区東桜1-3-28 | 052-961-6866 |
| 石黒五雲堂 | 453-0834 名古屋市中村区豊国通4-46 | 052-412-7862 | 小松表具店 | 485-0831 小牧市東2-544 | 0568-75-0281 |
| (株) 一休園 | 731-4221 広島県安芸郡熊野町出来庭2-2-44 | 082-854-0019 | 書遊 川口春霞堂 | 497-0012 あま市七宝町下田四反割2 | 052-444-8024 |
| 伊藤大林堂 | 465-0004 名古屋市名東区香南1-507 長谷川コーポ1F | 052-776-1881 | 書遊 平野筆墨堂 | 497-0012 あま市七宝町下田四反割2 | 052-433-3033 |
| 印刷屋九二八(株) | 497-0011 あま市七宝町安松13-9-1 | 052-443-1190 | (有) 真清社 | 460-0007 名古屋市中区新栄1-47-5 | 052-241-8085 |
| ウサミ印刷(株) | 451-0066 名古屋市西区児玉1-10-7 | 052-522-2361 | (有) 新泉堂 | 462-0006 名古屋市北区若鶴町344-1 | 052-901-0514 |
| 永楽堂 | 445-0854 西尾市永楽町4-10 | 0563-54-2053 | (株) 青雲堂 | 446-0008 安城市今本町3-1-15 | 0566-98-2233 |
| (株) 應天堂 | 501-1172 岐阜市下鶴飼1468 | 058-239-5200 | (株) 青柳堂 | 460-0008 名古屋市中区栄4-1-8 中区役所ビル1F | 052-259-0313 |
| (有) 岡本頌文堂 | 510-0081 三重県四日市市北町3-4 | 059-352-6010 | 創源工房 | 458-0034 名古屋市緑区若田3-106 | 052-629-5035 |
| オフィスイズ | 511-0243 三重県員弁郡東員町穴太1248-3 | 0594-76-3976 | (有) 荘文堂 | 478-0017 知多市新知宝泉坊30-1 | 0562-55-0517 |
| 魁盛堂(株) | 451-0063 名古屋市西区押切2-2-13 | 052-521-3211 | (株) 大玄堂 | 500-8289 岐阜市須賀1-8-25 | 058-271-2662 |
| 開明株式会社 | 336-0931 さいたま市緑区原山2-22-20 | 048-882-1091 | 大同印刷(株) | 501-6241 羽島市竹鼻町3214 | 058-392-2345 |
| 加藤長寿堂 | 453-0809 名古屋市中村区上米野町4-24 吉田ビル1F 1B号室 | 052-452-4751 | 中電不動産(株) | 460-0008 名古屋市中区栄2-2-5 電気文化会館 | 052-204-1383 |
| (有) 伽藍 | 460-0011 名古屋市中区大須3-8-10 | 052-242-7741 | (株) 長楽斎筆舗 | 460-0007 名古屋市中区新栄3-18-24 | 052-263-4554 |
| (有) 菊屋商店 | 460-0007 名古屋市中区新栄2-1-46 | 052-241-1145 | 名古屋キョー和 | 460-0008 名古屋市中区栄4-2-10 小浅ビル2F | 052-263-9401 |
| (有) 吸月堂 | 462-0844 名古屋市北区清水2-2-2 | 052-931-6948 | (株) 名古屋ホウコドウ | 486-0836 春日井市八事町1-190-3 | 0568-89-7788 |
| (有) 共栄エージェンシー | 468-0069 名古屋市天白区表山3-2418 | 052-835-6647 | 西川堂森表具店 | 491-0883 一宮市下田2-4-25 | 0586-72-3629 |
| (株) 玉蘭堂 | 150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4 渋谷百瀬ビル5F | 03-3499-4886 | (株) 美創堂 | 486-0831 春日井市ことぶき町8-1 | 0568-81-9236 |
| (株) 金工堂 | 460-0003 名古屋市中区錦3-16-22 | 052-961-0151 | ホテル ナゴヤキャッスル | 451-0034 名古屋市中区樋の口町3-19 | 052-521-2121 |
| 金陽堂表具店 | 471-0076 豊田市久保町3-27-1 | 0565-32-0863 | (株) 墨運堂 | 630-8043 奈良市六条1-5-35 | 0742-52-0310 |
| (株) 呉竹 | 630-8670 奈良県奈良市南京終町7-576 | 0742-50-2050 | 松屋紙店 | 475-0866 半田市清水北町63 | 0569-21-2572 |

令和元年度

第二回 理事会 総会 第三回 理事会

五月十九日(日)
六月十六日(日)
六月十六日(日)

於 中部日本書道会本部
於 ホテルナゴヤキャッスル
於 ホテルナゴヤキャッスル

庶務部長 村瀬 俊彦

令和元年度 第二回理事会開催

本年度第二回理事会が五月十九日に中部日本書道会本部にて開催されました。
理事二十七名の出席で、関根理事長の挨拶に始まり、以下に示しました議案について終始熱心にかつ慎重に審議され、すべて承認されました。

第一号議案

- (1)平成三十年度事業報告書の承認に関する件
- (2)平成三十年度収支報告書の承認に関する件
- (3)財産目録の承認に関する件

第二号議案

理事・監事の選任に関する件

第三号議案

令和元年度総会の日時及び場所並びに目的である事項の承認に関する件



第 2 回理事会風景

令和元年度 総会開催

令和元年度公益社団法人中部日本書道会総会は、ホテルナゴヤキャッスルを会場として四九四名(委任状提出者二、三二四名)の出席をいただき開催されました。関根理事長の挨拶から始まり、以下の議案について慎重かつ熱心に審議され承認されました。

第一号議案

平成三十年度事業報告書の承認に関する件

第二号議案

平成三十年度収支決算書の承認に関する件

第三号議案

財産目録の承認に関する件

第四号議案

理事・監事の承認に関する件



関根玉振理事長 総会挨拶

令和元年度 第三回理事会開催

総会終了後、新たに選任された理事による第三回理事会がホテルナゴヤキャッスル、ル・パレにて開催されました。議案にそって慎重に審議され、承認されました。

第一号議案

理事長、副理事長の選定について

- ・ 理事長 伊藤仙游先生
- ・ 副理事長 岡野楠亭先生

第二号議案

- ・ 加藤 裕先生
- ・ 松下英風先生

退任理事の役職人事について

- ・ 常任顧問 関根玉振先生
- ・ 顧問 梶山夏舟先生
- ・ 木俣紫香先生
- ・ 平松采桂先生
- ・ 伊藤暁嶺先生

第三号議案

事務局編成について

- ・ 本部署事務局及び支部長



第 3 回理事会風景

令和元年度 公益社団法人 中部日本書道会 総会 議案書 (抜粋)

日時 令和元年六月十六日(日) 場所 ホテルナゴヤキャッスル

第一号議案 平成三十年度事業報告書の承認に関する件

平成三十年度 事業 報告

I 書道普及振興事業(公益目的事業1)

1 展覧会事業

(1) 第六十八回中日書道展

会場及び期間

名古屋市民ギャラリー栄

平成三十年六月十九日(火)～六月二十四日(日)

電気文化会館

平成三十年六月五日(火)～六月十日(日)

平成三十年六月十九日(火)～六月二十四日(日)

名古屋博物館

平成三十年六月二十日(水)～七月一日(日)

出品点数 四、〇五七点

| | |
|------------|--------|
| 第一部(漢字) | 二、四八七点 |
| 第二部(かな) | 四三四点 |
| 第三部(近代詩文書) | 七三四点 |
| 第四部(少字数) | 二〇二点 |
| 第五部(篆刻・刻字) | 二〇〇点 |

(2) 第六十九回中日書きぞめ展

会場 平成三十一年三月十六日(土)～十七日(日)

会場 ナディアパーク アトリウム

出品点数 一五、三四三点

(3) 中日支部学生書道展

① 第四十七回一宮支部学生書道展

会場 平成三十年十一月二十四日(土)～二十五日(日)

会場 一宮スポーツ文化センター

出品点数 三、三六四点

② 第五十四回半田支部学童書道展

会場 平成三十年七月二十一日(土)～二十二日(日)

会場 半田市福祉文化会館

出品点数 二、二四四点

2 公開講座事業

第二十二回公開講座

日時 平成三十年十二月二日(日)

会場 電気文化会館 イベントホール

受講者 一三三名

「三体千字文から学ぶ」伊藤 昌石 先生

「私と呉昌碩」鈴木 立齋 先生

3 講演会、講習会、研究会事業

(1) 第三十一回書道教育研修会(実技講習会)

日時 平成三十年八月五日(日)

会場 名古屋国際センター

① 漢字・仮名講座

・書道講話

・漢字「一隷書を学ぶ」伊藤 仙游 先生

・仮名「一かなの魅力」楽しく学びましょう」横井 宏軒 先生

参加者 三十六名 高根 桂祥 先生

② 夏休みの課題(実技指導)

対象 小学三年生～中学二年生

参加者 三十四名

① 講演会

本部

平成三十一年二月三日(日)

名古屋観光ホテル

演題 「本阿弥光悦一人と書」

講師 書跡史学者 増田 孝 先生

参加者 四〇七名

② 一宮支部

平成三十一年一月二十七日(日)

一宮スポーツ文化センター

演題 「筆をもって五十七年」

―その中で魅力を感じたもの―

講師 関根 玉振 先生

参加者 一〇三名

③ 半田支部

平成三十一年三月三日(日) クラシティ半田

演題 「日本の心を刻む立川流」

講師 立川流彫刻家 立川芳郎尚富 先生

参加者 七十八名

④ 東三河支部

平成三十年七月十四日(土)

ロアージュホテル豊橋

演題 「筆をもって五十六年」

―その中で魅力を感じたもの―

講師 関根 玉振 先生

参加者 八十七名

⑤ 西三河支部

平成三十一年二月二十三日(土) 岡崎商工会議所

演題 孫過庭「書譜」について

講師 佐々木 富邦 先生

参加者 一五〇名

⑥ 濃飛支部

平成三十年七月二十九日(日) 恵那文化センター

演題 「源氏物語の魅力」

講師 桑田 靖之 先生

参加者 五十三名

⑦ 岐阜支部

平成三十年五月二十七日(日)

ホテルグランヴェール岐山

演題 「八一・孝作そして波郷」

講師 獅子門道統四十一世・俳詩『獅子吼』主宰

大野 鶴士 先生

参加者 六十五名

(3) 半田支部公開書道研修会

平成三十年九月二十三日(日) 半田市福祉文化会館

内容 「近代詩文のいろは」書法解説及び実技指導

講師 武内 峰敏 先生

参加者 四十七名

II 福祉事業(公益目的事業2)

二〇一八年チャリティー愛の募金

―しあわせ薄い人々に愛の手を―

寄 託

本部より中日新聞社事業団へ 二百万円
 東海テレビ福祉文化事業団へ 百万円
 各支部より中日新聞社支局等を通じ、
 中日新聞社事業団に寄託

一宮支部より中日新聞一宮総局へ 十万円
 半田支部より中日新聞半田支局へ 十万円
 西三河支部より中日新聞岡崎支局へ 十万円
 東三河支部より中日新聞豊橋総局へ 十万円
 濃飛支部より中日新聞中津川通信局へ 十万円
 北勢支部より中日新聞四日市支局へ 十万円
 中南勢支部より中日新聞三重総局へ 十万円
 岐阜支部より中日新聞岐阜支局へ 十万円

III その他の事業（相互扶助等事業）

1 書道に関する調査研究および発表

調査研究及び発表

2 書道教育者養成及び普及事業

(1) 書道教育者の推薦制度 三件

(2) 外国研修旅行補助 五件

3 展覧会事業

(1) 第二十七回寿書展

会 期 平成三十年十一月二十七日(火)～十二月二日(日)
 会 場 電気文化会館 東西ギャラリー

出品点数 一五七点
 中日支部展・支部選抜展

(2) 中日支部展・支部選抜展

① 一宮支部

第六十四回支部書道展

会 期 平成三十年十一月二十四日(土)～二十五日(日)
 会 場 一宮市スポーツ文化センター

出品点数 一九七点

② 半田支部

第五十二回半田支部展

会 期 平成三十年九月二十三日(日)～二十四日(月祝)
 会 場 半田市福祉文化会館

出品点数 一二六件

③ 西三河支部

第五十一回西三河支部会員展

会 期 平成三十一年二月二十日(水)～二十四日(日)
 会 場 岡崎市美術館

出品点数 一八四件

④ 東三河支部

東三河支部展

会 期 平成三十年七月十日(火)～七月十五日(日)
 会 場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム

出品点数 一二七点

⑤ 東三河支部選抜展

会 期 平成三十一年二月五日(火)～十日(日)
 会 場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム

出品点数 六十五点

⑥ 濃飛支部展

会 期 平成三十年七月二十七日(金)～二十九日(日)
 会 場 恵那市恵那文化センター

出品点数 六十四点

⑦ 北勢支部展

会 期 平成三十年七月二十日(金)～二十二日(日)
 会 場 四日市市文化会館

出品点数 九十九点

⑧ 中南勢支部展

会 期 平成三十年十一月十四日(水)～十八日(日)
 会 場 三重県立美術館(県民ギャラリー)

出品点数 七十七点

⑨ 岐阜支部

第二十四回岐阜支部展

会 期 平成三十年九月十四日(金)～十六日(日)
 会 場 岐阜市民会館

出品点数 二六一点

⑩ 愛知県・江蘇省友好書道展

会 期 平成三十年六月十九日(火)～二十四日(日)
 会 場 電気文化会館

出品点数 六十点

4 講習会・講演会・研究会・研修会事業

(1) 講習会

① 東三河支部

平成三十一年二月十日(日)
 豊川市桜ヶ丘ミュージアム

内 容 「絵手紙を書く」

講 師 画家 山内 伸 先生

参加者 三十名

② 北勢支部

平成三十一年二月十七日(日) じばさん三重

内 容 「ハガキに小さな絵を描こう」

講 師 日本画家 宇野 サチノ 先生

参加者 三十名

(2) 講演会

① 北勢支部

平成三十年七月二十二日(日) 四日市市文化会館

演 題 「近代詩文書を書く」

講 師 黒田 玄夏 先生

参加者 一〇六名

② 中南勢支部

平成三十年十一月十七日(土)

演 題 「半泥子の思い出」

講 師 川喜多半泥子の御孫 川喜多 久 氏

参加者 八十二名

(3) 研究会

① 西三河支部

平成三十一年三月十七日(日) 安城市文化センター

中日書道展 作品研究会

参加者 一〇六名

(4) 研修会

① 一宮支部

平成三十年十月二十八日(日)

「澄懷堂美術館」「パラミタミュージアム」

参加者 八十三名

② 半田支部

平成三十年十一月十一日(日)

「高田本山・専修寺」「石水博物館」「澄懷堂美術館」

参加者 三十八名

③ 西三河支部

平成三十年十月三十日(火)

京都「実相院」「龍安寺」

参加者 三十八名

④ 東三河支部

平成三十年十月二十八日(日)

MOA美術館

参加者 四十名

⑤ 濃飛支部

平成三十年十一月十一日(日)

「澄懷堂美術館」「パラミタミュージアム」

参加者 二十名

⑥ 北勢支部

平成三十年十一月十八日(日)

「黄檗山萬福寺」「史跡 寺田屋」

参加者 三十六名

⑦ 中南勢支部

平成三十年十月二十一日(日)

「道風記念館」「メナード美術館」

参加者 六十八名

⑧ 岐阜支部

平成三十年十一月二十二日(木)

奈良「石山寺・延暦寺」国宝を訪ねて」

参加者 三十四名

5 福利厚生事業

① 塾総合保険 六十八件 一、六〇二名

6 老人会色紙贈呈

半田支部

平成三十年八月三十一日(金)

寄贈数 六四〇点

寄贈先 半田市・武豊町・阿久比町・東浦町・美浜町・南知多町の各役所・役場から長寿者に贈呈

7 組織拡大事業

- ・ 会員増、各種展覧会出品者増の促進を図った。
- ・ 会員章（門章・襟章）の交付

8 広報活動事業

(1) 中日会報

一八八号 平成三十年四月一日付け発行

一八九号 平成三十年八月一日付け発行

一九〇号 平成三十年十月一日付け発行

一九一号 平成三十一年一月一日付け発行

(2) 支部会報

① 一宮支部

四十七号 平成三十年六月一日付け発行

② 半田支部

七十九号 平成三十年五月十日付け発行

八十号 平成三十年十月十日付け発行

③ 西三河支部

七十五号 平成三十年六月一日付け発行

七十六号 平成三十年十二月一日付け発行

④ 東三河支部

七十号 平成三十年十月一日付け発行

⑤ 濃飛支部

五号 平成三十一年二月一日付け発行

⑥ 北勢支部

八号 平成三十一年三月付け発行

⑦ 岐阜支部

五十一号 平成三十年七月三十一日付け発行

五十二号 平成三十一年二月二十一日付け発行

(3) ホームページ

随時更新

9 資料文献収集保存事業

継続中

10 書道功労者等顕彰事業

表彰期日 平成三十年六月二十四日(日)

会 場 ナゴヤキャッスルホテル

平成二十九年功労者として、次の十三氏に表彰状ならびに感謝状を贈呈した。

表彰状

伊藤 昌石、松永 清石、黒野 清宇、中島 藍川

感謝状

上田 賦草、近藤 浩平、佐藤 慶雲、富田 栄楽、中野 玉英、小島 瑞柳、山田 杏華、岩田 潤流、林 玲玉

IV 管理業務

本会の事業の遂行のため以下の会議をそれぞれ開催した。

1 総会

平成三十年六月二十四日(日)

ナゴヤキャッスルホテルにて開催

次の議案について審議、原案の通り議決した。

第一号議案 平成二十九年事業報告書の承認に関する件

第二号議案 平成二十九年収支決算書の承認に関する件

第三号議案 財産目録の承認に関する件

監査報告

報告事項 名譽顧問の承認に関する件

会計処理規定の制定について

2 理事会

・ 第一回理事会

平成三十年六月二日(土) 本部にて開催

次の議案について審議、原案通り議決した。

第一号議案 平成三十年事業報告提出議案について

(1) 平成二十九年事業報告に関する件

(2) 平成二十九年収支報告に関する件

(3) 財産目録の承認に関する件

監査報告

第二号議案 平成三十年総会の日時及び場所並びに目的である事項の承認に関する件

第三号議案 会計処理規定の制定に関する件

第四号議案 名譽顧問の承認に関する件

・ 第二回理事会

平成三十一年二月三日(日) 名古屋観光ホテルにて開催

次の議案について審議、原案の通り議決した。

第一号議案 平成三十一年度事業計画(案)に関する件

第二号議案 平成三十一年度予算(案)に関する件

第三号議案 審査会員の承認に関する件

第四号議案 特別昇格者の承認に関する件

第五号議案 評議員の承認に関する件

第六号議案 正会員の承認に関する件

第七号議案 名譽顧問の承認に関する件

第八号議案 新役員選考委員の選出に関する件

3 評議員会

平成三十一年二月三日(日) 名古屋観光ホテルにて開催

次の事項について報告をした。

(1) 平成三十一年度事業計画書について

(2) 平成三十一年度収支予算書について

(3) 評議員の承認について

(4) 正会員の承認について

(5) 審査会員の承認について

4 企画委員会

(1) 第一回企画委員会

平成三十年四月八日(日) キャッスルプラザ

(2) 第二回企画委員会

平成三十年六月二日(土) 本部

(3) 第三回企画委員会

平成三十年六月二十四日(日)

ナゴヤキャッスルホテル

(4) 第四回企画委員会

平成三十年七月十五日(日)

名鉄ニューグランドホテル

(5) 第五回企画委員会

平成三十年九月十七日(月・祝) 本部

(6) 第六回企画委員会

平成三十年十月十三日(土) 本部

(7) 第七回企画委員会

平成三十年十一月四日(日) 本部

(8) 第八回企画委員会

平成三十年十二月九日(日) 本部

(9) 第九回企画委員会

平成三十一年一月五日(土) 本部

(10) 第十回企画委員会

平成三十一年二月三日(日) 名古屋観光ホテル

(11) 第十一回企画委員会

平成三十一年三月十七日(日) 本部

第2号議案 平成30年度収支決算書の承認に関する件

平成30年度 収支計算書

〔自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日〕

Main financial statement table with columns for Item (科目), Amount (金額), and Description (説明). Rows include 1. 事業活動収入 (Income from Business Activities) and 2. 事業活動支出 (Expenditure from Business Activities).

Summary table for regional branches (支部別内訳) and overall totals (合計). Columns represent different regions: 一宮, 半田, 西三河, 東三河, 濃飛, 北勢, 中南勢, 岐阜, and 合計.

第 3 号議案 財産目録の承認に関する件

財 産 目 録

平成31年 3 月31日現在

| | |
|---------|--------------------------|
| | 円 |
| 総 資 産 額 | 118,010,720 [Ⓐ] |
| 基 本 財 産 | 30,000,000 |
| 運 用 財 産 | 88,010,720 |
| 負 債 | 530,295 |

| | | 円 | |
|--------------------------|-------------------|------------|-----------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| ①現金預金（運用資産） | | | |
| (1) 現 金 | 本部 現金 | 1,194,447 | |
| | 一宮支部 現金 | 849,032 | |
| | 半田支部 現金 | 0 | |
| | 西三河支部 現金 | 282,000 | |
| | 東三河支部 現金 | 152,590 | |
| | 濃飛支部 現金 | 102,218 | |
| | 北勢支部 現金 | 83,513 | |
| | 中南勢支部 現金 | 143,784 | |
| | 岐阜支部 現金 | 16,541 | |
| | 現金合計 | 2,824,125 | |
| (2) 普 通 預 金 | 三菱 UFJ 銀行柳橋支店 | 916,104 | ①-1 |
| | 三菱 UFJ 銀行柳橋支店（理） | 189,137 | ② |
| | 三菱 UFJ 銀行新名古屋駅前支店 | 49,571 | ③-1 |
| | 大垣共立銀行菊井町支店 | 633,269 | ④ |
| | 瀬戸信用金庫名古屋支店 | 220,488 | ⑤-1 |
| | 一宮支部 ゆうちょ銀行 | 48,217 | ⑥-1 |
| | 半田支部 半田信用金庫 | 50,000 | ⑦ |
| | 西三河支部 瀬戸信用金庫 | 0 | ⑧-1 |
| | 西三河支部 ゆうちょ銀行 | 393,875 | ⑨ |
| | 西三河支部 中央信金 | 887,717 | ⑩ |
| | 東三河支部 ゆうちょ銀行 | 380,368 | ⑪ |
| | 濃飛支部 ゆうちょ銀行 | 7,614 | ⑫ |
| | 北勢支部 ゆうちょ銀行 | 1,825 | ⑬ |
| | 岐阜支部 十六銀行 | 769,150 | ⑭ |
| | 普通預金合計 | 4,547,335 | |
| (3) 郵 便 振 替 | 本部 名古屋中央郵便局 | 19,909 | ⑮ |
| | 一宮支部 郵便振替 | 0 | ⑯ |
| | 半田支部 郵便振替 | 192,855 | ⑰ |
| | 西三河支部 郵便振替 | 0 | ⑱-1、2 |
| | 東三河支部 郵便振替 | 260,300 | ⑲ |
| | 濃飛支部 郵便振替 | 0 | ⑳ |
| | 北勢支部 郵便振替 | 9,602 | ㉑ |
| | 中南勢支部 郵便振替 | 322,268 | ㉒ |
| | 岐阜支部 郵便振替 | 29,373 | ㉓ |
| | 郵便振替合計 | 834,307 | |
| (4) 定 期 預 金 | 三菱 UFJ 銀行柳橋支店 | 648,000 | ①-2 |
| | 三菱 UFJ 銀行名古屋駅前支店 | 552,000 | ③-2 |
| | 大垣共立銀行菊井町支店 | 0 | |
| | 定期預金合計 | 1,200,000 | |
| ②前払金（運用資産） | 過払金 | 0 | |
| | 前払金合計 | 0 | |
| ③未収金（運用資産） | 未収会費 | 888,000 | 年会費、協賛会費 |
| | 流動資産合計 | 10,293,767 | |
| 2. 固定資産 | | | |
| ①基本財産 | | | |
| (1) 土 地 | 該当なし | | |
| (2) 建 物 | 該当なし | | |
| (3) 基 本 財 産 | 瀬戸信用金庫名古屋支店 | 30,000,000 | 本部 公益目的保有財産 ⑤-2 |
| (4) 有 価 証 券 | 該当なし | | |
| (5) 機 械 器 具 | 該当なし | | |
| | 基本財産合計 | 30,000,000 | |
| ②特 定 資 産（運 用 財 産） | | | |
| (1) 土 地 | 該当なし | | |
| (2) 建 物 | 該当なし | | |
| (3) 特 定 資 産 | 三菱 UFJ 銀行新名古屋駅前支店 | 48,948,000 | 本部 公益目的保有財産 ③-2 |
| | 三菱 UFJ 銀行柳橋支店 | 0 | 本部 公益目的保有財産 ①-3 |
| | 野村証券岐阜支店 | 20,133,400 | 本部 公益目的保有財産 ㉔ |
| 国 債（20年） | | | |
| 本部積立金 | | | |
| 90周年記念事業積立金 | 三菱 UFJ 銀行柳橋支店 | 1,900,000 | 令和 6 年用 ①-2 |
| 設備拡充資金積立金 | 三菱 UFJ 銀行柳橋支店 | 300,000 | ①-2 |
| 名簿費引当金 | 三菱 UFJ 銀行柳橋支店 | 500,000 | ①-2 |
| 退職給付引当金 | 三菱 UFJ 銀行柳橋支店 | 978,000 | ①-2 |
| 支部積立金 | | | |

| | | | |
|------------------|------------|-------------|--------------------|
| 一宮支部70周年記念事業積立金 | ゆうちょ銀行 | 350,000 | 令和6年用 ⑥-2 |
| 半田支部記念事業積立金 | 半田信用金庫 | 50,000 | 令和5年用 ⑦-2 |
| 西三河支部55周年記念事業積立金 | 愛知県中央信用組合 | 500,000 | 令和4年用 ⑧-2 |
| 北勢支部40周年記念事業積立金 | 百五銀行東員支店 | 90,000 | 令和8年用 ⑨ |
| | 特定資産合計 | 73,749,400 | |
| ③その他の固定資産 (運用財産) | | | |
| (1) 備 品 | パソコン | 1 | 本部 公益目的保有財産 |
| | プロジェクター | 1 | 本部 公益目的保有財産 |
| | 印章 | 1 | 本部 公益目的保有財産 |
| | パソコン | 1 | 本部 公益目的保有財産 |
| | マークシート読取機 | 843,696 | 本部 公益目的保有財産 |
| (2) そ の 他 | 電話加入権 | 171,533 | 本部 公益目的保有財産 |
| | 保証金 | 2,952,320 | 本部 公益目的保有財産 株式会社桑山 |
| | その他の固定資産合計 | 3,967,553 | |
| | 固定資産合計 | 107,716,953 | |
| | 資産合計 | 118,010,720 | ① |
| 3. 負債 | 預り金 | 113,067 | 1～3月分源泉所得税 |
| | | 11,200 | 3月分市県民税 |
| | | 217,008 | 2・3月分社会保険料 |
| | 預り金合計 | 341,275 | |
| | 前受金 | 94,000 | 東三河支部 |
| | 未払金 | 47,500 | 名古屋市法人税 |
| | | 47,520 | 書道教育者推薦看板 |
| | 未払金合計 | 95,020 | |
| | 負債合計 | 530,295 | |

貸 借 対 照 表

平成31年3月31日現在

| 科 目 | 当 期 (A) | 前 期 (B) | 増 減 (A) - (B) | 説 明 |
|---------------------|-------------|-------------|---------------|---------------|
| | 円 | 円 | 円 | |
| I 資産の部 | | | | |
| 1. 流 動 資 産 | | | | |
| ① 現 金 預 金 | | | | |
| 現 金 | 2,824,125 | 2,189,946 | 634,179 | |
| 普 通 預 金 | 4,547,335 | 3,779,942 | 767,393 | |
| 郵 便 振 替 預 金 | 834,307 | 927,511 | △ 93,204 | |
| 定 期 預 金 | 1,200,000 | 1,200,000 | 0 | |
| 現 金 預 金 合 計 | 9,405,767 | 8,097,399 | 1,308,368 | |
| ② 前 払 費 用 | | | | |
| 前 払 費 用 | 0 | 0 | 0 | |
| 過 払 金 | 0 | 0 | 0 | |
| 仮 払 金 | 0 | 0 | 0 | |
| 前 払 金 合 計 | 0 | 0 | 0 | |
| ③ 預 け 金 | | | | |
| 源 泉 税 | | 0 | 0 | |
| 市 県 民 税 | | 0 | 0 | |
| 社 会 保 険 料 | | 0 | 0 | |
| 預 け 金 合 計 | 0 | 0 | 0 | |
| ④ 未 収 会 費 | 888,000 | 2,136,000 | △ 1,248,000 | |
| 流 動 資 産 合 計 | 10,293,767 | 10,233,399 | 60,368 | |
| 2. 固 定 資 産 | | | | |
| ① 基 本 財 産 | | | | |
| 定期預金 公益目的保有財産 | 30,000,000 | 30,000,000 | 0 | |
| ② 特 定 資 産 | | | | |
| 定期預金 公益目的保有財産 | 48,948,000 | 48,948,000 | 0 | |
| 20年国債 公益目的保有財産 | 20,133,400 | 20,133,400 | 0 | |
| 本 部 積 立 金 | 3,678,000 | 2,584,000 | 1,094,000 | |
| 支 部 積 立 金 | 990,000 | 340,000 | 650,000 | |
| 特 定 資 産 合 計 | 73,749,400 | 72,005,400 | 1,744,000 | |
| ③ そ の 他 の 固 定 資 産 | | | | |
| 備品 公益目的保有財産 | 843,700 | 1,415,631 | △ 571,931 | |
| 電話加入権 公益目的保有財産 | 171,533 | 171,533 | 0 | |
| 保証金 公益目的保有財産 | 2,952,320 | 2,952,320 | 0 | 桑山ビル分 |
| そ の 他 の 固 定 資 産 合 計 | 3,967,553 | 4,539,484 | △ 571,931 | |
| 固 定 資 産 合 計 | 107,716,953 | 106,544,884 | 1,172,069 | |
| 資 産 合 計 | 118,010,720 | 116,778,283 | 1,232,437 | |
| II 負債の部 | | | | |
| 1. 流 動 負 債 | | | | |
| 預 り 金 | 341,275 | 230,045 | 111,230 | 源泉税、社会保険料ほか |
| 前 受 金 | 94,000 | 172,000 | △ 78,000 | 東三河支部受取会費 |
| 未 払 金 | 95,020 | 388,992 | △ 293,972 | 法人税、書道教育者推薦看板 |
| 流 動 負 債 合 計 | 530,295 | 791,037 | △ 260,742 | |
| 2. 固 定 負 債 | | | | |
| 固 定 負 債 合 計 | 0 | 0 | 0 | |
| 負 債 合 計 | 530,295 | 791,037 | △ 260,742 | |
| III 正味財産の部 | | | | |
| 1. 一 般 正 味 財 産 | 117,480,425 | 115,987,246 | 1,493,179 | |
| 正 味 財 産 合 計 | 117,480,425 | 115,987,246 | 1,493,179 | ② |
| 負 債 及 び 正 味 財 産 合 計 | 118,010,720 | 116,778,283 | 1,232,437 | ① |

正味財産増減計算書

自 平成30年 4 月 1 日
至 平成31年 3 月 31 日

| 科 目 | 当 期 (A) | 前 期 (B) | 増 減 (A) - (B) | 説 明 |
|------------------|-------------|-------------|---------------|-----|
| | 円 | 円 | 円 | |
| I 一般正味財産増減の部 | | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | |
| ① 基本財産運用利益 | | | | |
| 1 基本財産受取利息 | 73,500 | 73,500 | 0 | |
| ② 特定資産運用利益 | | | | |
| 1 特定資産受取利息 | 245,271 | 249,009 | △ 3,738 | |
| ③ 受取会費 | | | | |
| 1 理事監事受取会費 | 462,000 | 448,000 | 14,000 | |
| 2 評議員受取会費 | 14,196,000 | 14,280,000 | △ 84,000 | |
| 3 正会員受取会費 | 18,128,000 | 19,072,000 | △ 944,000 | |
| 4 準会員受取会費 | 1,950,000 | 2,095,000 | △ 145,000 | |
| 5 協賛会員受取会費 | 1,025,000 | 1,100,000 | △ 75,000 | |
| 会費収入 | 35,761,000 | 36,995,000 | △ 1,234,000 | |
| ④ 未収会費発生額 | | | | |
| 1 未収会費 | 779,000 | 1,220,000 | △ 441,000 | |
| ⑤ 事業収益 | | | | |
| 1 寿書展参加料 | 785,000 | 724,000 | 61,000 | |
| 2 支部展参加料 | 5,461,500 | 6,914,000 | △ 1,452,500 | |
| 3 支部学生展参加料 | 5,354,895 | 5,539,215 | △ 184,320 | |
| 4 支部選抜展参加料 | 315,000 | 345,000 | △ 30,000 | |
| 5 支部研修会参加料 | 2,965,000 | 3,157,400 | △ 192,400 | |
| 6 支部講習会参加料 | 45,400 | 92,000 | △ 46,600 | |
| 7 書道教育者推薦教室看板料 | 75,000 | 200,000 | △ 125,000 | |
| 8 塾総合保険料 | 204,810 | 229,760 | △ 24,950 | |
| 9 会員交流参加料 | 0 | 400,000 | △ 400,000 | |
| 10 公開講座参加料 | 246,000 | 196,000 | 50,000 | |
| 11 書道教育研修参加料 | 24,000 | 66,000 | △ 42,000 | |
| 12 80周年記念事業収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 13 中日書展収入 | 44,836,700 | 46,659,900 | △ 1,823,200 | |
| 14 中日書きぞめ展収入 | 5,585,440 | 5,740,380 | △ 154,940 | |
| 15 愛の募金収入 | 4,203,000 | 4,353,000 | △ 150,000 | |
| 16 本部祝賀会収入 | 15,708,168 | 16,430,000 | △ 721,832 | |
| 17 支部祝賀会収入 | 2,041,500 | 2,458,000 | △ 416,500 | |
| 事業収益計 | 87,851,413 | 93,504,655 | △ 5,653,242 | |
| ⑥ 受取寄付金 | | | | |
| 1 受取寄付金 | 0 | 0 | 0 | |
| ⑦ 雑収益 | | | | |
| 1 普通預金受取利息 | 69 | 40 | 29 | |
| 2 会員名簿広告料収入 | 0 | 960,000 | △ 960,000 | |
| 3 宛名ラベル発行手数料収入 | 445,385 | 260,700 | 184,685 | |
| 4 負担金収入 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 5 雑収益 | 35,080 | 4,500 | 30,580 | |
| 雑収益計 | 580,534 | 1,325,240 | △ 744,706 | |
| 経常収益計 | 125,290,718 | 133,367,404 | △ 8,076,686 | |
| (2) 経常費用 | | | | |
| ① 経常費用 | | | | |
| 1 理事監事報酬 | 1,174,393 | 1,095,734 | 78,659 | |
| 2 名誉会長報酬 | 103,700 | 214,296 | △ 110,596 | |
| 3 名誉会長代行報酬 | 61,894 | 64,079 | △ 2,185 | |
| 4 名誉副会長報酬 | 41,260 | 31,674 | 9,586 | |
| 5 学術顧問報酬 | 111,370 | 331,320 | △ 219,950 | |
| 6 企画委員を兼務する評議員報酬 | 660,096 | 658,495 | 1,601 | |
| 7 従業員給料手当 | 4,856,786 | 4,784,938 | 71,848 | |
| 8 退職金 | 0 | 0 | 0 | |
| 9 臨時雇賃金 | 1,602,580 | 1,151,218 | 451,362 | |
| 10 福利厚生費 | 35,086 | 40,501 | △ 5,415 | |
| 11 報償謝金 | 2,875,502 | 2,632,991 | 242,511 | |
| 12 報償奨励金 | 7,023,791 | 7,704,422 | △ 680,631 | |
| 13 報償交際費 | 1,029,393 | 937,029 | 92,364 | |
| 14 旅費交通費 | 11,859,049 | 12,828,260 | △ 969,211 | |
| 15 食糧費 | 6,029,065 | 8,828,336 | △ 2,799,271 | |
| 16 消耗品費 | 1,128,413 | 1,268,719 | △ 140,306 | |
| 17 印刷製本費 | 15,539,719 | 19,732,677 | △ 4,192,958 | |
| 18 光熱水費 | 414,814 | 305,502 | 109,312 | |
| 19 通信運搬費 | 6,500,719 | 6,622,331 | △ 121,612 | |
| 20 手数料 | 623,763 | 677,259 | △ 53,496 | |
| 21 事務所用賃料 | 7,771,980 | 7,771,980 | 0 | |
| 22 使役所用器備品料 | 7,332,189 | 8,006,209 | △ 674,020 | |
| 23 消耗什器備品費 | 261,640 | 38,966 | 222,674 | |
| 24 租税公課 | 47,500 | 23,700 | 23,800 | |
| 25 負担金 | 774,400 | 794,400 | △ 20,000 | |

| | | | | |
|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 26 | 委託料 | 4,613,643 | 5,469,453 | △ 855,810 |
| 27 | 寄託費 | 3,962,920 | 3,900,000 | 62,920 |
| 28 | 補助成 | 100,000 | 358,000 | △ 258,000 |
| 29 | 法定助福 | 920,322 | 758,828 | 161,494 |
| 30 | 会員交 | 0 | 501,730 | △ 501,730 |
| 31 | 対外広報 | 7,839,400 | 7,838,200 | 1,200 |
| 32 | 会議費 | 4,297,994 | 4,631,067 | △ 333,073 |
| 33 | 保険料 | 257,690 | 271,610 | △ 13,920 |
| 34 | 新聞図書 | 137,978 | 37,032 | 100,946 |
| 35 | 表装保管 | 1,988,773 | 1,956,500 | 32,273 |
| 36 | 本部講演会祝賀会費 | 17,326,164 | 16,363,081 | 963,083 |
| 37 | 支部展覧会講演会費 | 2,422,622 | 2,588,904 | △ 166,282 |
| 38 | 雑器備品 | 0 | 0 | 0 |
| 39 | 什器備品減価償却費 | 571,931 | 588,627 | △ 16,696 |
| ② | 経常費用計 | 122,298,539 | 131,808,068 | △ 9,509,529 |
| ② | 未収会費貸倒額 | 1,499,000 | 170,000 | 1,329,000 |
| 1 | 未収会費貸倒額 | 123,797,539 | 131,978,068 | △ 8,180,529 |
| ② | 当期経常増減額 | 1,493,179 | 1,389,336 | 103,843 |
| 2. | 経常外増減の部 | | | |
| (1) | 経常外収益 | 0 | 0 | 0 |
| (2) | 経常外費用 | 0 | 0 | 0 |
| | 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| | 当期一般正味財産増減額 | 1,493,179 | 1,389,336 | 103,843 |
| | 一般正味財産期首残高 | 115,987,246 | 114,597,910 | 1,389,336 |
| | 一般正味財産期末残高 | 117,480,425 | 115,987,246 | 1,493,179 |
| II | 指定正味財産増減の部 | | | |
| | 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 |
| | 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 |
| | 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 |
| III | 正味財産期末残高 | 117,480,425 | 115,987,246 | 1,493,179 |

正味財産増減計算書

(損益計算ベースかつ事業別に区分したもの)
平成30年4月1日から平成31年3月31日まで
公益社団法人 中部日本書道会

(単位 円)

| 科目 | 公益目的事業会計 | | 収益事業等会計 | 法人会計 | 合計 | 備考 |
|--------------|------------|----|-----------|-----------|------------|----|
| | 公1 | 公2 | 他1 | | | |
| I 一般正味財産増減の部 | | | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | | | |
| ① 基本財産運用収入 | | | | | | |
| 基本財産運用収入 | 73,500 | 0 | 0 | 0 | 73,500 | |
| ② 特定資産運用収入 | | | | | | |
| 特定資産運用収入 | 245,271 | 0 | 0 | 0 | 245,271 | |
| ③ 会費収入 | | | | | | |
| 理事監事会費収入 | 231,000 | 0 | 46,200 | 184,800 | 462,000 | |
| 評議員参与会費収入 | 7,098,000 | | 1,419,600 | 5,678,400 | 14,196,000 | |
| 正会員会費収入 | 9,064,000 | 0 | 1,812,800 | 7,251,200 | 18,128,000 | |
| 準会員会費収入 | 975,000 | 0 | 195,000 | 780,000 | 1,950,000 | |
| 協賛会員会費収入 | 512,500 | 0 | 102,500 | 410,000 | 1,025,000 | |
| ④ 未収会費 | | | | | | |
| 未収会費 | 389,500 | 0 | 77,900 | 311,600 | 779,000 | |
| ⑤ 事業収益 | | | | | | |
| 寿書展収入 | 0 | 0 | 785,000 | 0 | 785,000 | |
| 支部展収入 | 0 | 0 | 5,461,500 | 0 | 5,461,500 | |
| 支部学生展収入 | 5,354,895 | 0 | 0 | 0 | 5,354,895 | |
| 支部選抜展収入 | 0 | 0 | 315,000 | 0 | 315,000 | |
| 支部研修会収入 | 0 | 0 | 2,965,000 | 0 | 2,965,000 | |
| 支部講習会収入 | 0 | 0 | 45,400 | 0 | 45,400 | |
| 書道教育者推薦教室看板料 | 0 | 0 | 75,000 | 0 | 75,000 | |
| 塾総合保険料 | 0 | 0 | 204,810 | 0 | 204,810 | |
| 会員交流参加料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 公開講座参加料 | 246,000 | 0 | 0 | 0 | 246,000 | |
| 書道教育研修参加料 | 0 | 0 | 24,000 | 0 | 24,000 | |
| 周年記念事業収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 中日展収入 | 44,836,700 | 0 | 0 | 0 | 44,836,700 | |
| 中日書きぞめ展収入 | 5,585,440 | 0 | 0 | 0 | 5,585,440 | |

| | | | | | | |
|---------------|-------------|-----------|------------|------------|-------------|-----------------------|
| 愛の募金収入 | 0 | 4,203,000 | 0 | 0 | 4,203,000 | |
| 本部祝賀会収入 | 0 | 0 | 15,708,168 | 0 | 15,708,168 | |
| 支部祝賀会収入 | 0 | 0 | 2,041,500 | 0 | 2,041,500 | |
| ⑥ 寄付金収入 | | | | | | |
| 寄付金収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | FAQ VI -1- ① |
| ⑦ 雑収入 | | | | | | |
| 普通預金受取利息 | 0 | 0 | 0 | 69 | 69 | |
| 会員名簿広告料収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 宛名ラベル発行手数料収入 | 0 | 0 | 0 | 445,385 | 445,385 | |
| 負担金収入 | 100,000 | 0 | 0 | 0 | 100,000 | 一宮芸術祭交付金 FAQ VI -1- ① |
| 雑収入 | 0 | 0 | 0 | 35,080 | 35,080 | |
| 経常収益計 | 74,711,806 | 4,203,000 | 31,279,378 | 15,096,534 | 125,290,718 | |
| (2) 経常費用 | | | | | | |
| 理事監事報酬 | 0 | 0 | 0 | 1,174,393 | 1,174,393 | |
| 名誉会長報酬 | 0 | 0 | 0 | 103,700 | 103,700 | |
| 名誉会長代行報酬 | 0 | 0 | 0 | 61,894 | 61,894 | |
| 名誉副会長報酬 | 0 | 0 | 0 | 41,260 | 41,260 | |
| 学術顧問報酬 | 0 | 0 | 0 | 111,370 | 111,370 | |
| 企画委員兼務評議員報酬 | 528,078 | 0 | 66,009 | 66,009 | 660,096 | |
| 従業員給料手当 | 3,885,430 | 0 | 485,678 | 485,678 | 4,856,786 | 職員給与・賞与 |
| 退職給付 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 臨時雇賃金 | 1,442,322 | 0 | 160,258 | 0 | 1,602,580 | 中日展・寿展 |
| 福利厚生費 | 28,070 | 0 | 3,508 | 3,508 | 35,086 | |
| 報償謝金 | 2,300,402 | 0 | 287,550 | 287,550 | 2,875,502 | 各種謝礼／税理士・司法書士等 |
| 報償奨励 | 6,321,412 | 0 | 702,379 | 0 | 7,023,791 | 賞品代・記念品代／支部賞品代・記念品代 |
| 報償交際 | 0 | 0 | 514,697 | 514,696 | 1,029,393 | 支部事業交際費／慶弔等 |
| 旅費交通費 | 10,673,145 | 0 | 1,185,904 | 0 | 11,859,049 | 作業時交通費等 |
| 食糧費 | 5,426,159 | 0 | 602,906 | 0 | 6,029,065 | 作業時交通費等 |
| 消耗品費 | 902,731 | 0 | 112,841 | 112,841 | 1,128,413 | |
| 印刷製本費 | 11,000,000 | 300,000 | 3,200,000 | 1,039,719 | 15,539,719 | 会報その他 |
| 光熱水費 | 331,852 | 0 | 41,481 | 41,481 | 414,814 | 本部事務所電気、冷暖房 |
| 通信運搬費 | 5,200,577 | 0 | 650,071 | 650,071 | 6,500,719 | 電話、郵送料等 |
| 手数料 | 499,011 | 0 | 62,376 | 62,376 | 623,763 | 振込料 |
| 事務所賃料 | 6,217,584 | 0 | 777,198 | 777,198 | 7,771,980 | 本部事務所 |
| 使用料 | 5,865,753 | 0 | 733,218 | 733,218 | 7,332,189 | 会場使用料等／会議室 |
| 消耗什器備品費 | 209,312 | 0 | 26,164 | 26,164 | 261,640 | |
| 租税公課 | 0 | 0 | 0 | 47,500 | 47,500 | 法人税等 |
| 負担金 | 0 | 0 | 0 | 774,400 | 774,400 | 支部事業支払会費／諸会費 |
| 委託料 | 3,690,915 | 0 | 461,364 | 461,364 | 4,613,643 | 看板作成等／総会等看板 |
| 寄託費 | 0 | 3,962,920 | 0 | 0 | 3,962,920 | 愛の募金による寄託 ほか |
| 補助助成 | 0 | 0 | 100,000 | 0 | 100,000 | 外国研修補助 |
| 法定福利 | 736,258 | 0 | 92,032 | 92,032 | 920,322 | 職員社会保険、雇用保険 |
| 会員交流費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 対外広報費 | 6,271,520 | 0 | 783,940 | 783,940 | 7,839,400 | 中日新聞ほか掲載料 |
| 会議費 | 2,000,000 | 0 | 742,078 | 1,555,916 | 4,297,994 | |
| 保険料 | 0 | 0 | 0 | 257,690 | 257,690 | |
| 新聞図書費 | 0 | 0 | 0 | 137,978 | 137,978 | |
| 表装保管料 | 1,500,000 | 0 | 488,773 | 0 | 1,988,773 | |
| 本部講演会祝賀会費 | 0 | 0 | 17,326,164 | 0 | 17,326,164 | |
| 支部展覧会講演会費 | 0 | 0 | 2,422,622 | 0 | 2,422,622 | |
| 雑支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 什器備品減価償却費 | 457,545 | 0 | 57,193 | 57,193 | 571,931 | 備品 |
| 未収会費貸倒額 | 749,500 | | 149,900 | 599,600 | 1,499,000 | |
| 経常費用計 | 76,237,576 | 4,262,920 | 32,236,304 | 11,060,739 | 123,797,539 | |
| 当期経常増減額 | △ 1,525,770 | △ 59,920 | △ 956,926 | 4,035,795 | 1,493,179 | |
| 2. 経常外増減の部 | | | | | | |
| (1) 経常外収益 | | | | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| (2) 経常外費用 | | | | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 他会計振替額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 当期一般正味財産増減額 | △ 1,525,770 | △ 59,920 | △ 956,926 | 4,035,795 | 1,493,179 | |
| 一般正味財産期首残高 | | | | | 115,987,246 | 平成30年 3 月31日残高 |
| 一般正味財産期末残高 | | | | | 117,480,425 | |
| II 指定正味財産増減の部 | | | | | | |
| 一般正味財産への振替額 | | | | | 0 | |
| 当期指定正味財産増減額 | | | | | 0 | |
| 指定正味財産期首残高 | | | | | 0 | |
| 指定正味財産期末残高 | | | | | 0 | |
| III 正味財産期末残高 | | | | | 117,480,425 | |

財務諸表に対する注記

法人名：公益社団法人 中部日本書道会
事業名：事業全体

1 重要な会計方針

(1)固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、次の方式を採用している。

有形固定資産（建物を除く） 定額法

(2)引当金の計上基準

・職員退職給付引当金

職員に対する退職給付金の支給に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づいて計上している。

(3)リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっている。

(4)消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込経理方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

| 科 目 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 |
|-------|-------------|-----------|-------|-------------|
| 基本財産 | | | | |
| 基本金 | 30,000,000 | 0 | 0 | 30,000,000 |
| 小 計 | 30,000,000 | 0 | 0 | 30,000,000 |
| 特定資産 | | | | |
| 定期預金 | 48,948,000 | 0 | 0 | 48,948,000 |
| 20年国債 | 20,133,400 | 0 | 0 | 20,133,400 |
| 本部積立金 | 2,584,000 | 1,094,000 | | 3,678,000 |
| 支部積立金 | 340,000 | 650,000 | | 990,000 |
| 小 計 | 72,005,400 | 1,744,000 | 0 | 73,749,400 |
| 合 計 | 102,005,400 | 1,744,000 | 0 | 103,749,400 |

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

| 科 目 | 当期末残高 | (うち指定正味財産からの充当額) | (うち一般正味財産からの充当額) | (うち負債に対応する額) |
|-------|-------------|------------------|------------------|--------------|
| 基本財産 | | | | |
| 基本金 | 30,000,000 | (0) | (30,000,000) | (0) |
| 小 計 | 30,000,000 | (0) | (30,000,000) | (0) |
| 特定資産 | | | | |
| 定期預金 | 48,948,000 | (0) | (48,948,000) | (0) |
| 20年国債 | 20,133,400 | (0) | (20,133,400) | (0) |
| 本部積立金 | 3,678,000 | (0) | (3,678,000) | (0) |
| 支部積立金 | 990,000 | (0) | (990,000) | (0) |
| 小 計 | 73,749,400 | (0) | (73,749,400) | (0) |
| 合 計 | 103,749,400 | (0) | (103,749,400) | (0) |

4 減価償却資産の内訳

| 備 品 | 取得年月 | 法定耐用年数 | 取得価額 | 前期末価額 | 当期償却額 | 当期末価額 |
|-----------|--------|--------|-----------|-----------|---------|---------|
| プロジェクター | H20.10 | 5 | 119,700 | 1 | 0 | 1 |
| パソコン | H21.01 | 4 | 111,025 | 1 | 0 | 1 |
| 印章 | H26.04 | 5 | 500,000 | 100,000 | 99,999 | 1 |
| パソコン | H27.01 | 4 | 267,116 | 50,085 | 50,084 | 1 |
| マークシート読取機 | H28.04 | 5 | 2,109,240 | 1,265,544 | 421,848 | 843,696 |
| 合 計 | | | | 1,415,631 | 571,931 | 843,700 |

監 査 報 告 書

公益社団法人中部日本書道会
理事長 関 根 豊 殿

私たち監事は、平成30年4月1日より平成31年3月31日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を開覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る決算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告の監査結果

一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

令和元年5月6日

監 事 佐 野 純 一 (翠 峰) 印

監 事 伊 藤 義 文 (暁 嶺) 印

監 事 柘 英 樹 (英 峰) 印

令和元年度 第23回 書の魅力 公開講座 (予告)

日 時：令和元年11月17日 (日) ※寿展最終日

会 場：電気文化会館 イベントホール (5階)

日 程：受 付 12：30

開会あいさつ 13：00 (理事長)

第 1 講座 13：15～14：15

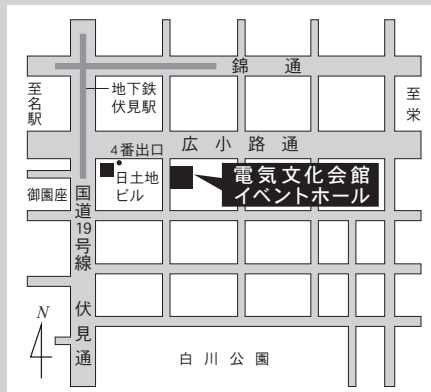
講 師：理 事 馬場紀行 先生

休 憩

第 2 講座 14：35～15：35

講 師：理 事 原田凍谷 先生

閉会のことば 15：35 (研究部)



第二十八回 壽書展案内 (予告)

会 期 令和元年十一月十二日(火)

十一月十七日(日)

会 場 電気文化会館

(五階 東・西ギャラリー)

社中展・個展のご案内

○第五十五回記念 麗筆会展

代表 麗筆会会長 森 隆城

会期 九月二十日(金)～二十二日(日)

会場 一宮スポーツ文化センター二階

○清晨会 PARTY II 書展

併設 学生選抜展

代表 吉田清城

会期 十一月十二日(火)～十七日(日)

会場 名古屋市民ギャラリー栄 八階

第九・十展示室

本会会員による書展のご案内を、会報及びHPにて掲載させていただきます。会報掲載には、展覧会案内原稿、HP掲載には展覧会案内ハガキをお送り下さい。次号掲載は、十一月下旬～二月中旬開催の展覧会となります。お申し込みは、九月末日までに本部までお願いします。

編集部

新入会員紹介

(四五六七号)

- 本山 彩蝶 支部
- 三井 恵子 支部
- 一宮 秋月 支部
- 小林 美川 支部
- 里中 紅華 支部
- 半田 千游 支部
- 井本 紫芳 支部
- 笠松 静雄 支部
- 東三 尊雄 支部
- 笠原 静華 支部
- 鈴木 夏代 支部
- 高橋 敬司 支部
- 内藤 記良 支部
- 橋本 千愛 支部
- 中南 節子 支部
- 江川 祥雲 支部
- 濃飛 祥雲 支部



あとがき

・令和元年初会報、第一九三号をお届けいたします。
・本号では、第六十九回中日展書道展及び公益社団法人中部日本書道会・創立八十五周年記念特別展示、講演会の特集、総会議案書等のご提示をさせて頂きました。
また、本年度の役員改選に於いて、新理事長に伊藤仙游先生が選任され、それに伴い選出されました新たな役員・企画委員の先生方のご紹介もさせて頂いております。
前理事長関根玉振先生には、二年間の大役お勤めお疲れさまでございました。引き続き本会へのお力添えを賜りますよう、宜しく申し上げます。編集部は、前年度と同様のスタッフで初心に返り、会報発行に携わってまいりますので宜しくお願い致します。
本会名誉顧問・田宮文平先生のご逝去に、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。長年に亘る中日書道展講評(ご寄稿に、感謝申し上げます。)

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>
メールアドレス info@cn-sho.or.jp

計 報

心より哀悼の意を表しご報告申し上げます。(厚生部)

- 4月21日 評議員 伊高美秀氏
- 5月23日 評議員 伊藤ヤス子様
- 5月23日 評議員 加島遊舟氏
- 5月 正会員 塩谷華舟氏
- 6月10日 監 事 伊藤曉嶺氏
- 6月27日 参 与 伊藤麻壽子様
- 6月27日 参 与 松原南流氏
- 6月27日 参 与 安藤鶴舟氏
- 7月20日 評議員 加古存春氏
- 7月20日 参 与 加古隆司様

享年 94

享年 89

享年 86

享年 96

享年 76

享年 86

享年 84